

CE9.15 Cisco Webex Desk Pro ユーザガイド

このユーザ ガイドの内容

概要

Cisco Webex Desk Pro	4
Bluetooth® ヘッドセットおよびその他デバイスを使用し たペアリング	5
音声設定新	6
USB カメラとしての使用	7
自分のログイン情報を使用してログオンする	8
ビデオ通話	
連絡先リストからのコールの発信	10
発信する前に連絡先を編集する	11
名前、番号、またはアドレスを使用してコールを配置する	12
着信通話	13
別のコール中にコールを受信する	14
通話から自分を切断する	15
通話を保留にする/保留中の通話を再開する	16
継続中のコールを転送	17
帯域の変更	18
応答不可を有効にする	19
すべてのコールの自動転送	20
通話中にキーパッドを表示	21
既存のコールへの参加者の追加	22
会議から参加者を切断	23
参加者をミーティングに参加することを認める NEW	24
ミーティング中のスピーカーの固定	25
ミュージックモードの使用	26
最近の通話のコール詳細検索	27

インテリジェント近接通信

Cisco 近接通信の超音波信号	29
------------------------	----

コンテンツ共有

通話中のコンテンツ共有	31
通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更	32
デジタルホワイトボードとして使用する	33
セッションを終了してデスク Pro をクリアする	34
有線タッチのリダイレクト	35

ミーティングのスケジュール

ミーティングのスケジュールに参加する	37
Webex ミーティングへの参加	38

コンタクト

お気に入り、発着信履歴、ディレクトリ	40
通話中に [お気に入り] に追加する	41
非通話時に [お気に入り] に追加する	42
既存のお気に入りを編集する	43

カメラ制御

自画面のオン/オフを切り替えます	45
セルフビュー PiP を移動する	46
遠端カメラ制御	47
ビデオ背景	48
手動カメラ制御	49

設定

利用可能な設定	51
---------------	----

格納ファイルのすべてのエントリは、対応記事に移動するためのアクティブハイパーリンクです。

チャプター間を移動するには、サイドバーのアイコンをクリックする方法もあります。

注: このユーザガイドで説明されている機能の一部は、特定の市場ではオプションである場合があります、お使いのデバイスに適用されない場合があります。



概要

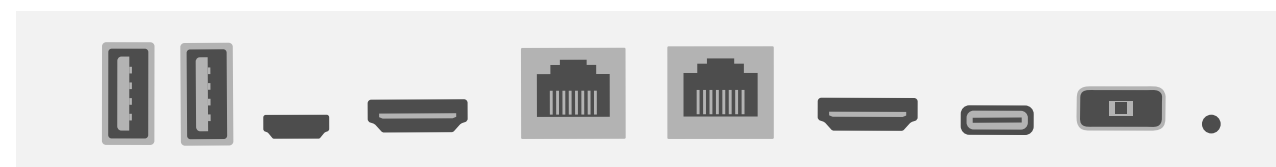
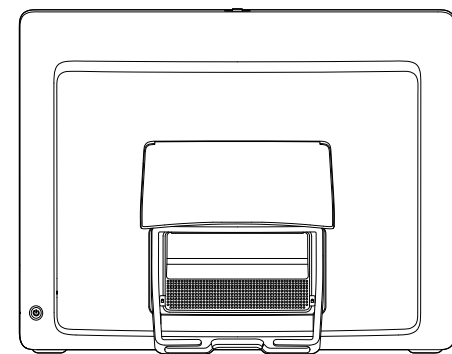
概要

Cisco Webex Desk Pro

PC モニターとして使用します。 HDMI または USB-C ケーブルを使用してコンピュータを接続します(以下を参照)。USB C ケーブルを使用している場合、ラップトップは同じケーブルを使用して課金することができます。

Desk Pro の PC画面を表示するには、共有および プレビューをタップします。

[応答不可] が有効である場合を除き、モード(PC または ビデオ)に関係なく、着信が通常どおりに表示されます。
[ページの「応答不可を有効にする」19を参照してください。](#)



- ① USB ポート
- ② サービスポート
- ③ HDMI 出力: スクリーン
- ④ ネットワーク 拡張接続。コンピュータネットワークをここで接続すると、Desk Pro とコンピュータで共通の接続を共有できます。
- ⑤ ネットワーク
- ⑥ HDMI 入力: コンテンツ シェアリング
- ⑦ USB-C コネクタ
- ⑧ 電源
- ⑨ 初期設定リセット ピンホール

USB ヘッドセット

Desk Pro は、USB 有線音声デバイス用の標準プロトコルを実装しています。

Desk Pro では Bluetooth ヘッドセットの使用もサポートされています。詳細については、次のページを参照してください。

メーカーは、(HID プロトコルと呼ばれる) 標準を独自に実装できます。

したがって、同一の製造元の異なるモデルでも動作が異なる場合があるため、すべてのヘッドセットとハンドセットが動作するとは限りません。

シスコがテストしたのは有線のヘッドセットまたはdongleを使用するヘッドセットのみです。

USB ヘッドセットの詳細については、<https://help.webex.com/nkiifbo/>でサポートされているヘッドセットの完全なリストを参照してください。



- ① プライバシー シャッター付きカメラ
- ② スピーカー音量コントロールおよびマイクロフォンのミュートボタン
- ③ ユニットの右側にあるUSB およびミニジャックソケット
- ④ スタイラス
- ⑤ スピーカー
- ⑥ マイク (6 か所)
- ⑦ デバイスの背面の電源オン/オフ

概要

Bluetooth® ヘッドセットおよびその他デバイスを使用したペアリング

ヘッドセットとその他のデバイスの両方に対して、Bluetooth 接続を使用できます。ヘッドセットについては、Bluetooth を使用してヘッドセットに直接接続するか、または USB ドングルを使用することができます。

Desk Proのスピーカーと、Bluetooth または USB 経由で接続されているデバイスを切り替えることができます。ユーザ インターフェイスのステータスバーでアイコンを選択し、利用可能なデバイスから選択します。

メモ: ヘッドセットと別の Bluetooth デバイスを同時に接続することはできません。

Bluetooth ヘッドセット

サポート対象の Bluetooth プロファイル:

- ・ HFP (ハンズフリー プロファイル)
- ・ A2DP (高度なオーディオ配信プロファイル)

Bluetooth ヘッドセットは、組み込みの Bluetooth 無線または USB Bluetooth ドングルを使用することでサポートされます。

複数のヘッドセットをデバイスとペアリングすることができますが、一度に接続できるのは 1 つのヘッドセットだけです。

範囲は最大 10 m (30 フィート) です。通話中にこの範囲の外に出ると、音声デバイスがデバイスのスピーカーに切り替わります。

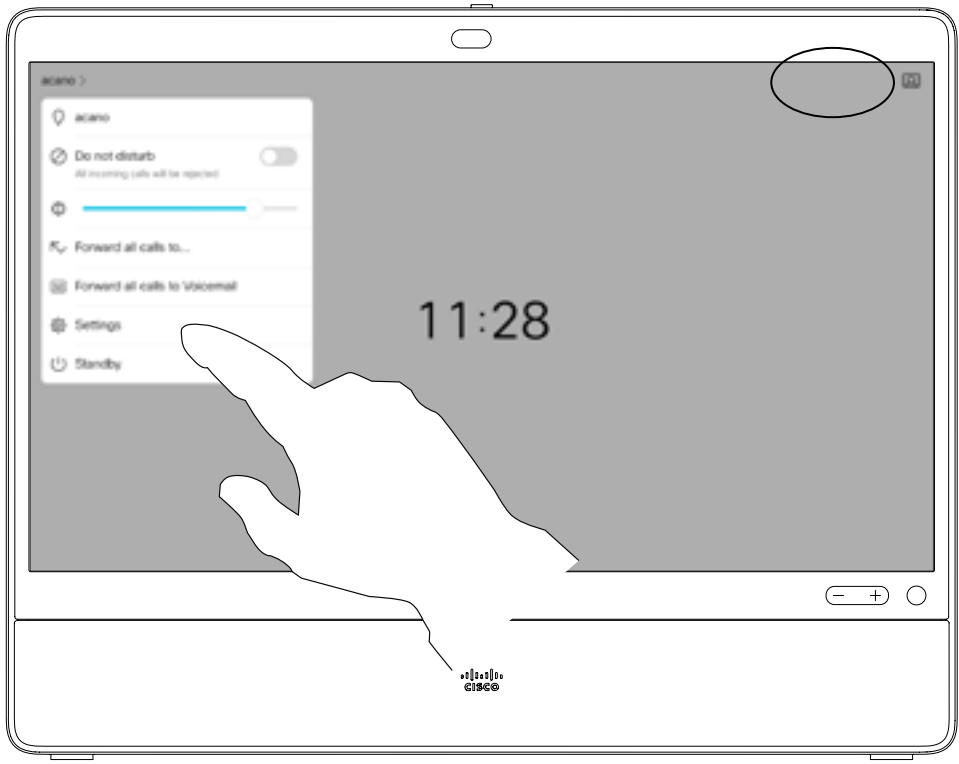
ほとんどのヘッドセットには音量コントロールが組み込まれています。通話中にヘッドセットとデバイスの音量が同期されます。通話中でない場合、ヘッドセットとデバイスの音量ボタンは独立して動作します。

サポート対象の Bluetooth 機能:

- ・ 着信コールに応答する
- ・ 着信コールを拒否する
- ・ 電話を切る
- ・ コールの保留と再開
- ・ 音量アップ、音量ダウン

一部のヘッドセットにはミュート コントロールが備わっています。これは、デバイスのミュートコントロールとは独立して動作します。

Bluetooth® の用語マークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、かかる商標の Cisco による使用はライセンスに基づいています。その他の商標と商標名はそれぞれの所有者のものです。



アイコンがここに表示されます。これをタップすると、Desk Pro のスピーカーと別のデバイスを切り替えることができます。

-  スピーカー
-  アナログ ヘッドセット
-  USB ヘッドセット
-  USB ハンドセット
-  Bluetooth デバイス

Bluetooth ヘッドセットのペアリング

1. ヘッドセットで Bluetooth のペアリングをアクティブにします。確信が持てない場合は、ヘッドセットの取扱説明書を参照してください。
2. Desk Pro の左上隅にあるデバイス名をタップし、設定をタップしてからBluetoothをタップします。Bluetooth が無効になっている場合には、有効にします。Bluetooth はデフォルトで有効になっています。
3. Desk Pro がデバイスをスキャンします。正常に検出されると、デバイスの一覧に Bluetooth ヘッドセットが表示されます。
4. デバイスを選択すると、ペアリングが開始されます。ペアリングが完了するまで数秒かかることがあります。
5. ペアリングが成功した場合、Desk Pro はヘッドセットを接続済みとして表示します。ペアリングが完了しました。

USB Bluetooth ドングル

ドングルの使用時には、ヘッドセットは USB ヘッドセットとして検出されます。

ドングルを使用する場合は、ヘッドセットの音量とデバイスの音量が同期されないことに注意してください。

<https://help.webex.com/nkiifbo/> も参照してください。

他のデバイスをペアリングする

また、音楽を聴くために携帯電話など、他のデバイスをDesk Pro にペアリングすることもできます。

メモ: 通話中には、Bluetooth を使用して音楽をストリーム転送することはできません。

1. Desk Pro の左上隅にあるデバイス名をタップし、設定をタップしてからBluetoothをタップします。Bluetooth が無効になっている場合には、有効にします。Bluetooth はデフォルトで有効になっています。
2. 検出可能をオンに切り替えます。
新しいデバイスを接続する場合、Desk Pro を検出可能として設定する必要があります。5 分後に Desk Pro が検出可能モードから自動的に外されます。
3. デバイスの Bluetooth 設定に移動し、利用可能なデバイスを探します。
4. デバイスリストからDesk Proを選択すると、ペアリングが開始されます。ペアリングが完了するまで数秒かかることがあります。
5. ペアリングが成功した場合、Desk Pro は接続済みとして表示されます。ペアリングが完了しました。

概要

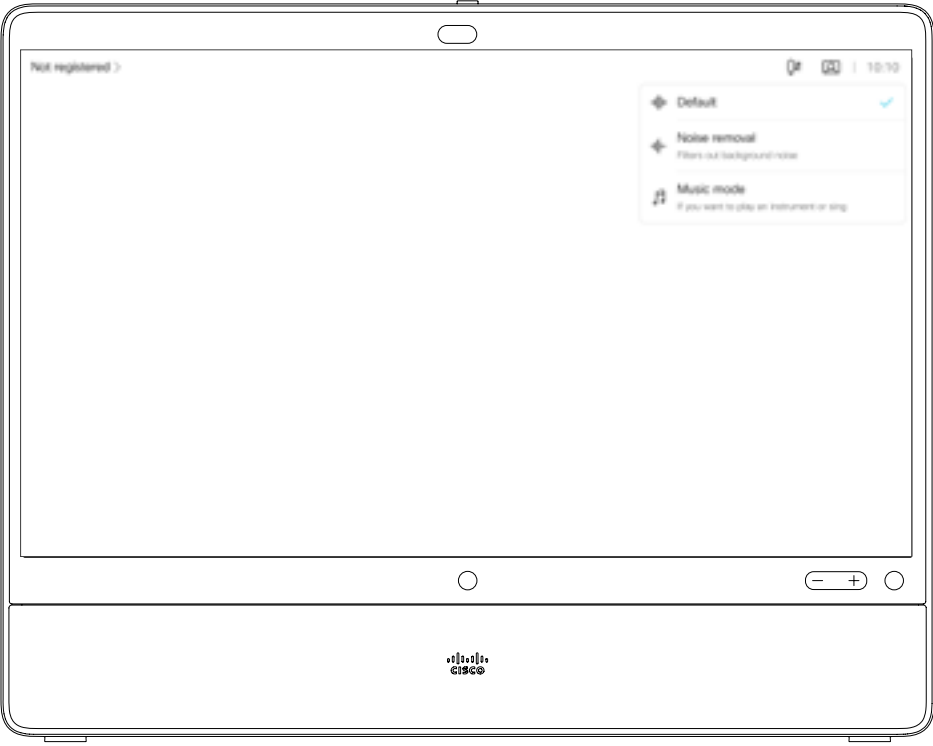
音声設定

ノイズ除去

ノイズ除去を使用して、通話中に煩雑なノイズを排除することができます。ノイズ除去は、共有スペースまたはホームオフィスで特に便利です。

デスク Pro で、ホーム画面の右上にあるマイクアイコンをタップします。ノイズ除去をタップしてオンにします。

オフにする場合は、[デフォルト (Default)] をタップします。



着信音と音量

着信音を変更し、着信音の音量を調整するには、ホーム画面でデバイス名をタップし、[設定 (Settings)] を選択します。[着信音と音量 (Ringtone and volume)]に移動します。リストから着信音を選択し、スライダーを使用して音のレベルを設定します。

概要

USB カメラとしての使用

Cisco Webex Desk Pro は、USB カメラとしても使用できます。

Desk Pro を Cisco に登録していない場合は、他の USB カメラとして使用できます。

Cisco に Desk pro を登録している場合は、USB カメラとしても使用できますが、次のことを確認してください。

- ・ ソフトウェアクライアントがカメラの使用を開始したときで、ケーブルが接続されていない場合は、Desk Pro が [応答不可 (DND)] モードになります。
- ・ これにより、専用のコンピュータが常時 Desk Pro に接続されている場合でも、通常の Cisco のコールには Desk Pro を使用することができます。

Desk Pro を USB カメラとして使用するには、コンピュータと Desk Pro の USB-C ソケットを USB ケーブルで接続します。

この設定では Desk Pro のマイクとスピーカーを使用して素晴らしいサウンド体験を実現します。

このセットアップで外部モニタを含むように設定を拡張する場合は、通常の方法でコンピュータをモニタに接続します。

Cisco 登録の Desk Pro では無効にできない [応答不可] を除いて、その他のデバイス設定にも完全にアクセスできます。

登録時に USB カメラとして使用

サードパーティのクライアントを使用して電話をかける場合、カメラ、マイク、およびスピーカーは OS/アプリケーションのデフォルトに基づいて選択されます。これらの設定は上書きできます。

プライバシーを維持するため、カメラがアクティブになっているときはいつでもカメラのライトインジケータが点灯します。

他のすべての機能はサードパーティのクライアントによって制御されます。

未登録時に USB カメラとして使用

初めて Cisco のビデオデバイスを起動するときは、セットアップウィザードが表示されます。

このウィザードでは、シスコ サービス(クラウドまたはオンプレミス)への登録方法を指定できます。Desk Pro では、USB デバイスとしてのみ使用する場合はこのウィザードをスキップできます。

この方法を示すために、詳細な指示が画面に表示されます。

後で、Desk Pro を Cisco に登録する必要がある場合は、設定に移動し、デバイスの有効化を選択します。

概要

自分のログイン情報を使用してログオンする

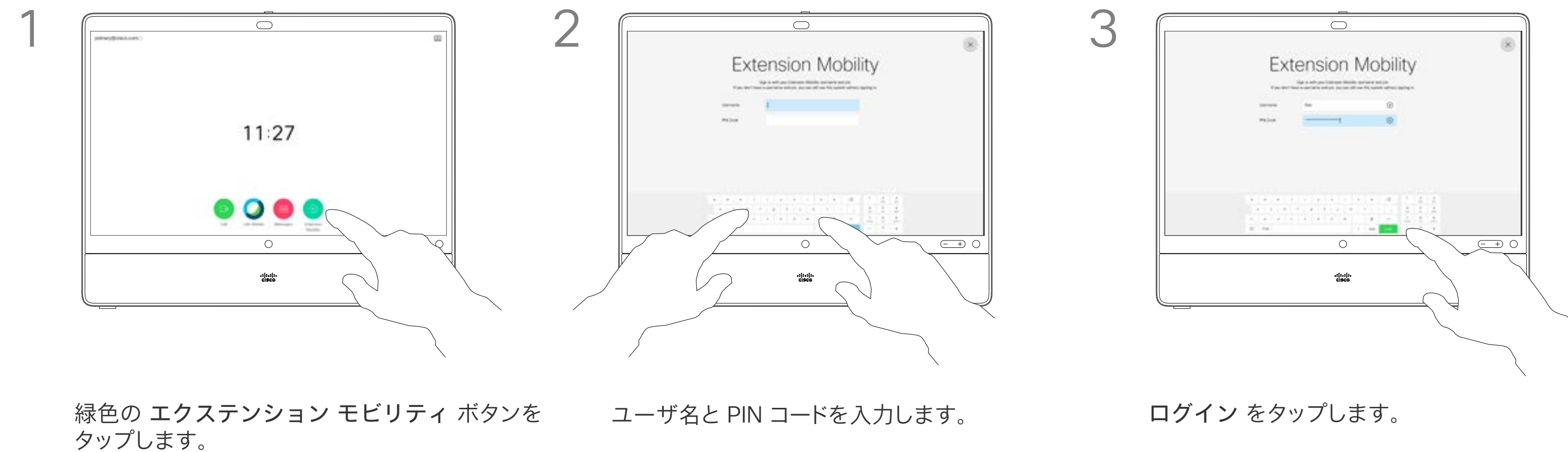
Extension Mobility について

会議室やクワイエットルームに配置され、CUCM (Cisco Unified Communications Manager) の元で稼働しているデバイスでは、自分の個人情報を使用してデバイスにログインすることができます。

CUCM は、すべての着信コールを特定のデバイスにルーティングします。

エクステンションモビリティからログアウトすると、[受信者 (Recv)] リストはデバイスからクリアされます。

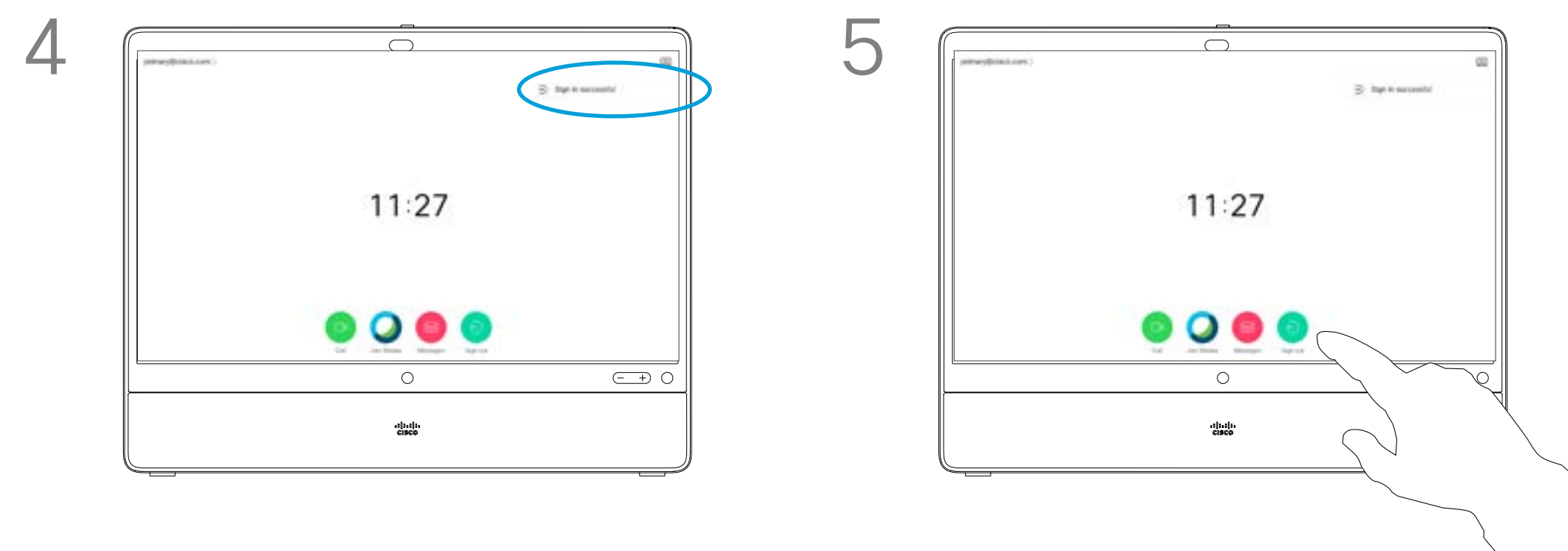
エクステンション モビリティはホットデスクングとも呼ばれます。



緑色の エクステンション モビリティ ボタンを
タップします。

ユーザ名と PIN コードを入力します。

ログイン をタップします。



ログインが成功したことを確認できます。

ログアウトするには、図のように サインアウト を
タップします。

ビデオ通話

ビデオ通話 連絡先リストからのコールの発信

連絡先リストについて

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

お気に入り。これらの連絡先はユーザによって配置されています。これらのエントリは、頻繁にコールするか、または迅速にアクセスする必要がある場合に使用します。

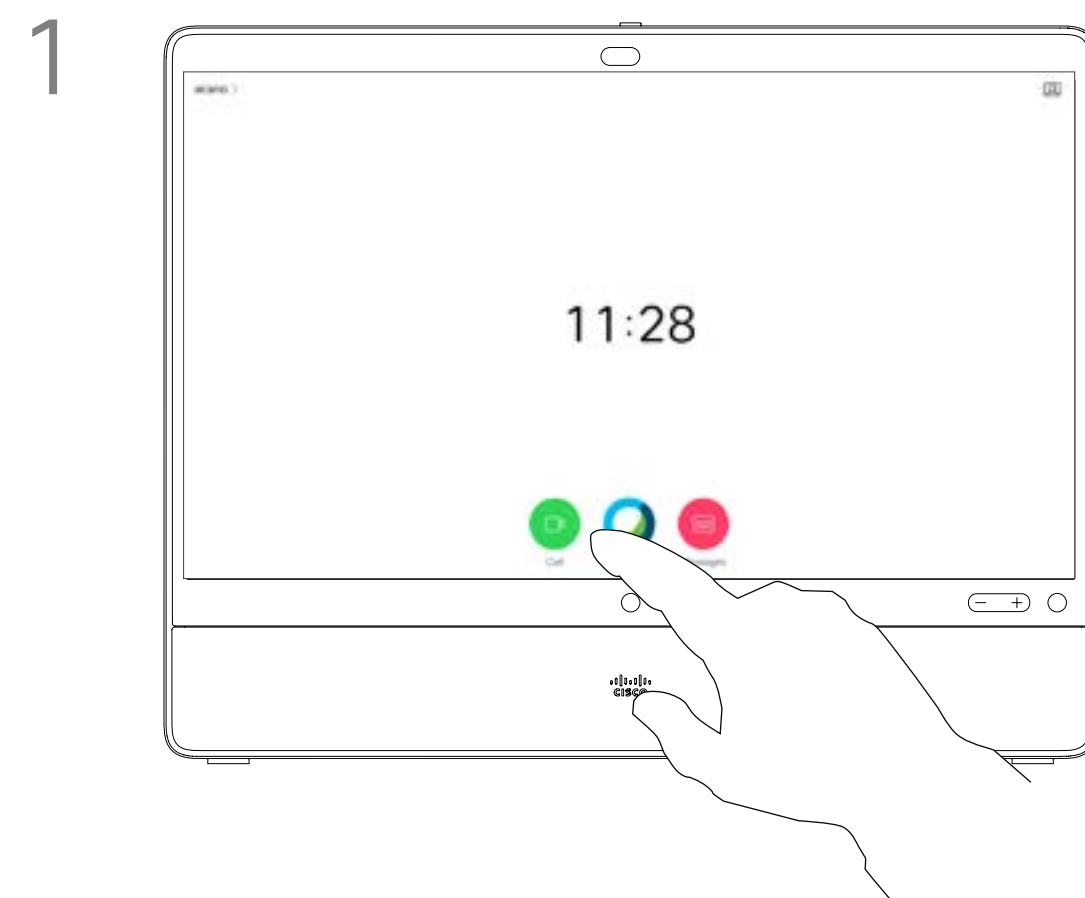
ディレクトリは通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされた社内ディレクトリです。

発着信履歴は、発信、受信、不在着信のリストです。

次のオプションが適用されます。

- ・ 名前、番号、または IP アドレスでキーを入力すると、デバイスはすべてのリストに含まれているかを検索します。
- ・ [お気に入り (Favorites)] リストに追加したエントリは、発信の前に編集したり、帯域を変更したりすることができます。

発着信履歴からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。



緑色の 通話 ボタンをタップします。



特定のリスト(お気に入り、ディレクトリ、または 発着信履歴)で通話相手を検索するには、そのリストをタップし、下へスクロールして発信するエントリを探します。



そのエントリをタップすると、緑色の 通話 ボタンが表示されます。図のように、緑色の 通話ボタンをタップします。



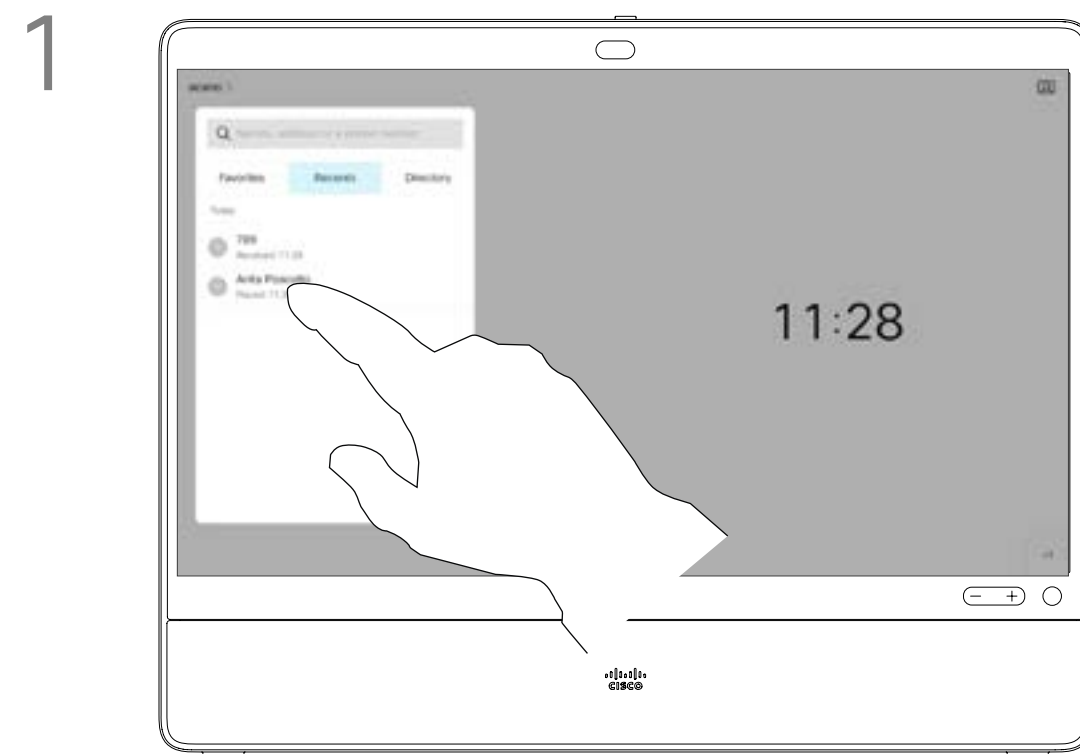
通話が発信されます。通話を終了するには、赤色の通話の終了アイコンをタップします。

ビデオ通話 発信する前に連絡先を編集する

エントリ編集について

連絡先リストの入力方法については、前のページを参照してください。

発信する前に、[連絡先] 一覧のいずれかのエントリの編集が必要な場合があります。また、プレフィックスやサフィックスを追加したり、それ以外では適切なエントリに変更する場合があります。



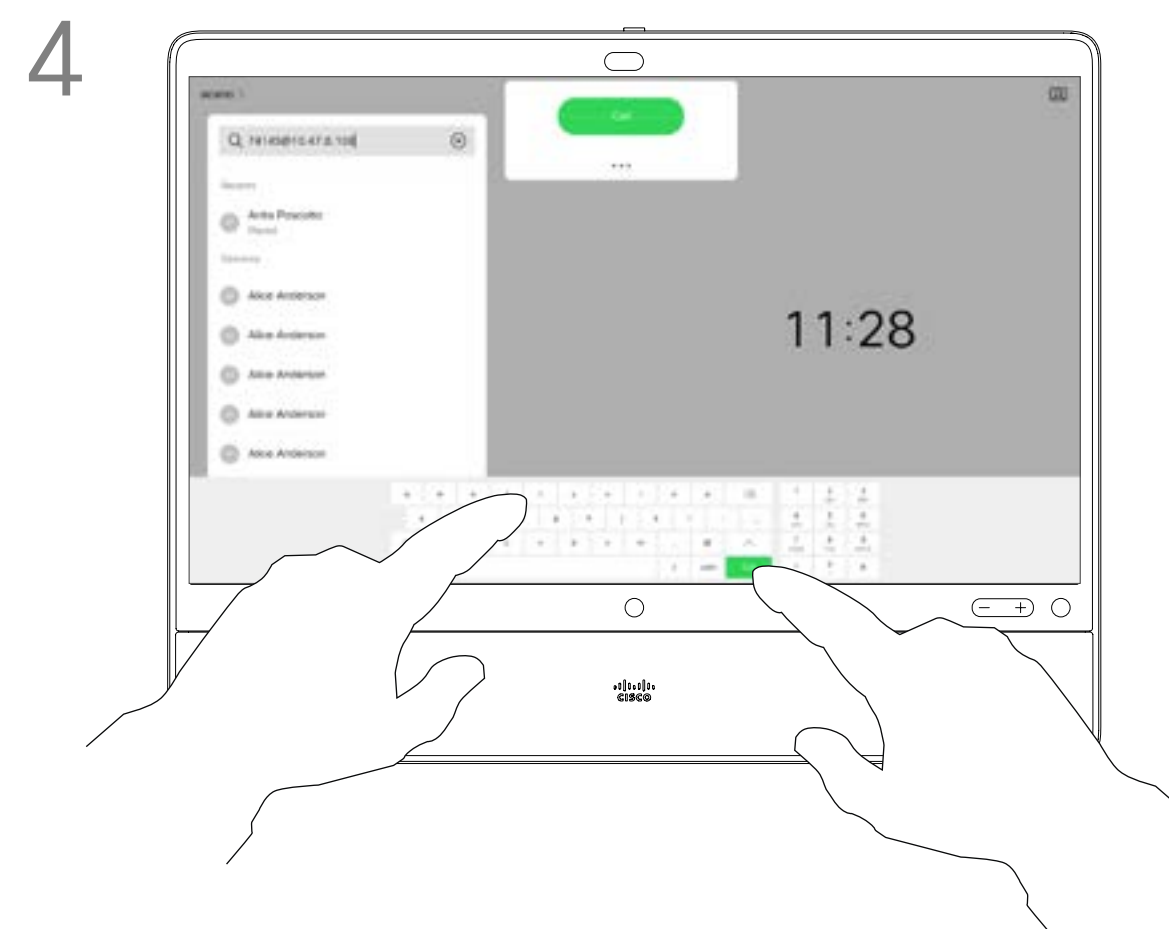
コールを発信する前に、編集するエントリを検索します。エントリをタップします。コールメニューが開きます。



緑色の 通話ボタンのすぐ下にある 詳細[...] アイコンをタップします。



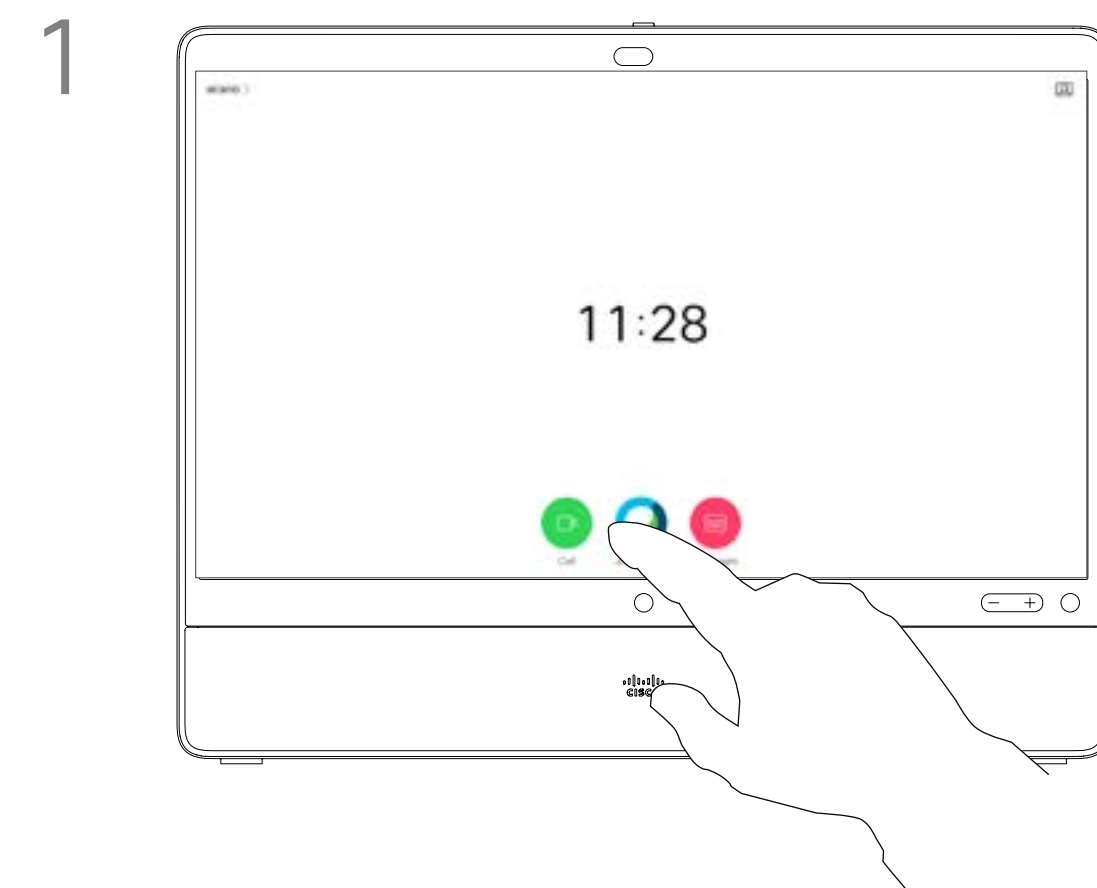
[編集して通話] をタップします。



キーボードを使って編集し、緑色の 通話 ボタンのどちらかをタップして発信します。

名前、番号、またはアドレスを使用してコールを配置する

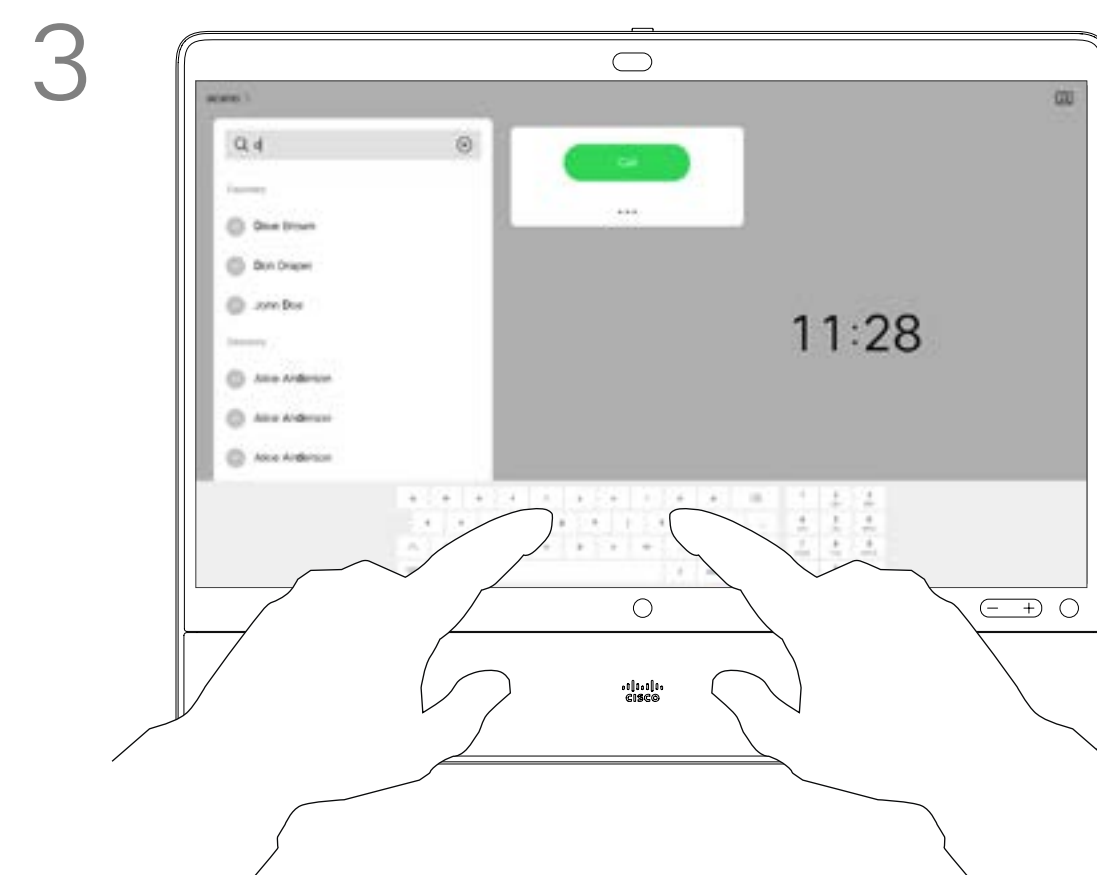
発信について



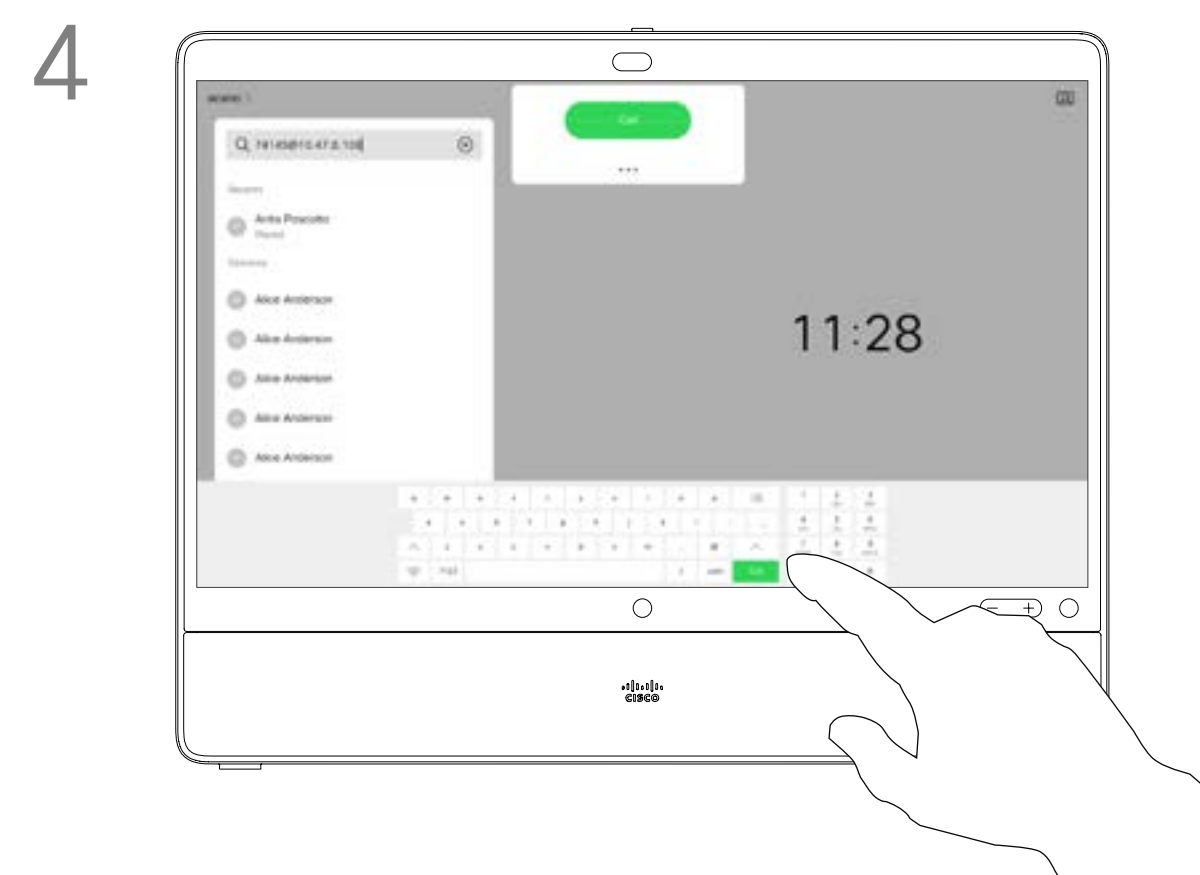
緑色の 通話 ボタンをタップします。



検索とダイヤルフィールドをタップします。
これにより、キーボードが開きます



名前、番号、またはアドレスを入力します。入力したとおりに、一致するものや候補が表示されます。目的の発信対象が表示されたら、それをタップします。表示されなかったら入力を続けます。



通話先を入力し終えるか見つけたら、緑色の通話ボタンのちらかかをタップして発信します。

連絡先リストにない人に発信するには、ディスプレイに表示される仮想キーボードを使用して名前、住所、または番号を入力します。

以前にコールしてきた人やコールした人は、**発信履歴**リストに表示され、任意のコールをお気に入りリストに転送できます。これについては**連絡先セクション**で説明しています。

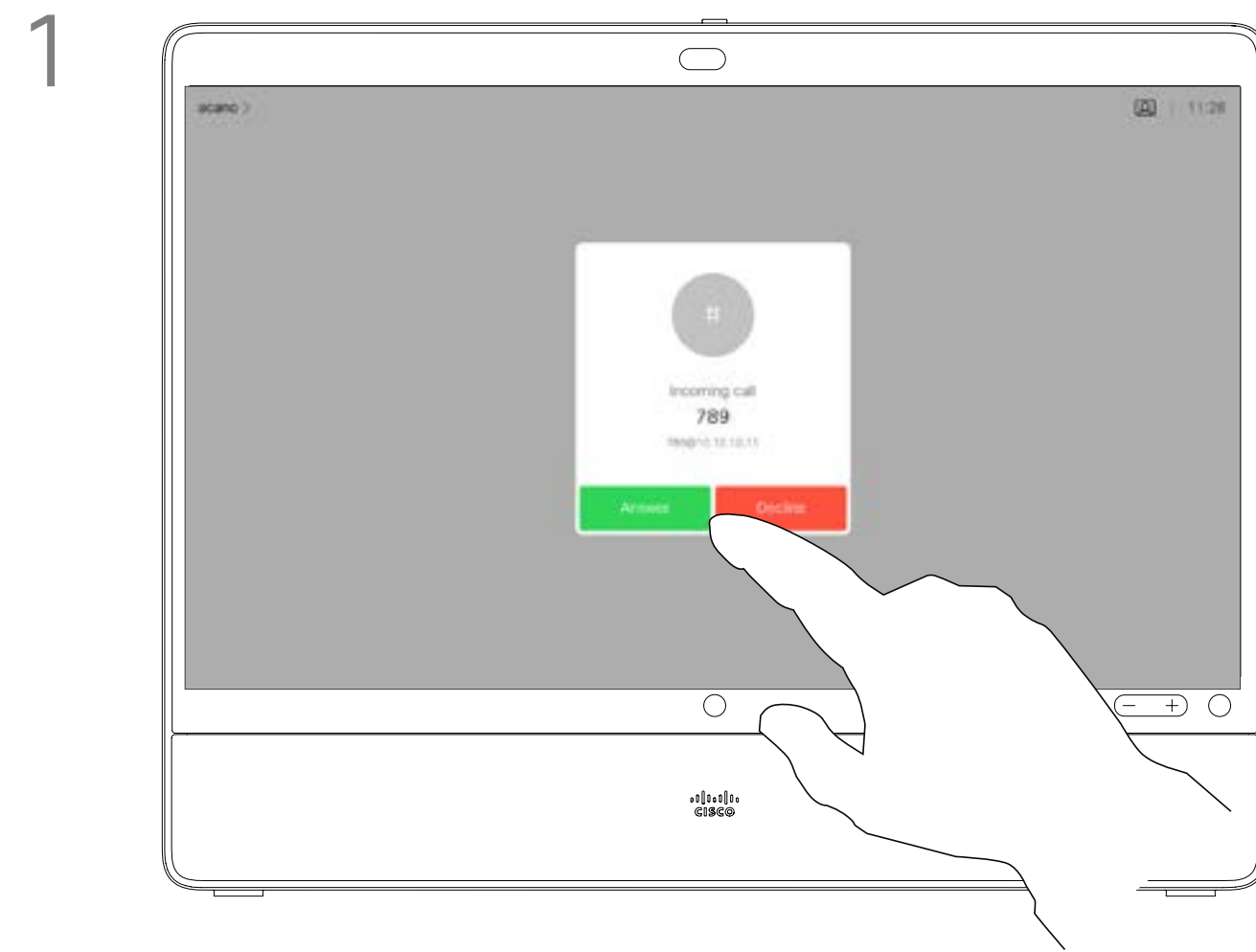
場合によっては、内線にアクセス、または暗証番号を提供するために、コール中に番号を入力する必要がある場合があります。

これに必要なキーパッドを呼び出すには、**トーン信号** (このボタンは、発信するとすぐに表示されます) をタップします。

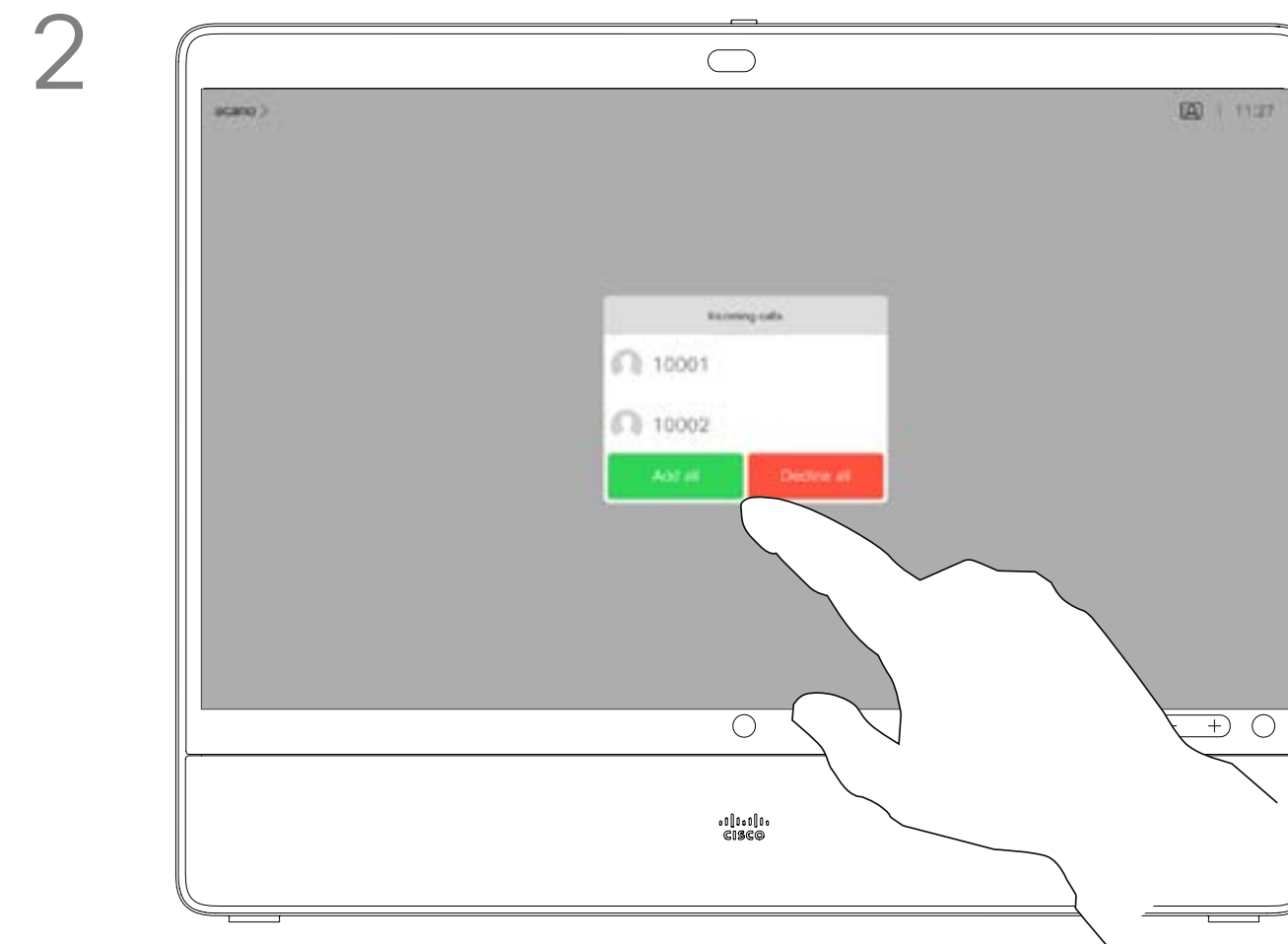
発信履歴のクリアは、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

ビデオ通話 着信通話

着信があった場合



着信通話を受け入れる(応答する)か拒否するかに応じてタップします。



ビデオ インフラストラクチャで許可されている場合は、複数の着信を受信できます。既存の通話に追加するか、あるいは拒否するかを選択できます。

- ・ ユーザからコールがあれば、そのコールを受け入れる、拒否する、あるいは無視するかのいずれかになります。
- ・ 通話を拒否すると、通話中の情報が発信者に送信されます。
- ・ コールを無視すると、発信者はこのことを、不在として認識します (コールに応答しなかった場合)。
- ・ ビデオインフラストラクチャを使用すると、複数の着信を受信できます。貴社のビデオサポートチームにご照会ください。

別のコール中にコールを受信する

オプションについて

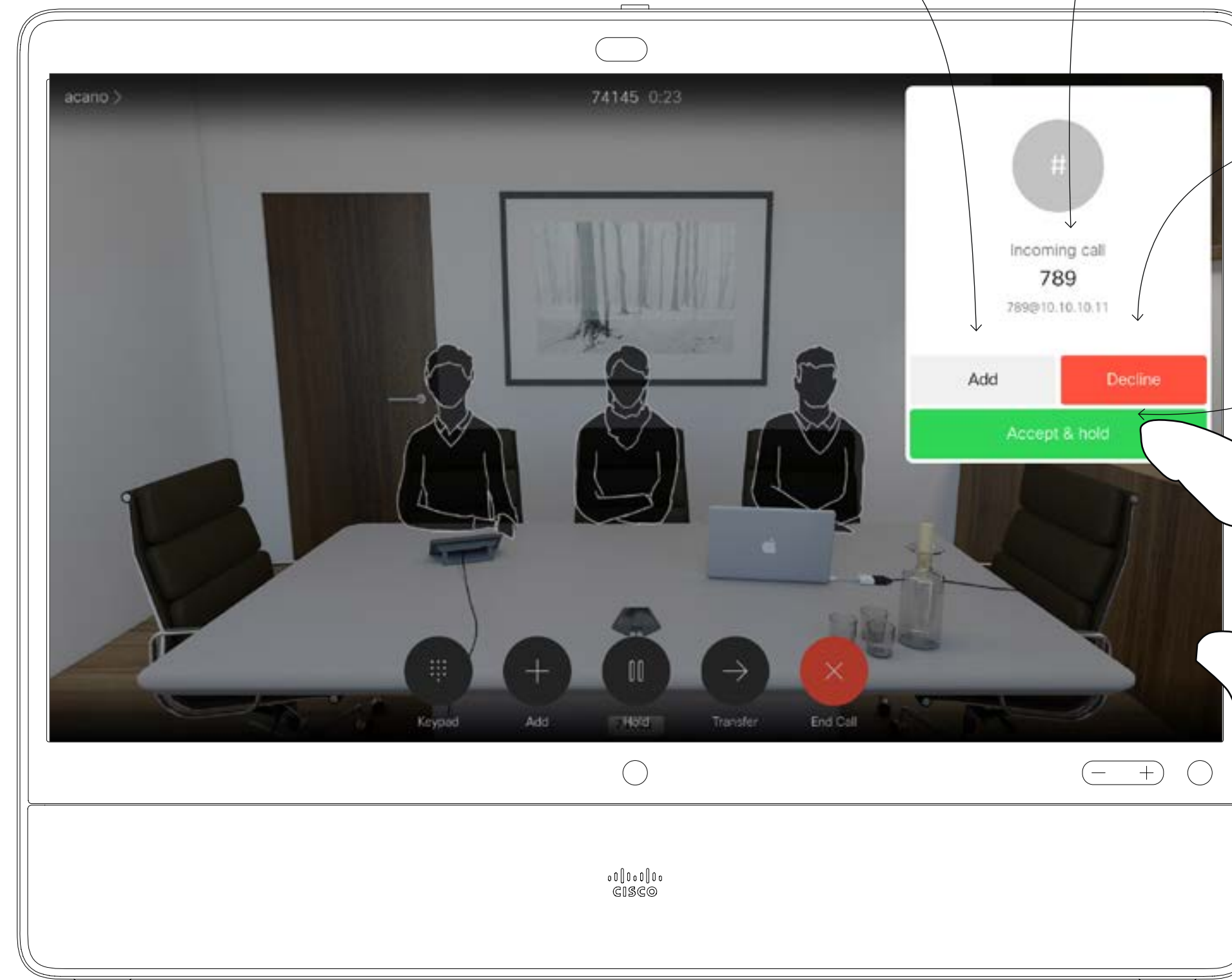
追加: デバイスが CUCM 下
でアドホック会議を実行して
いる場合は、参加者を追加
することができます。

新しい着信の ID。

特定の状況下では、通話中に別の着信を
受け入れることができます。

着信通話を拒否
し、続けている通
話を続行します。

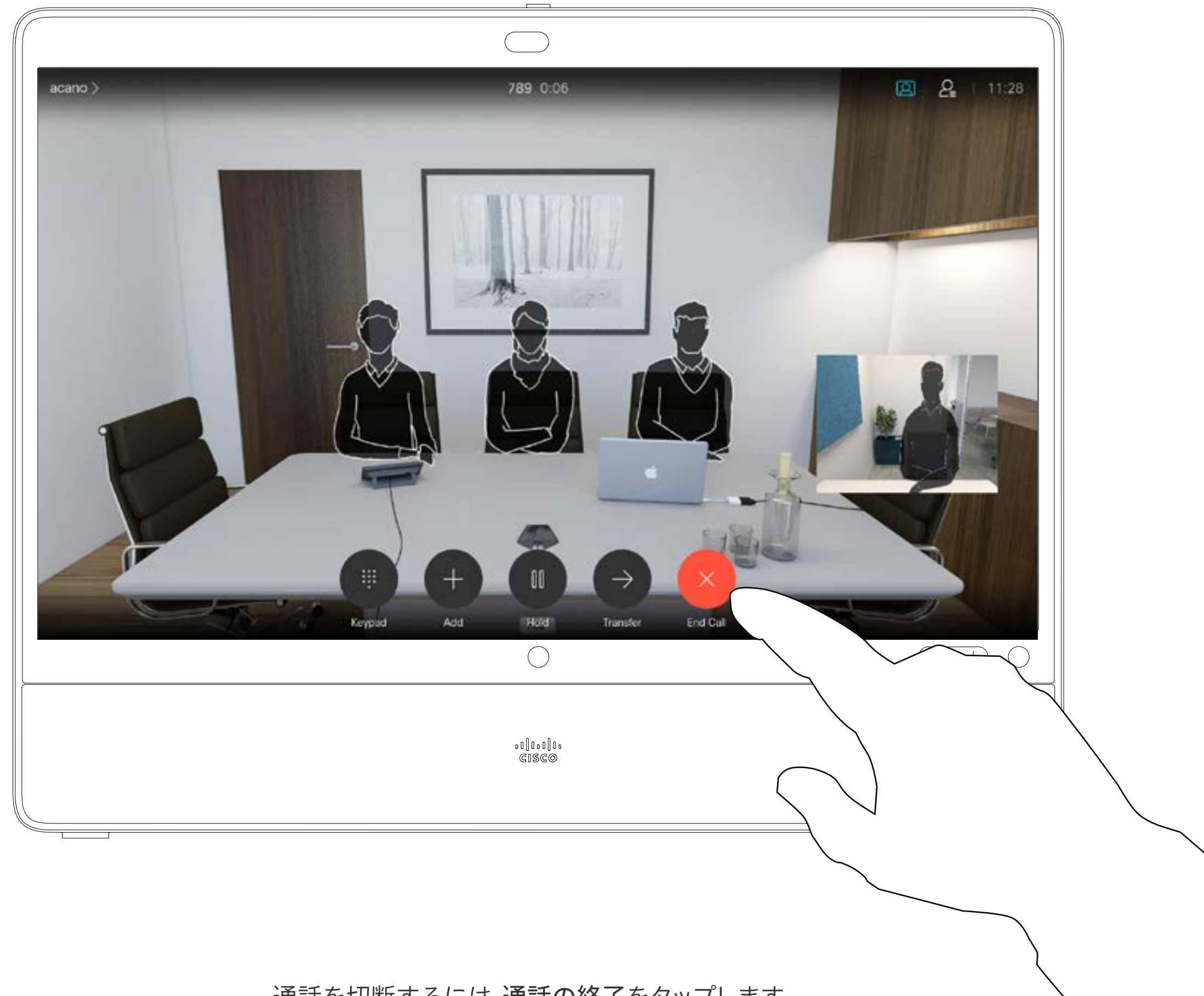
応答して保留：発信に応答し、
現在の通話を保留にします。



ビデオ通話 通話から自分を切断する

自分で切断するについて

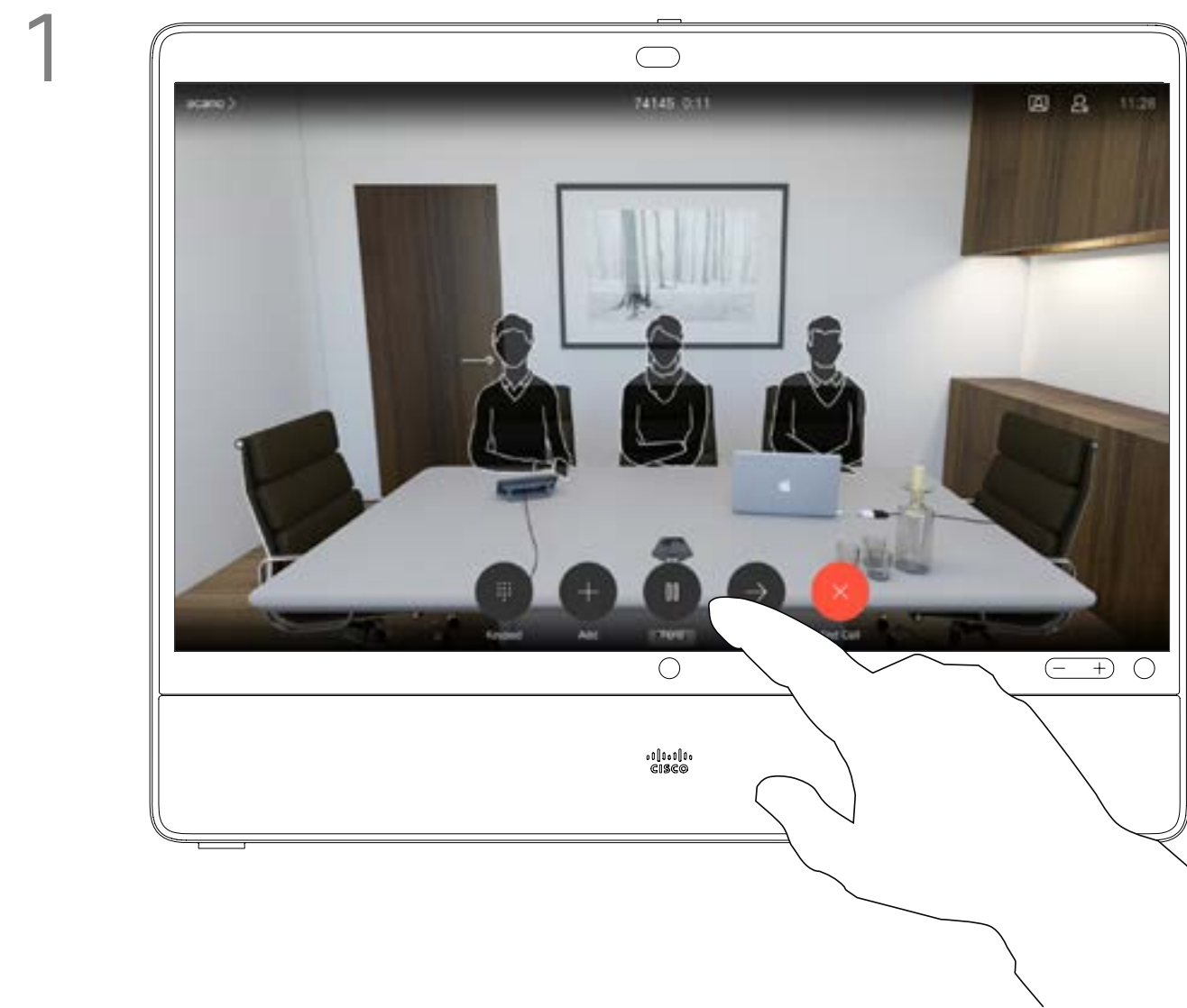
通話中に **通話の終了** をタップ すると、通話から切断されます。2 者だけがコールした場合は、このコールは終了します。



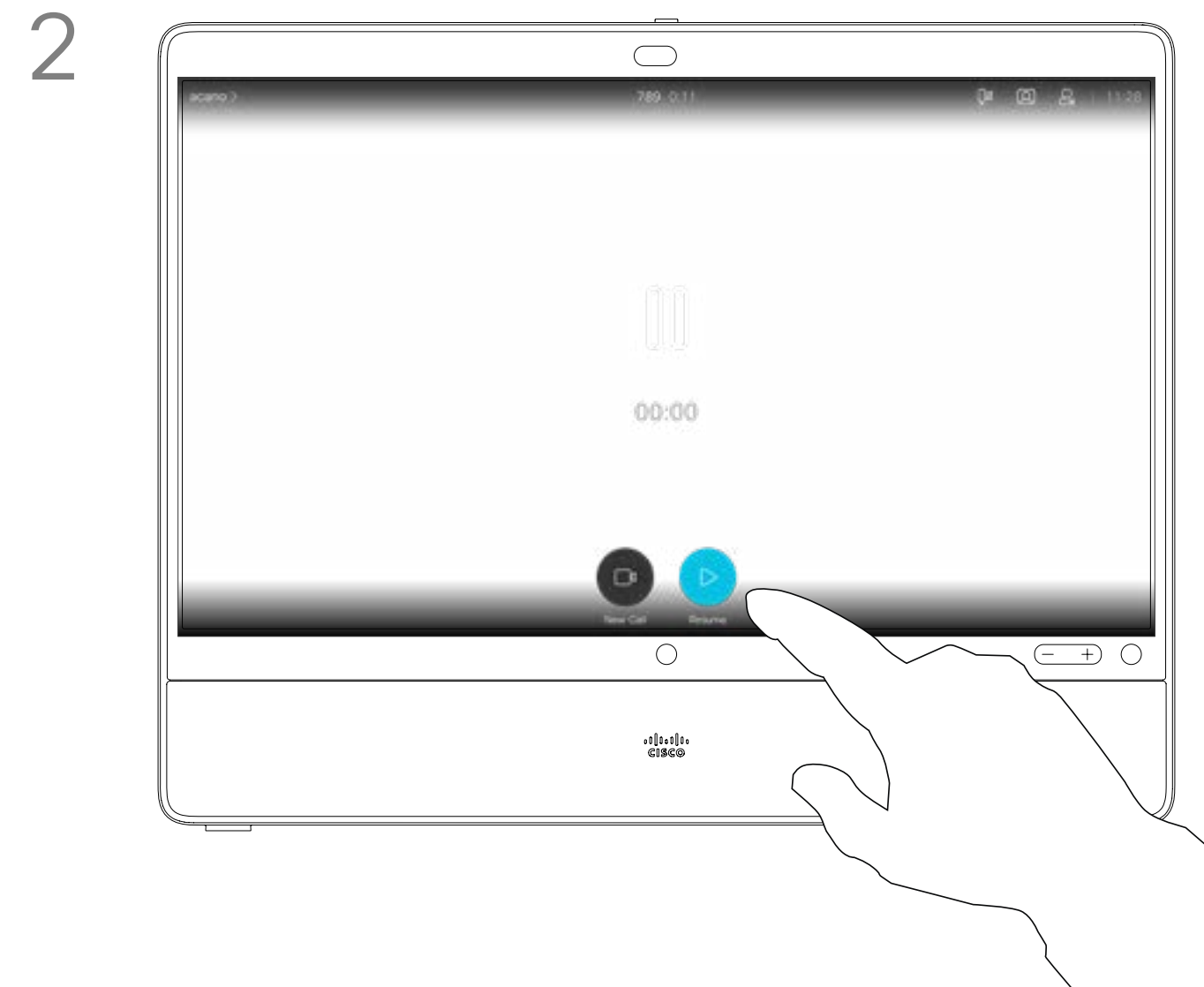
通話を切断するには、通話の終了をタップします。

ビデオ通話 通話を保留にする/保留中の通話を再開する

保留について



通話中に 保留をタップします。



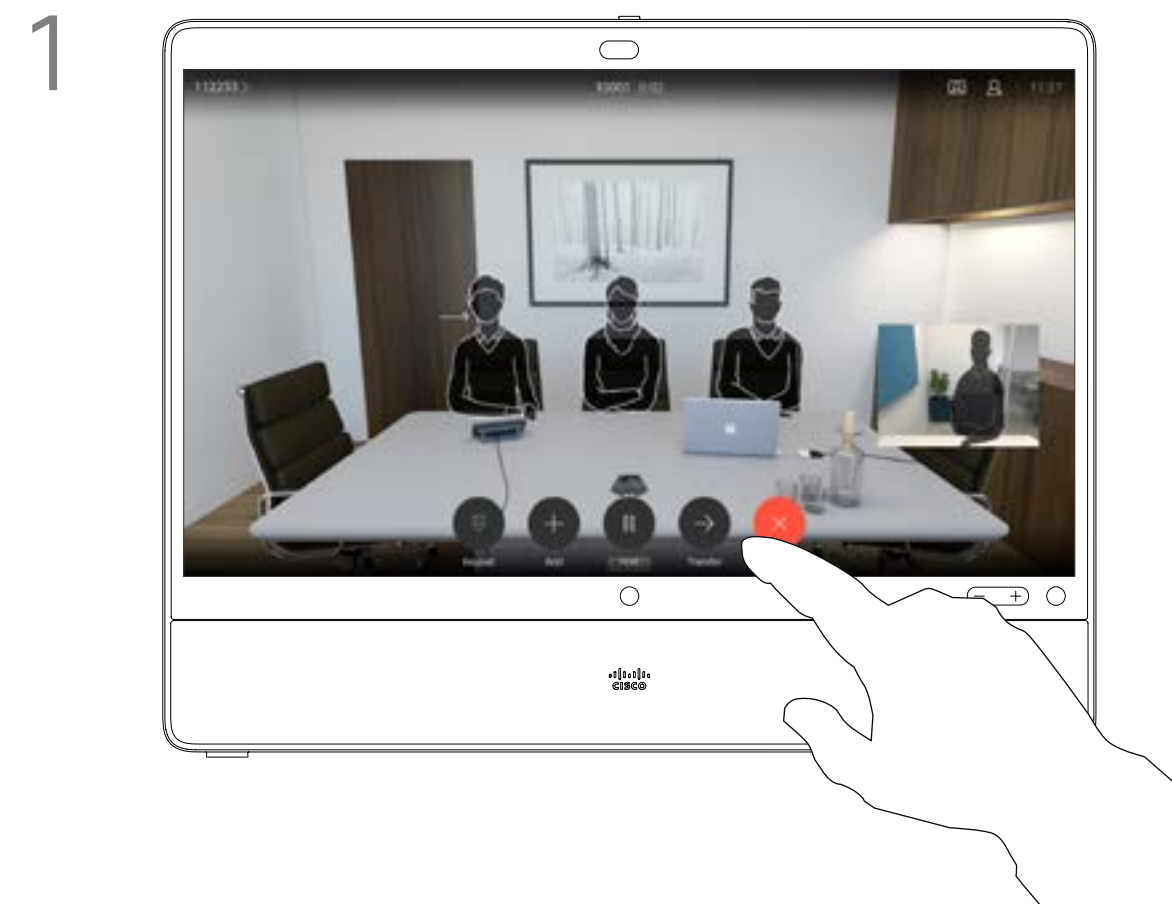
再開をタップして、通話状態にあった相手に戻ります(元の操作に戻ります)。

ユーザを保留にすることは通常、ユーザを別のユーザに転送する際の最初のステップとして使用されます。また、ユーザを調べる必要がある場合や、ビデオ送信を停止する場合などミュートする代わりに使用することもできます。

ビデオ通話 継続中のコールを転送

転送について

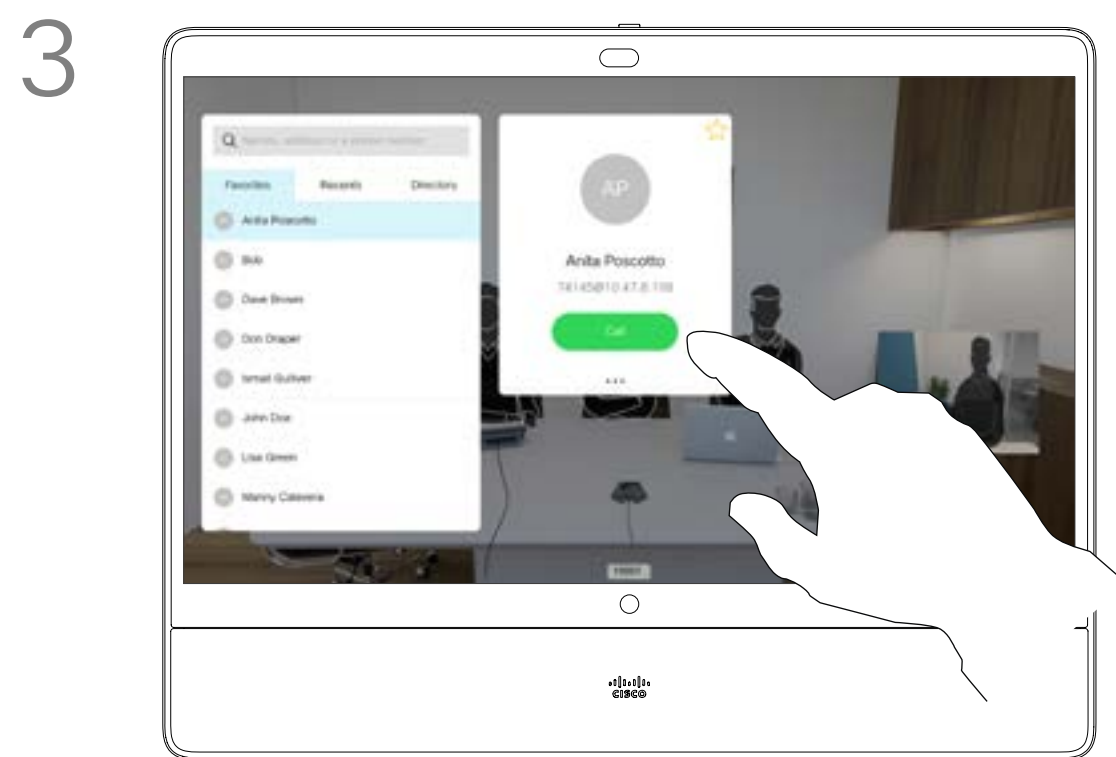
継続中のコールを別の人に転送することができます。転送は常に提案されており、コールを転送する担当者に連絡して、コールを実際に転送することができます。



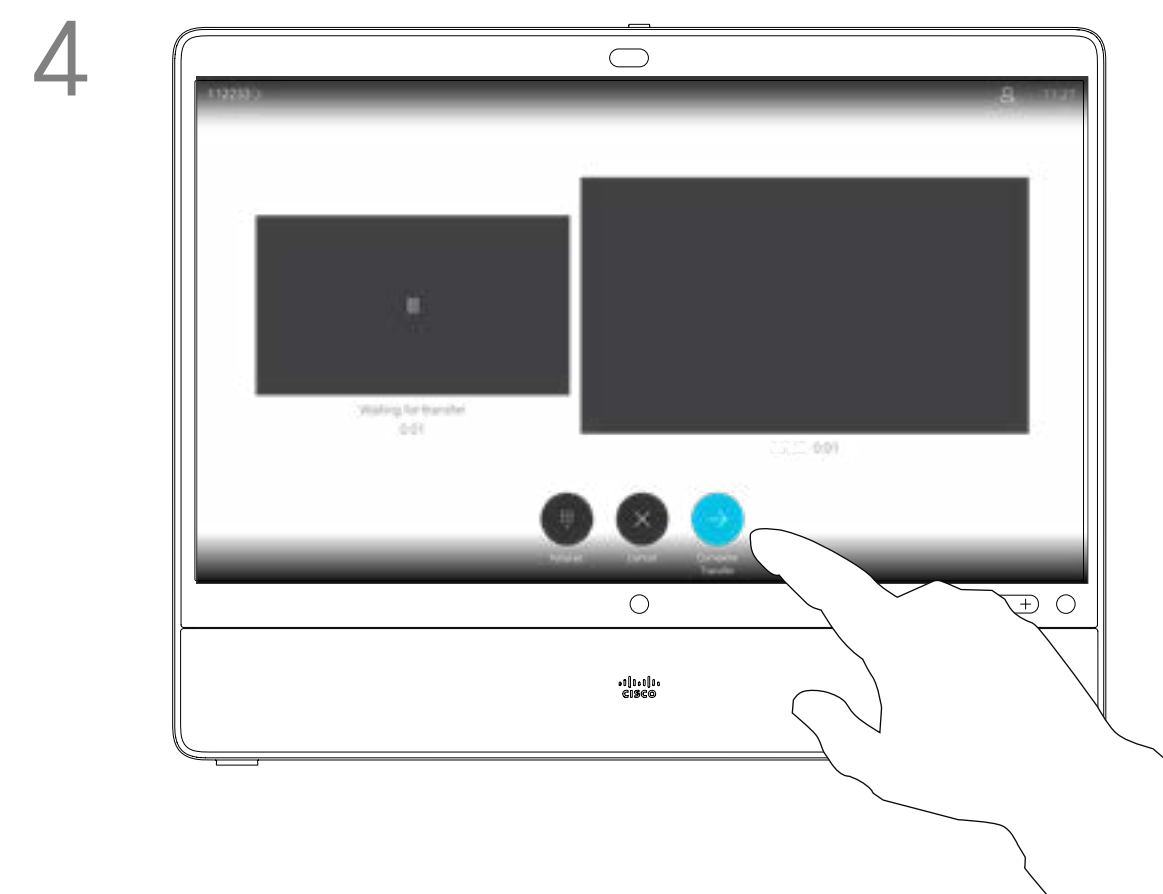
転送ボタンをタップします。これにより、現在の通話が保留になります。



いつもと同じ方法で、発信先を探します。



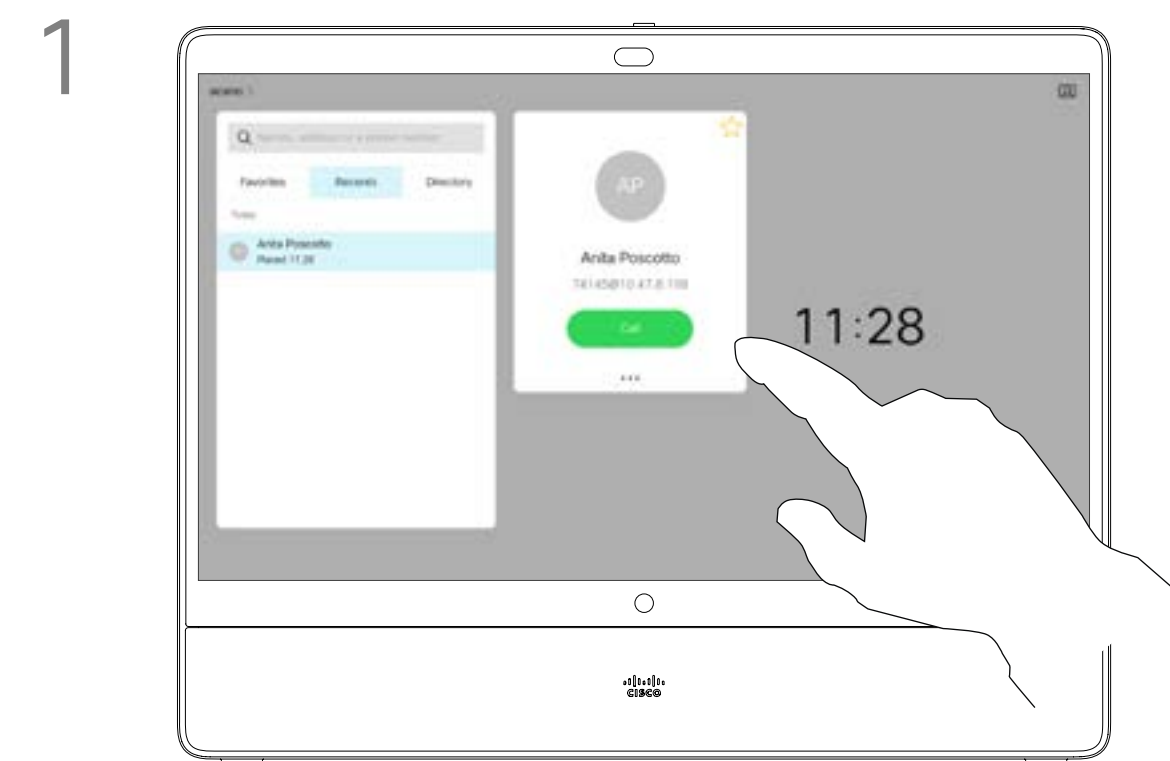
緑色の通話ボタンをタップします。相手と話して転送が行われたことを確認します。転送先では保留中のままになります。



転送を完了をタップします。

ビデオ通話 帯域の変更

帯域について



通話ボタン(図示せず)をタップして、帯域を変更するエントリー(図示せず)を特定します。このエントリーをタップすると、[発信(Call)]メニューが表示されます。それから、緑色の [発信 (Call)] ボタンの下にある、その他(...)アイコンをタップします。



カスタム コールをタップします。



必要な設定にスライダを移動します。



緑色の通話ボタンをタップして発信します。

「帯域」とは、通話に割り当てられている帯域幅を示すために使われる用語です。これは kbps(キロビット/秒)で測定されます。

コールレートが高くなるほど、品質は向上しますが、帯域幅の消費が大きくなります。

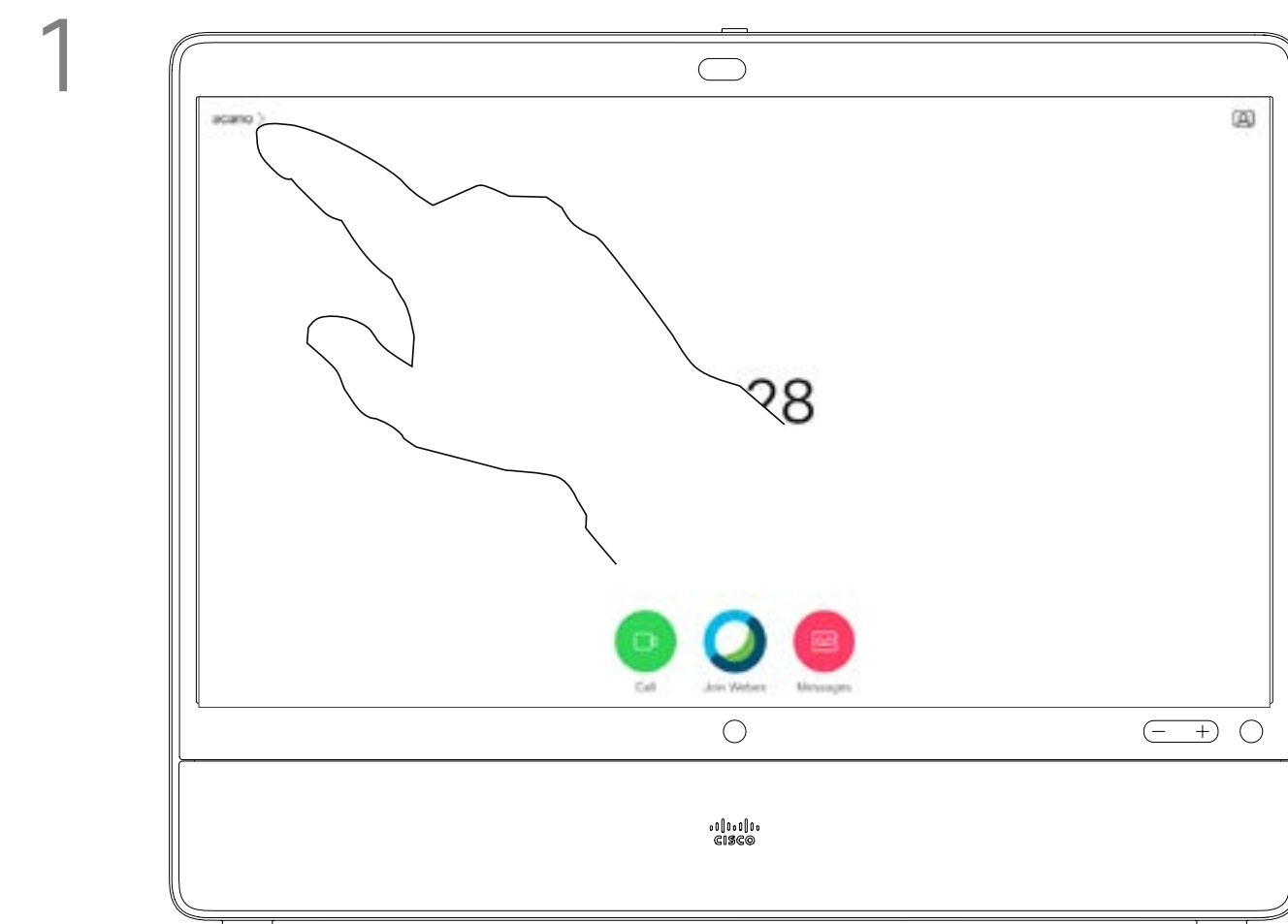
デバイスには、デフォルトのコールレートが付いています。これは通常ビデオ サポート チームが設定します。通常の条件下では、必要に応じて、デバイスによりコールレートが自動調整されます。これは、デバイスや接続のサポートより高いレートで他のユーザを呼び出す場合に、ビデオコールを回避するために実行されます。

何らかの理由によって、自動帯域設定に失敗した場合、最終手段として手動で調整することも可能です。

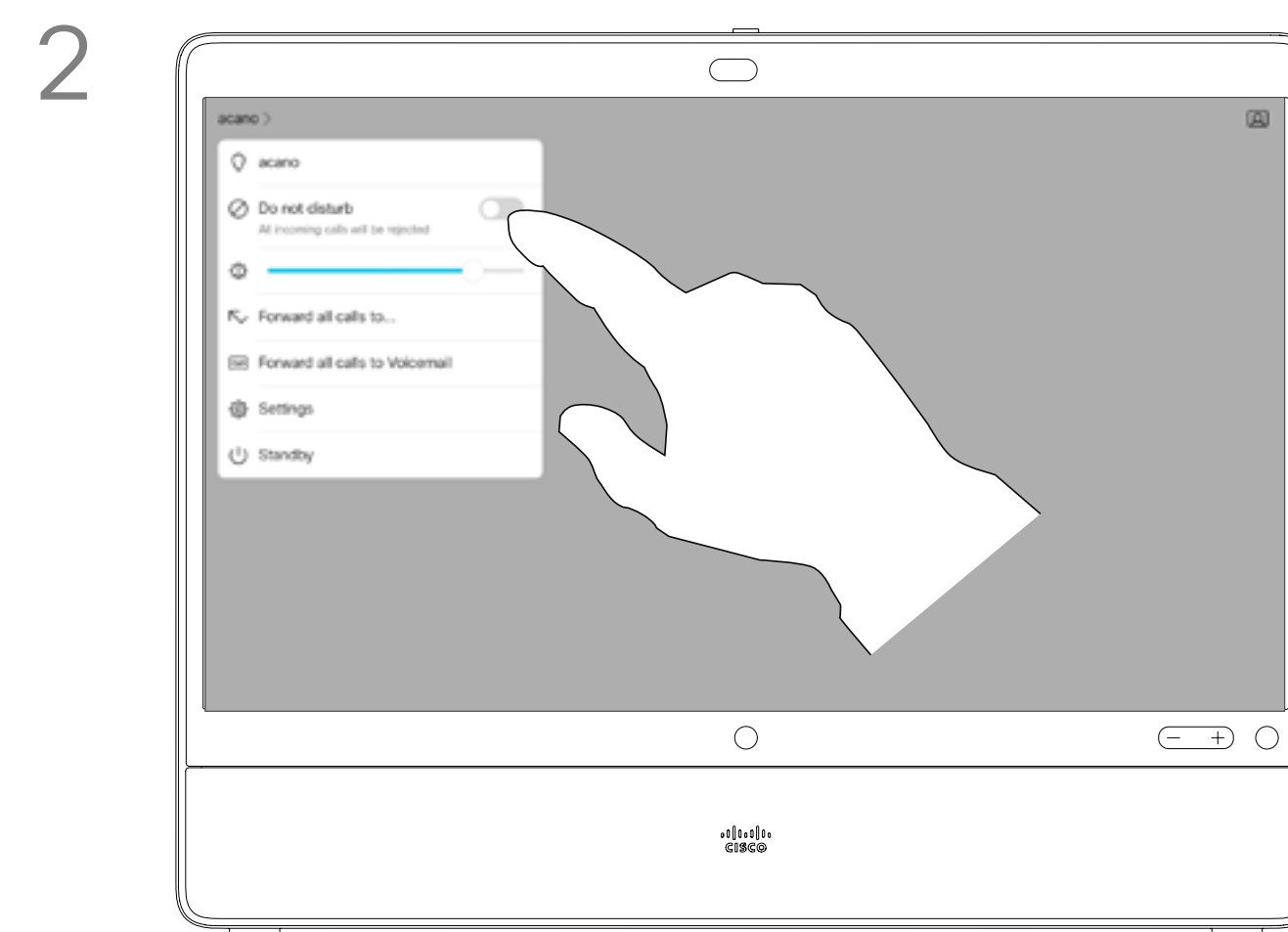
コールレートは通話中の変更はできませんが、左の図のように、コールを発信する直前に変更できます。

ビデオ通話 応答不可を有効にする

応答不可について



図のように、左上をタップします。



応答不可をタップして、機能を有効にします。もう一度タップして非アクティブ化します。

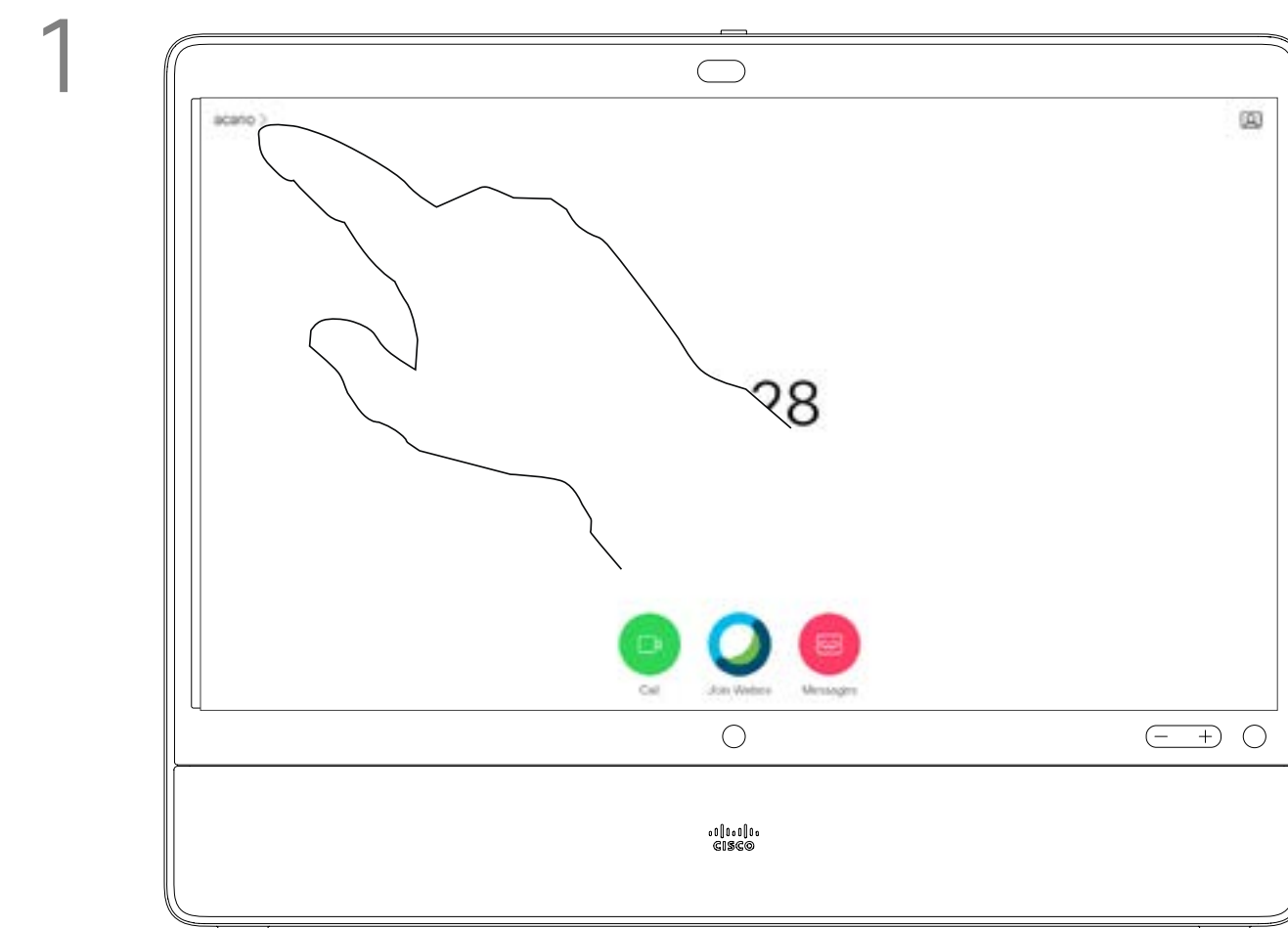
着信コールに回答しないようにデバイスを設定することができます。他の人にも発信することができます。

ビデオサポートチームがこの機能のタイムアウトを設定していて、その後デバイスが着信コールに回答して通常どおり回答している可能性があります。デフォルトのタイムアウト設定は60分です。

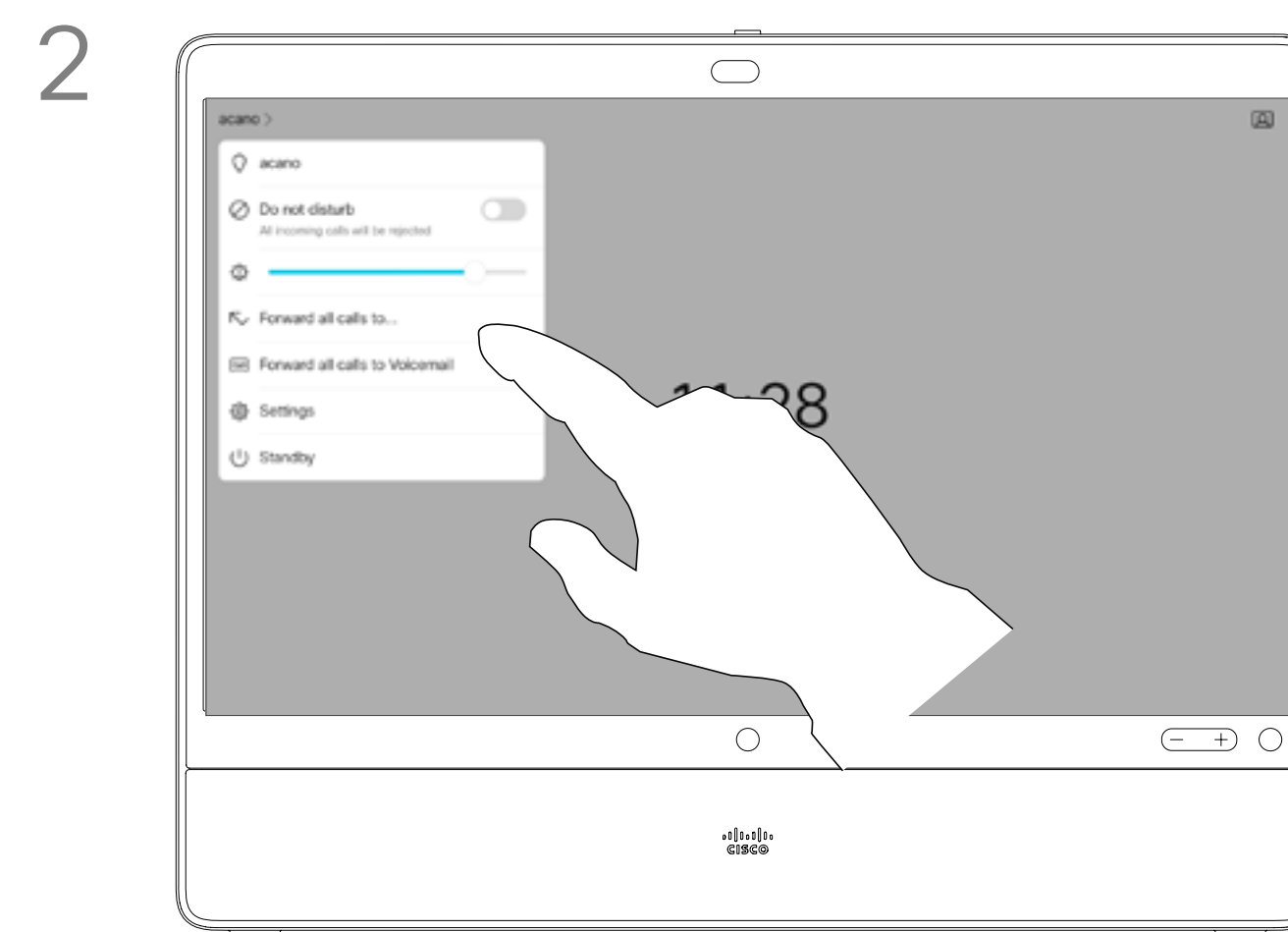
ビデオ サポート チームによって、この機能へのアクセスが無効になっている場合があることにご注意ください。

すべてのコールの自動転送

通話の転送について



図のように、左上をタップします。



受信者を指定してすべての通話を転送するか、ボイスメールに転送するかを選択できます。

ビデオ サポート チームがすべての受信コールを転送するオプションを有効にしている場合もあります。ボイスメールに転送するか、受信者を指定して転送するかを選択できます。

すべてのコールを転送をタップすると、いつもの 通話メニューが表示され、受信者を指定できます。

ビデオ サポート チームによって、この機能へのアクセスが無効になっている場合があることにご注意ください。

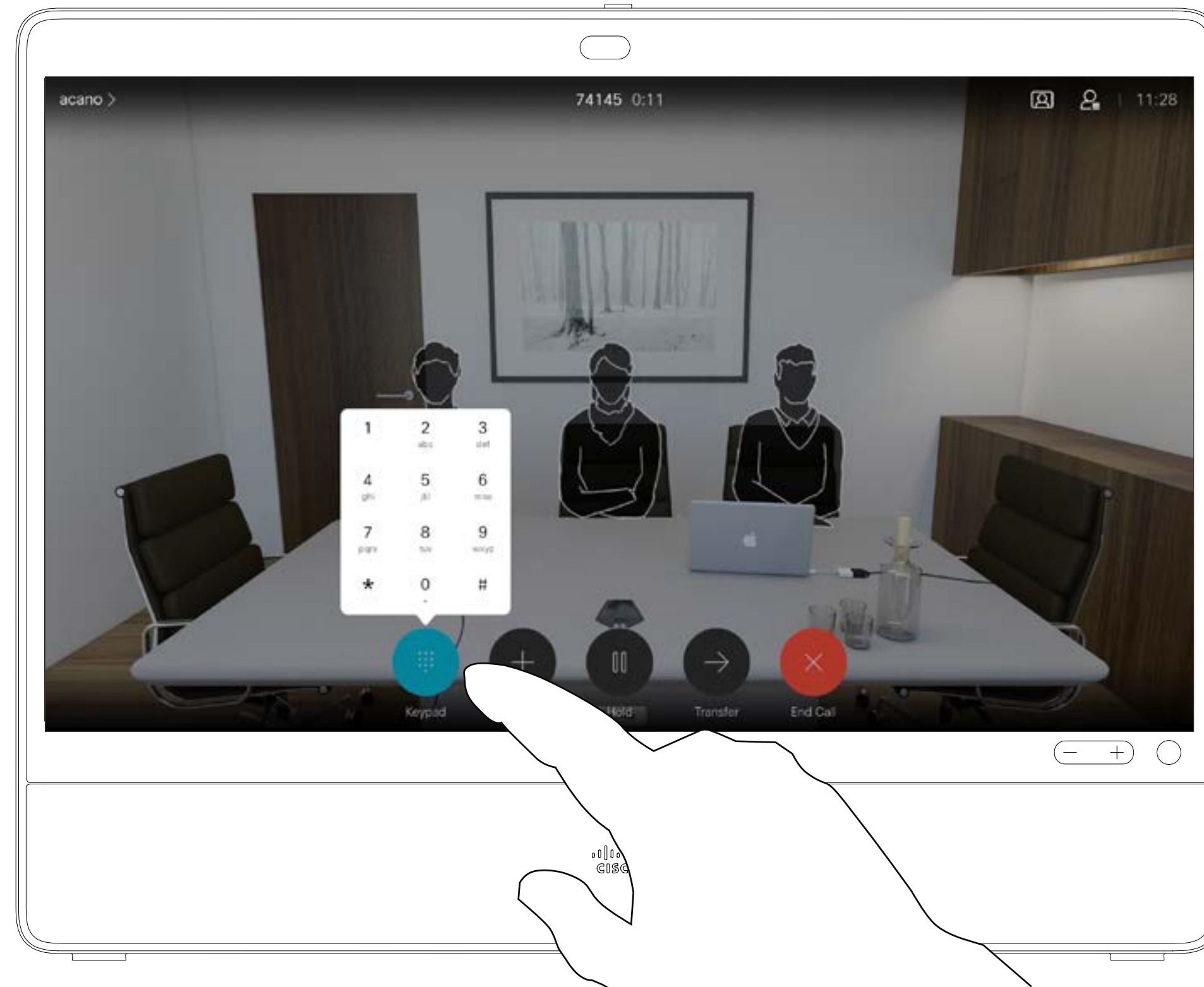
ビデオ通話

通話中にキーパッドを表示

通話中のキーパッドの使用

通話中に、内線番号へアクセスしたり、(暗証番号の使用などにより)その他の場所へアクセスしたりするために番号を入力するよう要求されることがあります。

番号を入力するには、タッチ画面のキーパッドを呼び出す必要があります。



通話中に キーパッドをタップすると、ダイヤルパッドが呼び出されます。

ビデオ通話 既存のコールへの参加者の追加

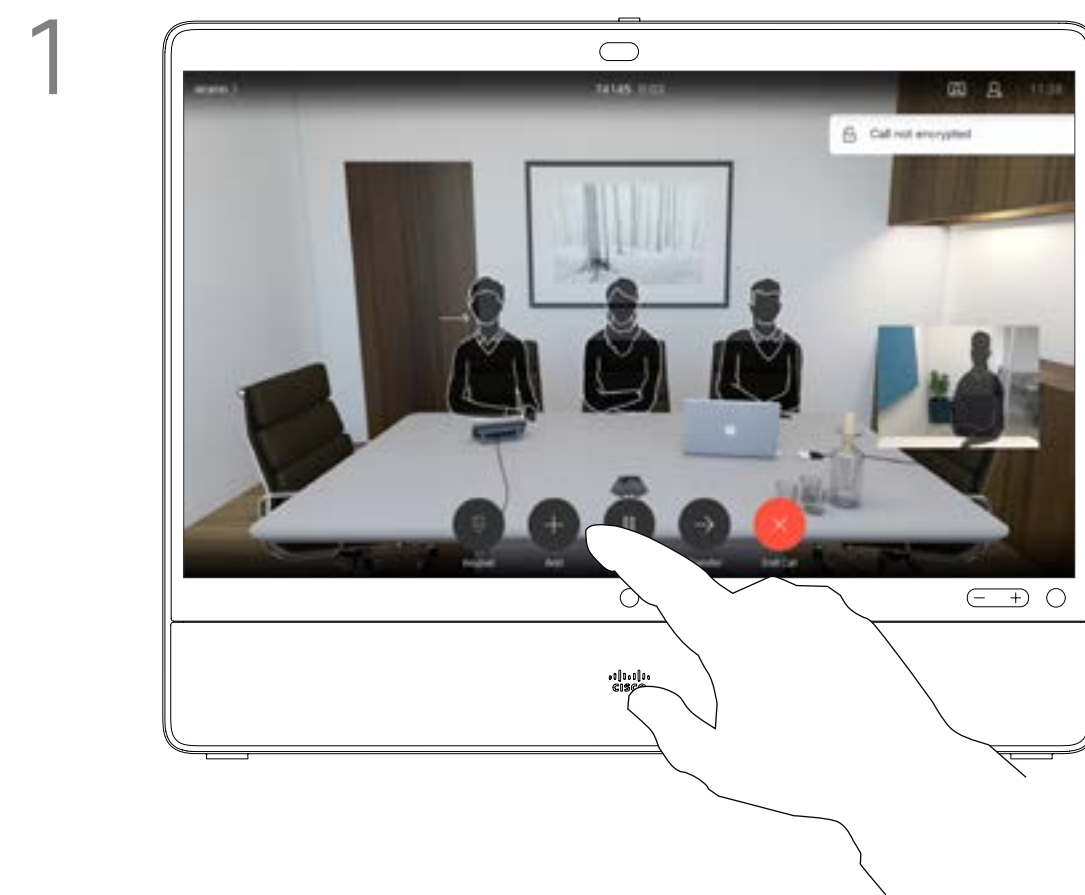
ビデオ会議について

ネットワークには、複数の参加者とビデオ会議を開始する機能が装備されている場合があります。

デバイスでサポートされる参加者の最大数は、デバイスの設定とビデオのインフラストラクチャによって異なります。これを確認するには、ビデオ サポート チームへお問い合わせください。

ビデオ会議を開始する場合は、参加者に一人ずつコールする必要があります。

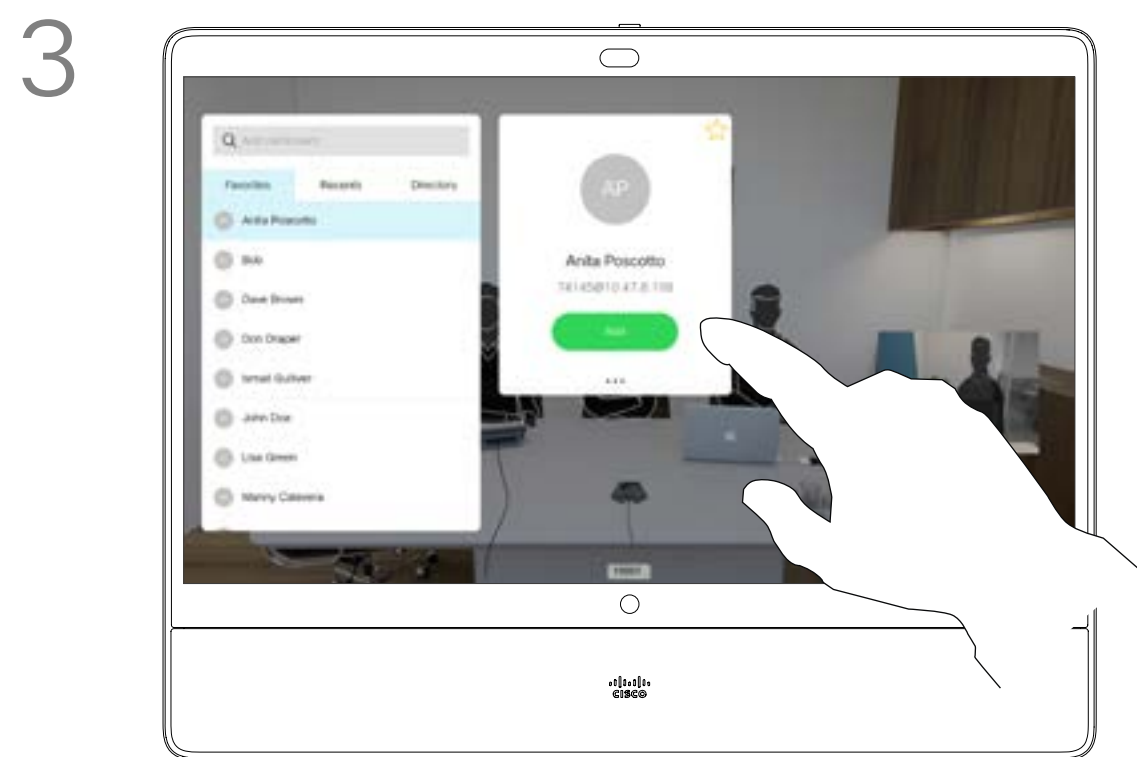
会議を開始したユーザは、会議全体を終了することができます。他の参加者が会議から切断できるのは自分だけです。



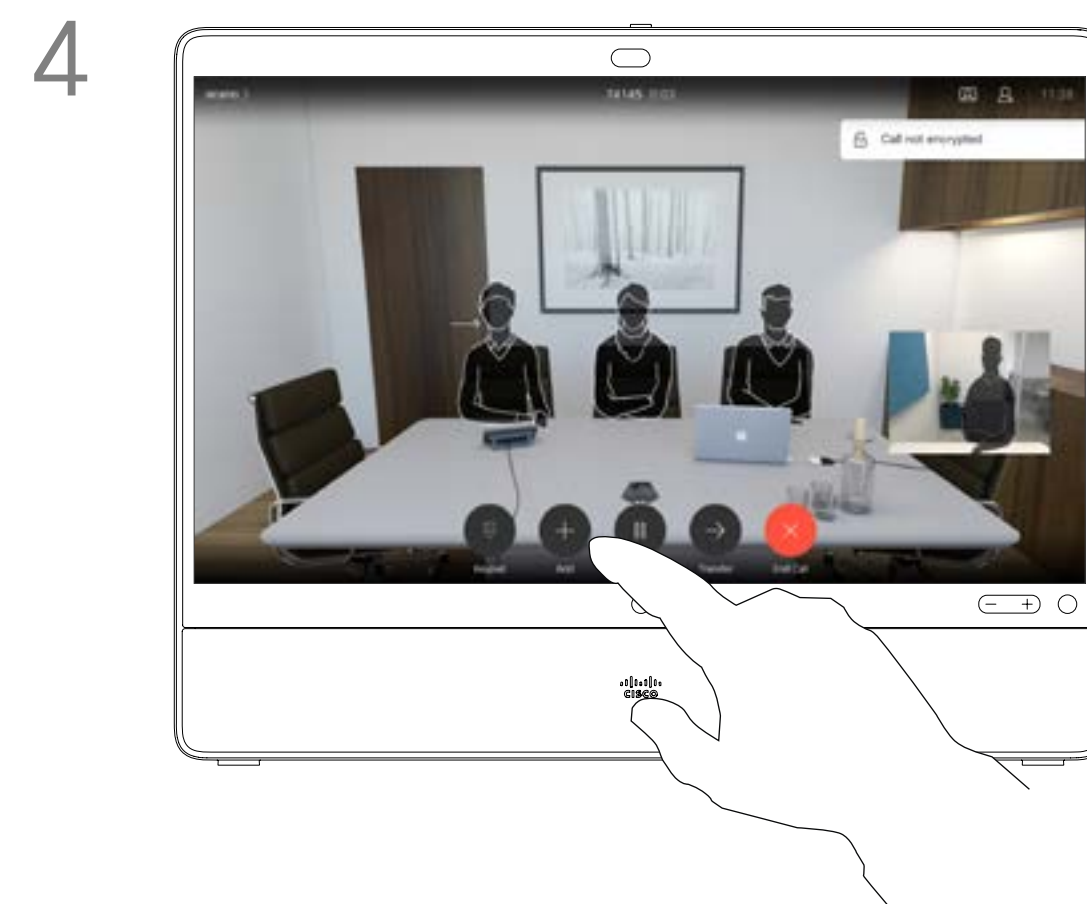
通話中に 追加をタップします。



通常の方法で、発信先を探します。



通常の方法で発信します。発信する前にその通話の通話設定を変更できます。詳細については、サイド バーを参照してください。



既存のコールにこの新しいコールが追加され、会議を確立しました。

ビデオ インフラストラクチャの許容する範囲で、この手順を繰り返すことができます。

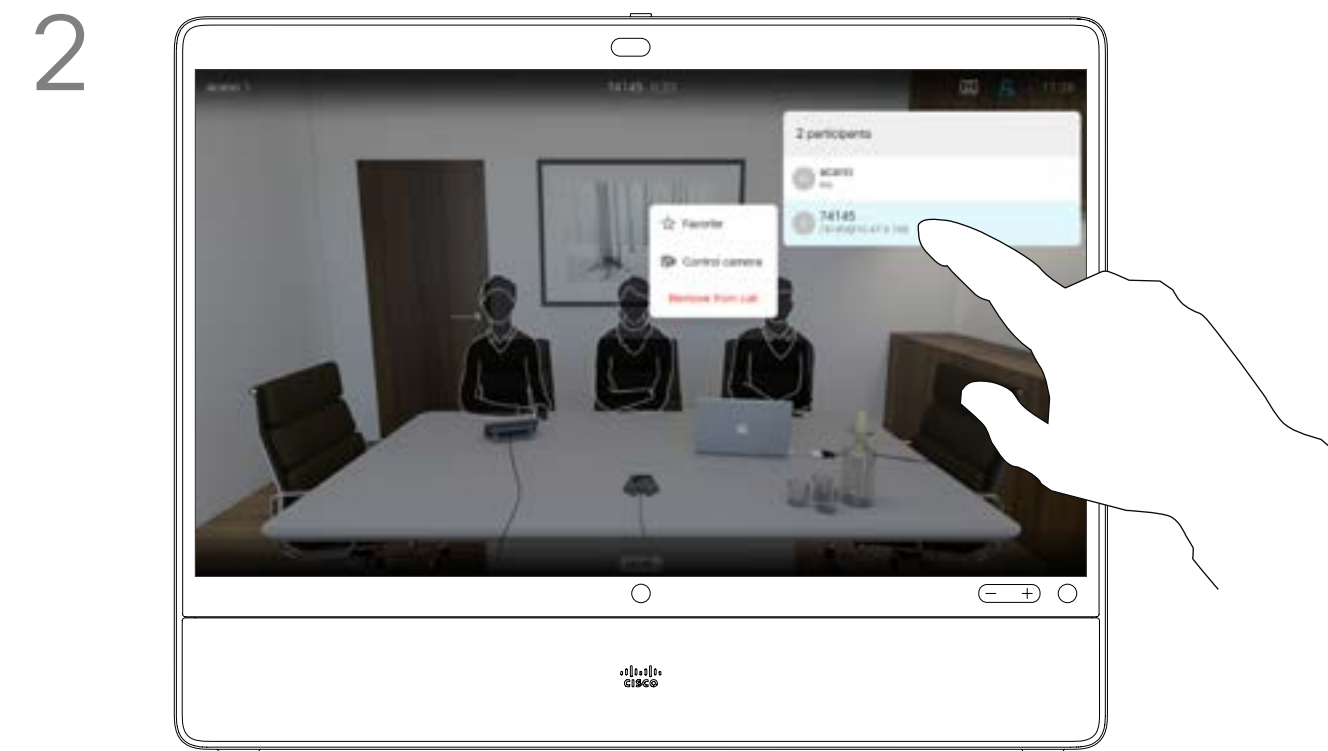
ビデオ通話 会議から参加者を切断

ビデオ会議について

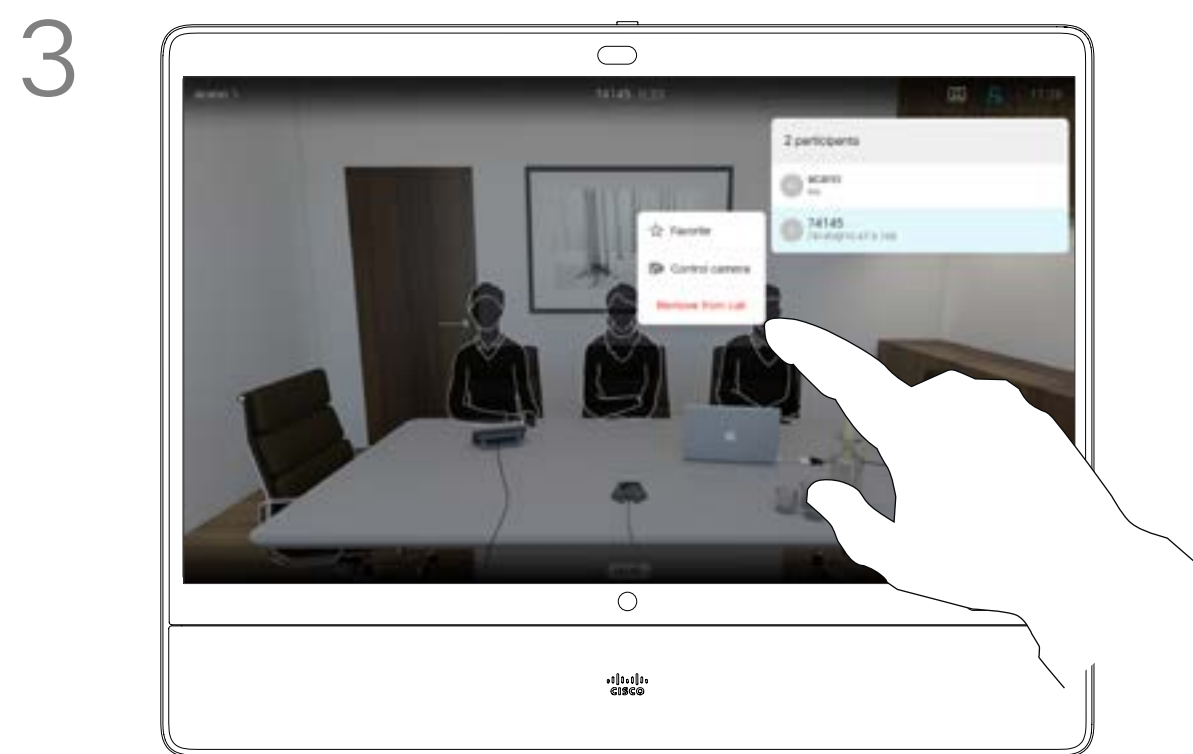
Desk Pro からビデオ会議を実施できるかどうかは、お使いのデバイスで使用できる場合とできない場合があります。



通話中に、図のように、右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



ミーティングからドロップする参加者をタップします。



コールから削除をタップします。

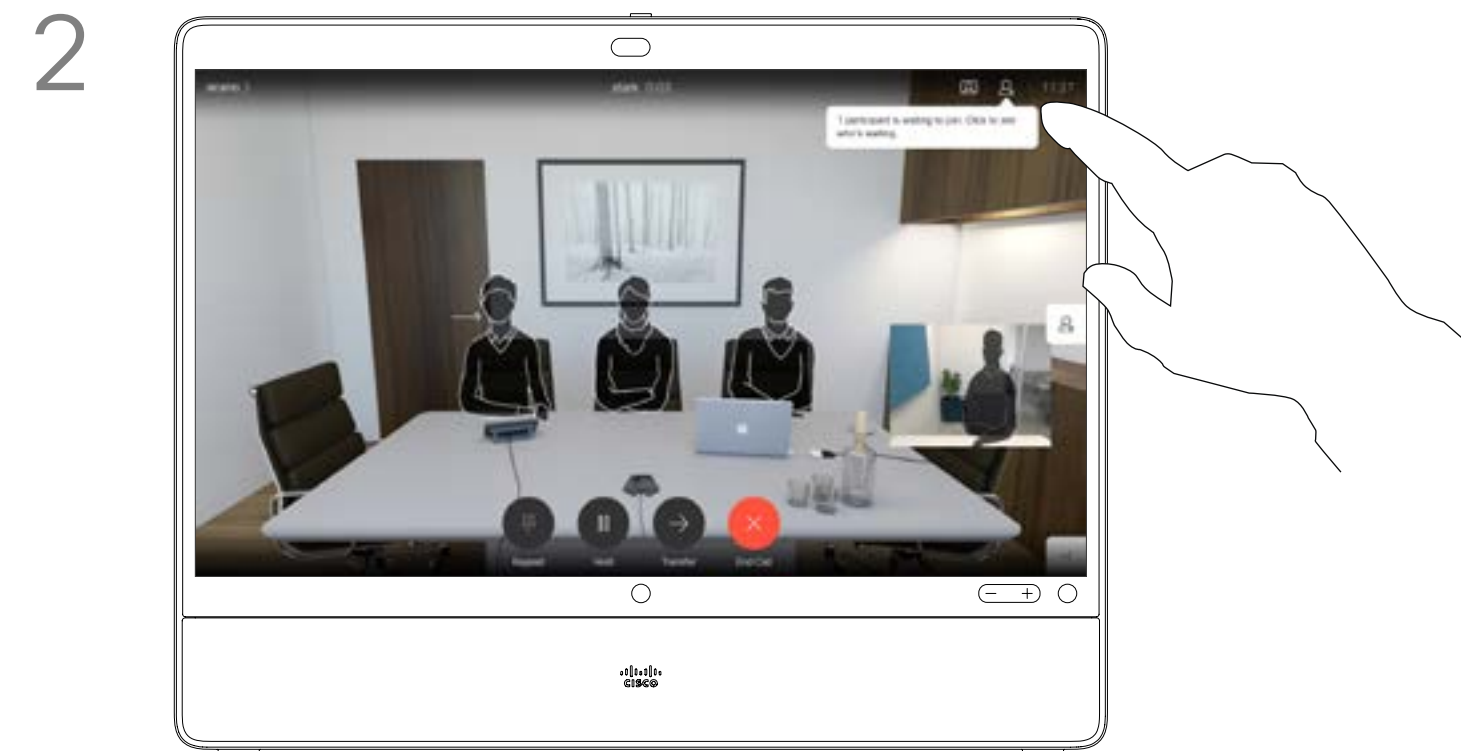
ビデオ通話 参加者をミーティングに許可する

参加者の許可について

ロックされている CMS ミーティングでは、参加者を参加者一覧からミーティングに参加させることができます。



誰かがロビーで待機中の場合、画面にメッセージが表示されます。



参加者アイコンをタップして開きます。

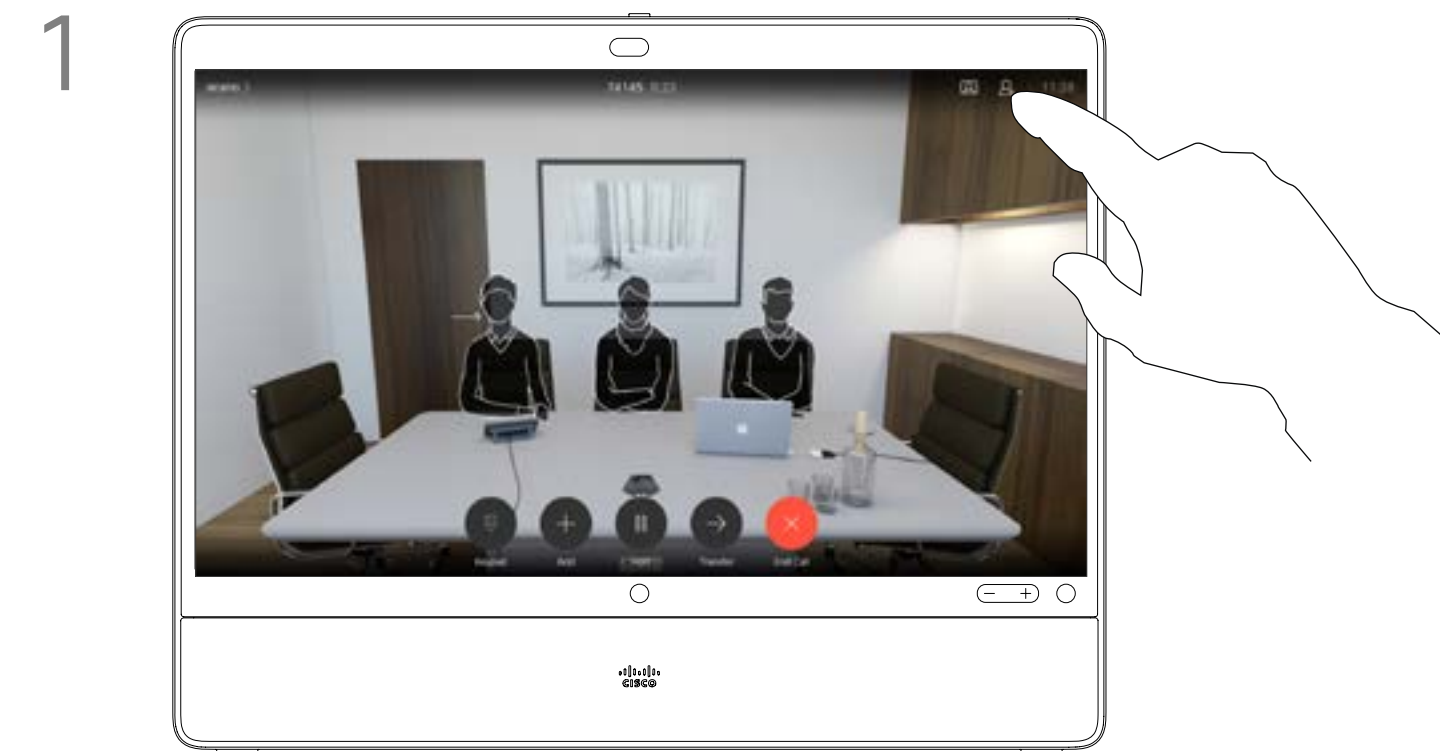


許可をタップして参加者をミーティングに参加させます。

ビデオ通話

ミーティング中のスピーカーの固定

スピーカーの固定について



通話中に、図のように右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



固定する参加者をタップします。

CMS ミーティングでは、ミーティングの参加者全員にとって重要であるとしてミーティングの参加者を固定することができます。このようにすると、参加者または会議室にアクティブなスピーカーでなくても、全画面に表示されます。

スピーカーを固定すると、そのスピーカーが固定されていることを示す通知が画面に表示されます。同様に、固定を解除すると、それらの固定が解除されたというメッセージが表示されます。

音声のみの参加者を固定する場合、この設定はレイアウトには反映されません。

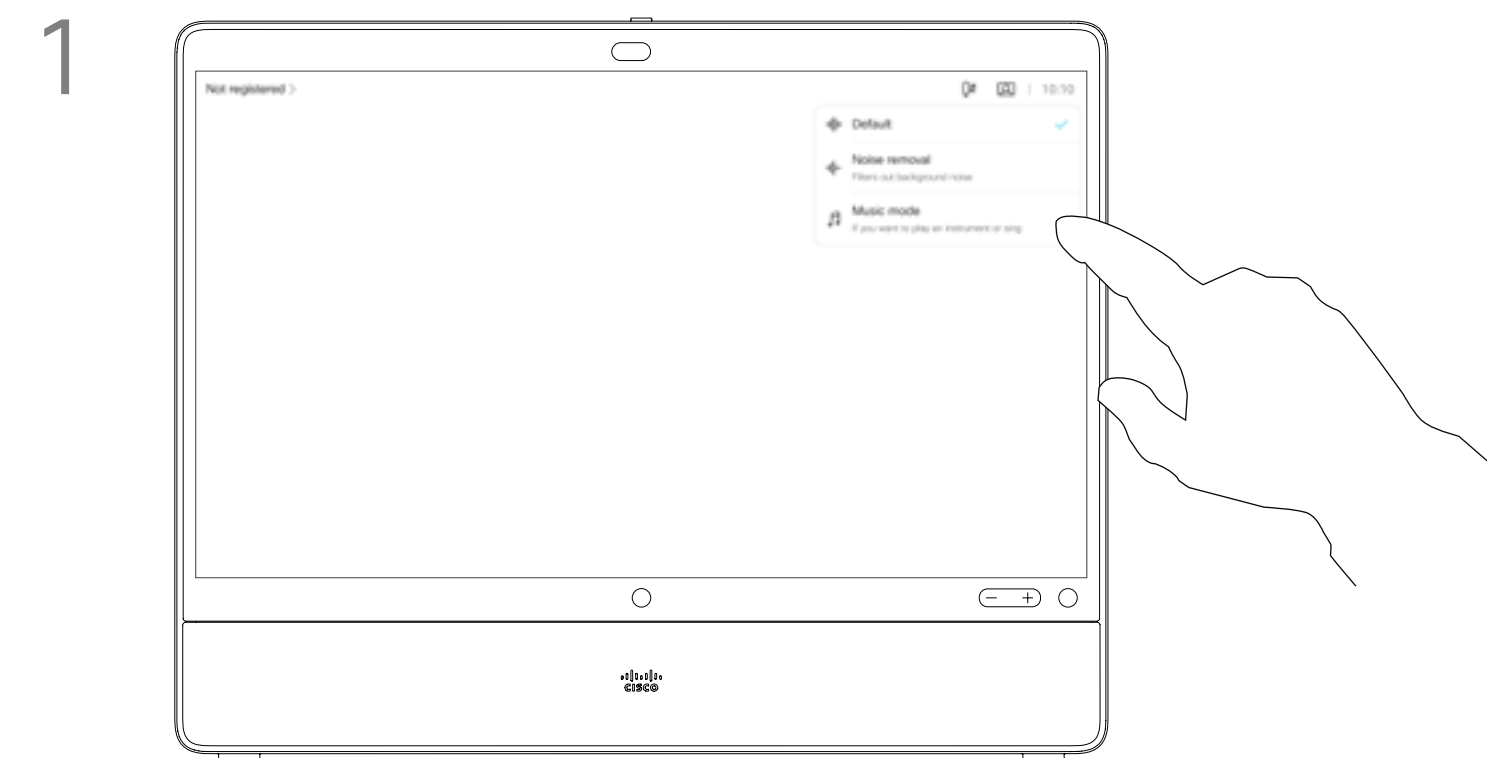
デフォルトでは、ホストのみがすべてを固定できますが、ミーティングの開催者は会議の設定でこれを変更することができます。

スピーカーは、CMS ミーティングでのみミーティング全体に対して固定できます。



すべて固定をタップします。

ミュージックモードの使用



1 ホーム画面のマイクアイコンをタップし、[音楽モード (Music mode)] を選択します。

ミュージックモードをオフにするには、もう一度 [デフォルト (Default)] ボタンを選択します。

ミュージックモードについて

ミュージックモードを使用すると、通話中に、音楽のダイナミックレンジを流すことができます。これにより、音楽のニュアンスを聞くのが重要な設定で、より良いエクスペリエンスが作成されます。

ミュージックモードは、リモートミュージックのレッスンや楽器のテスト、およびすべての範囲の音楽を聞くことが重要な場合に便利です。デバイスは依然として、エコーキャンセレーションと環境背景雑音のリダクション機能を使用して、パフォーマンスを損なうことなく外部装置を使用する必要を回避します。

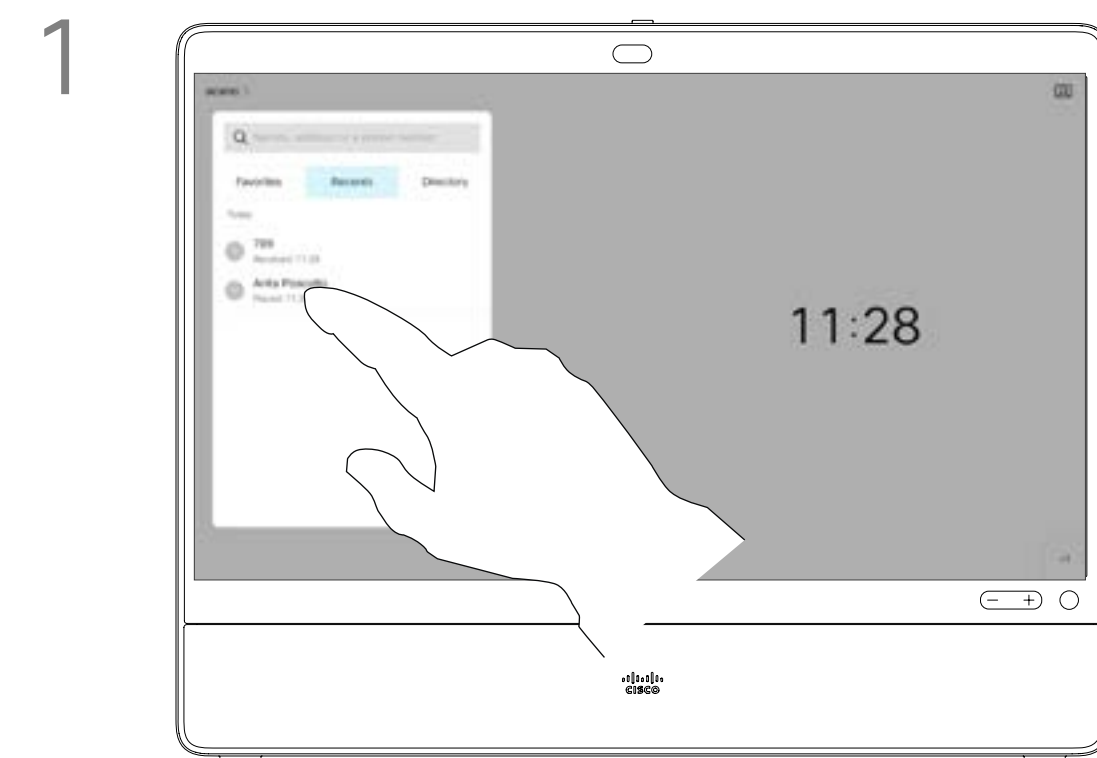
ミュージックモードを使用していない場合は、デバイスによって雑音がフィルタリングされ、音声のレベルの違いが減少します。これにより、ミーティングの設定に対応し、気を散らすノイズを減らすことができます。デバイスを使用して録音された音楽を再生する場合にも、追加のフィルタリングが適切に機能します。

ミュージックモードを使用するには、まずデバイス上で有効にする必要があります。ホーム画面の左上隅にあるデバイス名を選択して、設定 > ミュージックモードに移動してトグルをオンに切り替えます。

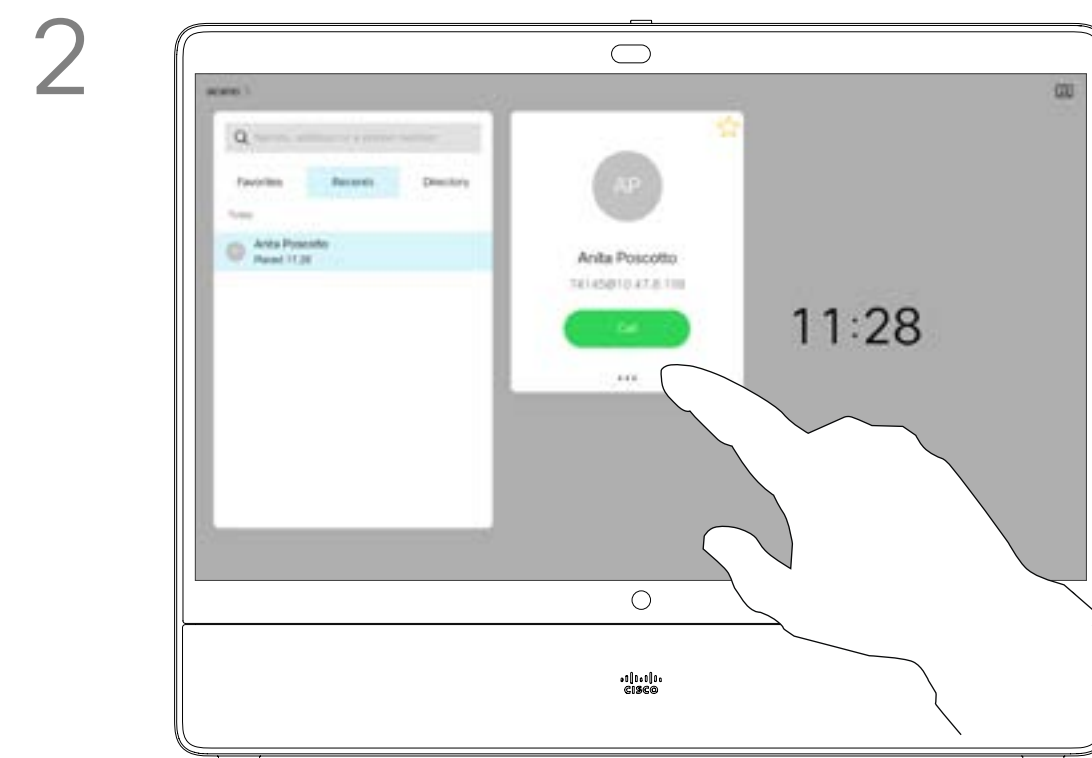
注: 音楽モードとノイズ除去は同時に使用できません。

ビデオ通話 最近の通話のコール詳細検索

通話の詳細について



コールを発信する前に、編集するエントリを検索します。エントリをタップします。コールメニューが開きます。



緑色の 通話ボタンのすぐ下にある 詳細[...]アイコンをタップします。



コール詳細をタップします。



リストを下方方向にスクロールして詳細を確認します。

最近の通話のトラブルシューティングを行う必要がある場合は、[最近の通話] リストから通話の詳細を見つけることができます。

インテリジェント近接通信

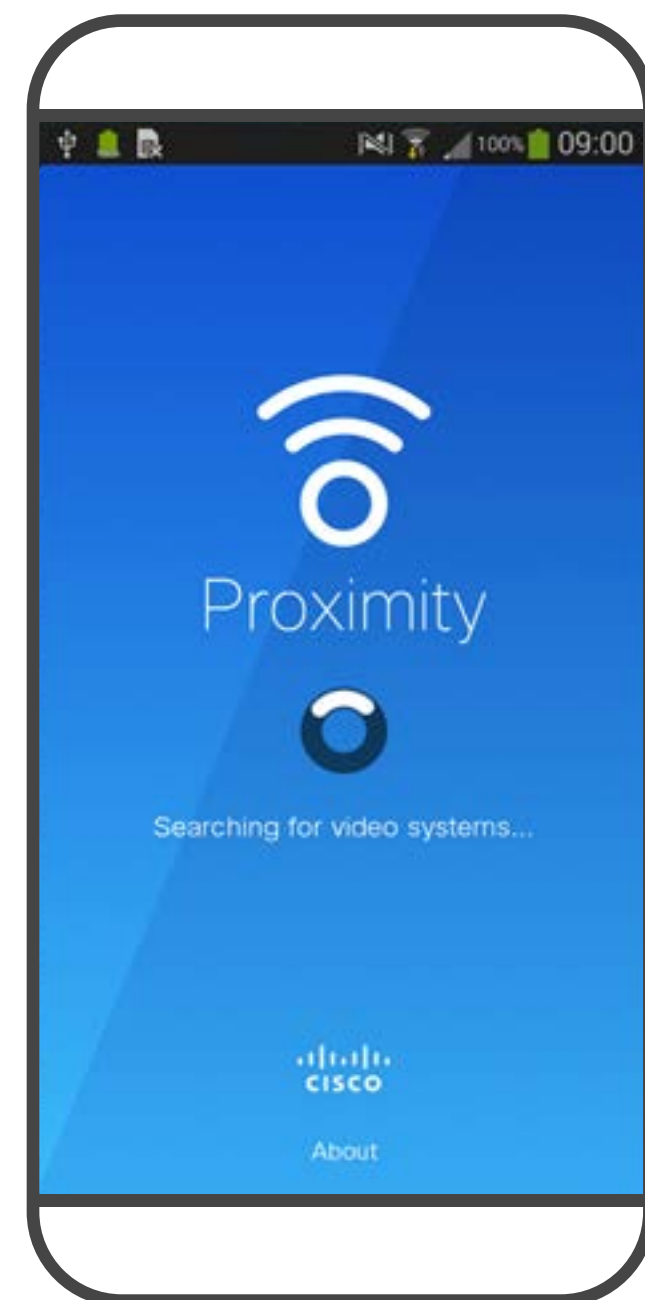


Cisco 近接通信の超音波信号

Cisco デバイスは、近接機能の一部として超音波を発しています。業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空中の超音波によって何らかの影響を自覚する場合がありますが、75dB 未満の音圧レベルで影響が生じることはほとんどありません。超音波の制限に関するガイドラインは国によって大きく異なります。Cisco 近接信号が出力される20 kHzあたりの周波数帯で検出される 75 dBの音圧レベルは、現在の制限における最小値となっています。

この情報の参考資料として、カナダ保健省のガイドライン http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code_24-securite/index-eng.php#a2.2.2 (英語) をご覧ください。



120 dB未満の音圧レベルでは永続的または一時的な難聴はどちらも発生していないと、このガイドラインでは述べられています。

個人使用の Cisco デバイスの場合、超音波の音圧レベルは 70 dB 未満で 20 cm 以上の距離にあります。スピーカーから 20 cm 以上です。

ほとんどの現実的なケースでは、ユーザの耳の位置でのレベルは、スピーカーの指向性、距離減衰、一般的な会議室での高い高周波数吸収率によって、これらの最大レベルよりはるかに低くなります。このレベルは、可聴音についてミーティングスペースの一般的なバックグラウンド/環境ノイズ レベルから通常のスピーチのいわゆる会話レベルまでさまざまです。

したがって、人間が近接通信の信号に連続的にさらされても安全であると考えられます。ほとんどの人は、信号の存在に気付かず、信号の影響を受けません。ただし、特に急性の高周波聴力を持つ一部の個人は、この信号が聞こえます。この状況はほとんどの場合、スピーカーの正面かつ近傍で起こります。

犬のような動物は、可聴周波数範囲が広いいため、近接通信の信号が聞こえます。

ただし、音の影響はレベルに依存し、犬の可聴レベルの範囲は人と大きくは異なります。20 kHz での犬の可聴しきい値は 0-10 dB と低く、最も感度の高い周波数範囲での人の耳のしきい値と変わりません。

シスコは、信号が犬に影響を及ぼす可能性についてテストや検証を行っていません。レベルが制限されているため、犬に信号が聞こえることが明らかであるとしても、犬にとってわずらわしいものではないと信じられています。

オフィスまたは会議室にいる犬は、通常のバックグラウンドノイズと同等のレベルまたはほとんどの会話レベルの超音波を受けることになります。当社の製品にこの機能を搭載したここ数年間で、信号によって動物が影響を受けたというレポートはありません。

ただし、超音波を使用する犬撃退デバイスが存在していることから、超音波が犬に及ぼす影響について疑問を持つことは当然のことです。これらのデバイスは通常、不快ではあるが無害な超音波を使用してい

ると主張しています。シスコは、犬撃退デバイスの設計について見識はありませんが、このようなデバイスの仕様を調べると、そのレベルが 100 dB 以上であることが多いことがわかります。

シスコのビデオコーデックをサードパーティ製のスピーカーシステムと組み合わせて使用するソリューションについては、シスコは超音波の音圧レベルを制御できません。ほとんどの場合、必要なスピーカー感度および周波数応答によって、音圧レベルは 75 dB の制限未満になります。しかし、過剰な信号の外部増幅を行う、またはスピーカーシステムが高周波を強調するものであった場合、この制限を超えた音圧が出力される可能性があります。

近接通信について

インテリジェント近接機能を使用すると、コンピュータからデバイス上のワイヤレスでコンテンツを共有できます。スマートフォンやタブレットでは、共有コンテンツを自分の画面に直接表示することもできます。

また、自分のスマートフォン、タブレット、PC、または MAC を使用して、デバイスのコールを制御することもできます。

次の条件に従ってください。

App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリケーションをダウンロードする必要があります (無料)。

Windows または OS X を使用している場合は、<https://proximity.cisco.com/> (英語) にアクセスしてください。

ビデオサポートチームは、すべての機能を有効にしている場合も、無効にしている場合も、一部の機能だけを有効にしている場合もあります。

インテリジェント近接通信は、ユーザの接続時に超音波を利用します (詳細は左記参照)。コンピュータやスマートフォン、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

インテリジェント近接通信は、会議室のドアが閉じられた状態では、ミーティング室の外側では機能しないように設計されています。この機能を使用するには、ビデオデバイスの近くにデバイスを置く必要があります。

プライバシーの保護が必要な場合は、常に会議室の扉を閉めて、隣室に音が漏れないように配慮してください。



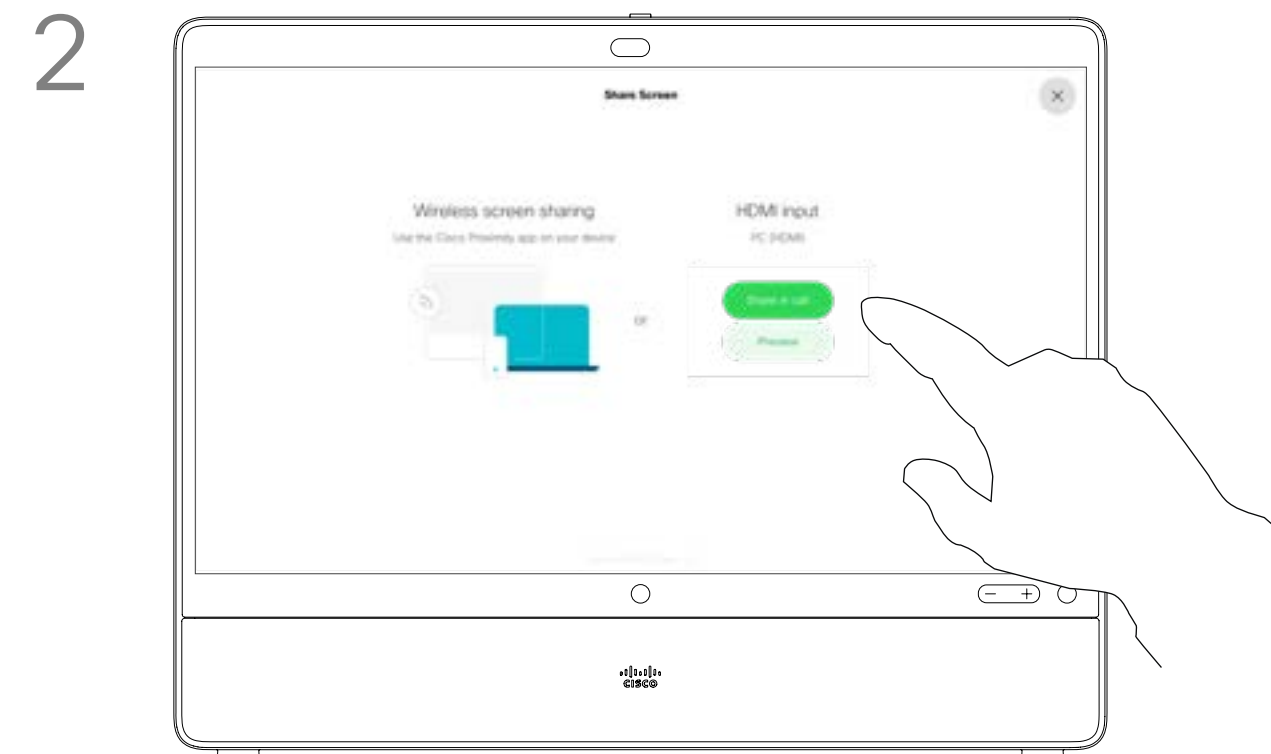
コンテンツ共有

コンテンツ共有 通話中のコンテンツ共有

コンテンツ共有について



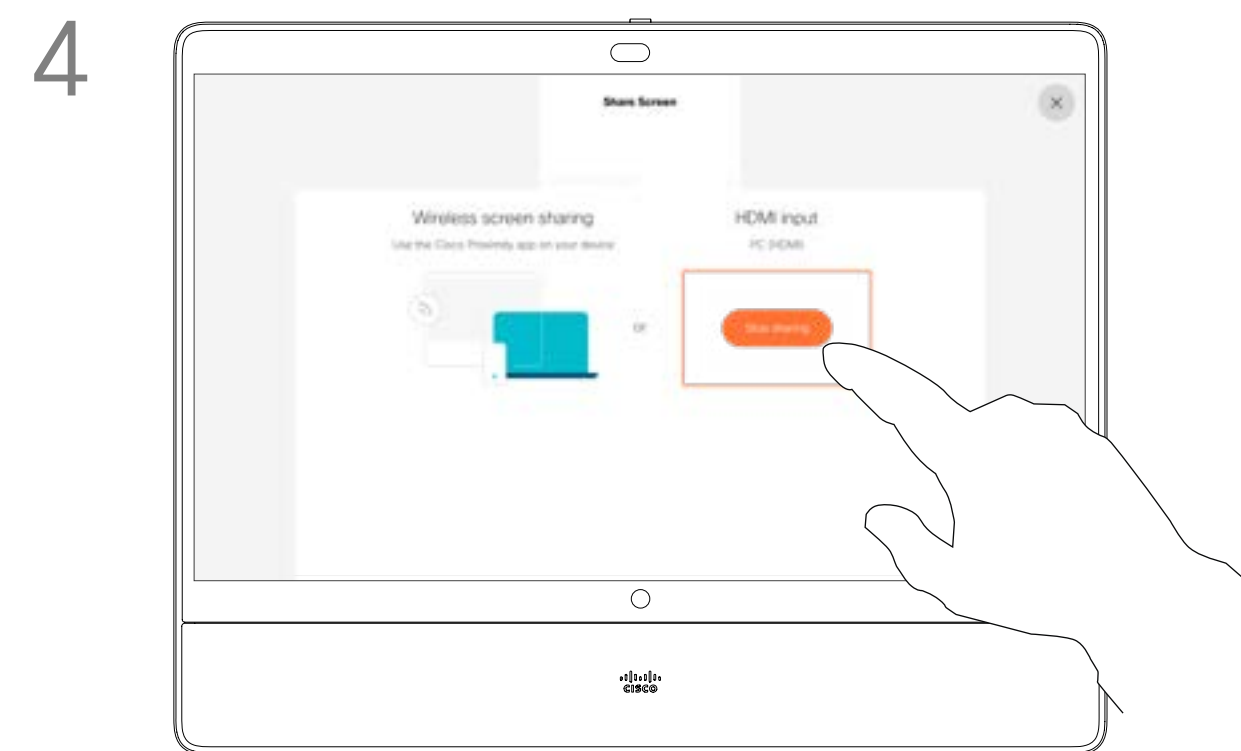
通話中に、ソースを接続して、オンになっていることを確認します。共有オプションおよびプレビューをタップすると、PC の画面が Desk Pro にローカルで表示されます。これを行ったときに画面に表示される内容は、他の参加者には表示されません。



他の参加者と自分の PC の画面を共有したくない場合は、共有オプションおよびプレビューを停止をタップすると元の状態に戻ります。コンテンツを共有する場合は、図のように 通話で共有をタップします。



PC 画面のコンテンツが他の参加者と共有されています。



コンテンツの共有を停止するには、[Sharing options (オプションの共有)] および [共有を停止 (Stop sharing)] をタップします。

デバイスは、ビデオコールまたはビデオ会議でプレゼンテーションを表示する機能をサポートしています。

プレゼンテーション中に、スクリーンのレイアウトを変更することができます。詳細については、次のページを参照してください。

通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更

プレゼンテーション レイアウトについて

1



レイアウトをタップして、図のようにレイアウトオプションを呼び出します。

2



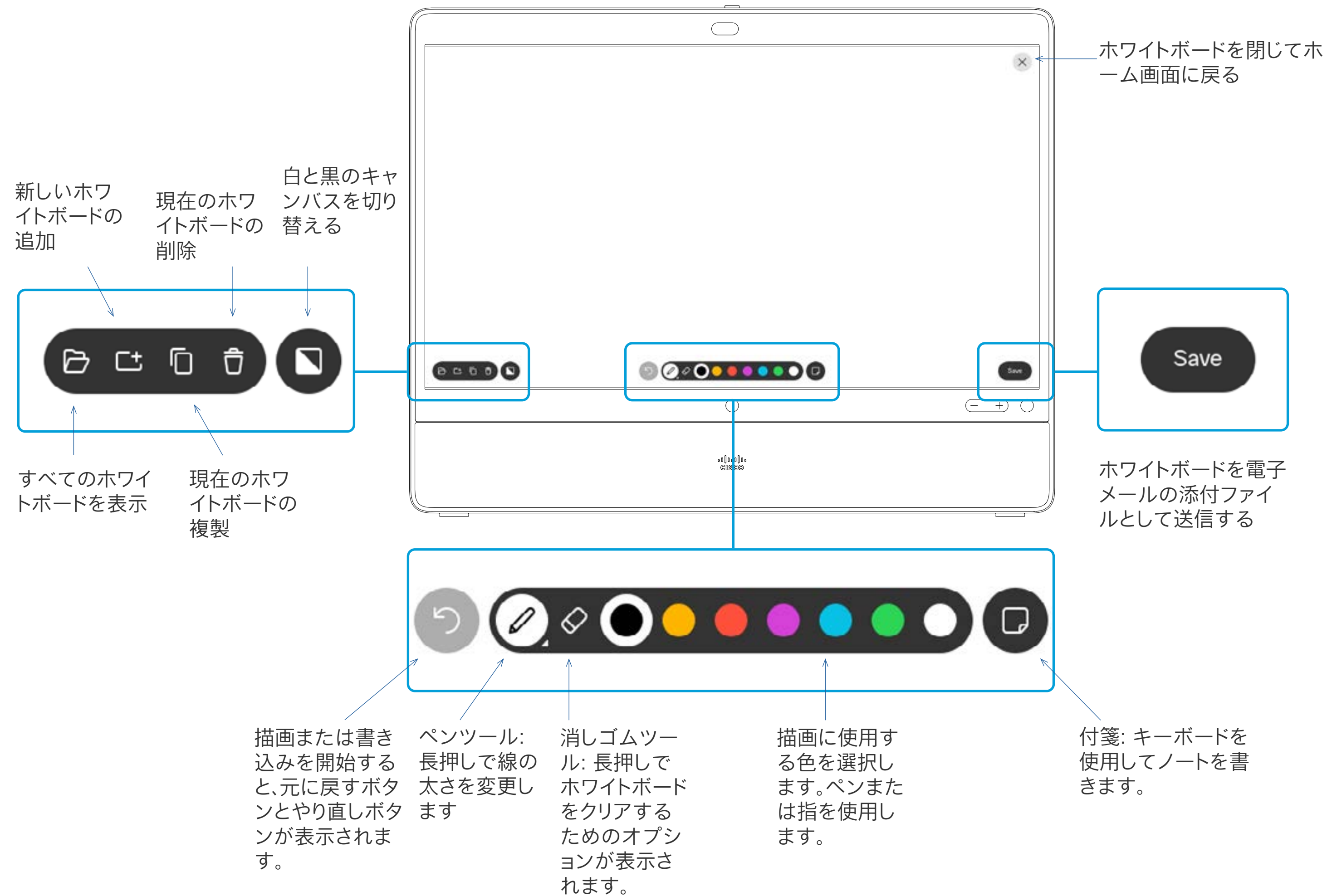
好みのレイアウトをタップして選択します。

プレゼンテーション中に画面のレイアウトを変更できます。一般的な利用可能なオプションは、プレゼンタの表示または非表示に加え、プレゼンタを PiP (ピクチャインピクチャ) または PoP (ピクチャアウトサイドピクチャ) での表示を指定します。

デバイスで使用可能なレイアウトオプションは、ここに表示されているものと異なる場合がありますが、表示されるレイアウトは常に選択可能なものです。

デジタルホワイトボードとして使用する

ホワイトボードについて



Desk Pro のデジタルホワイトボードを使用できます。

ホワイトボード機能にアクセスするには、ホーム画面に移動し、ホワイトボードをタップします。

スタイラスまたは指を使用して書き込みと描画を行います。

ホワイトボードページのサイズは必要に応じて大きくなります。2本の指を使用してホワイトボードとピンチをドラッグすると、ズームできます。

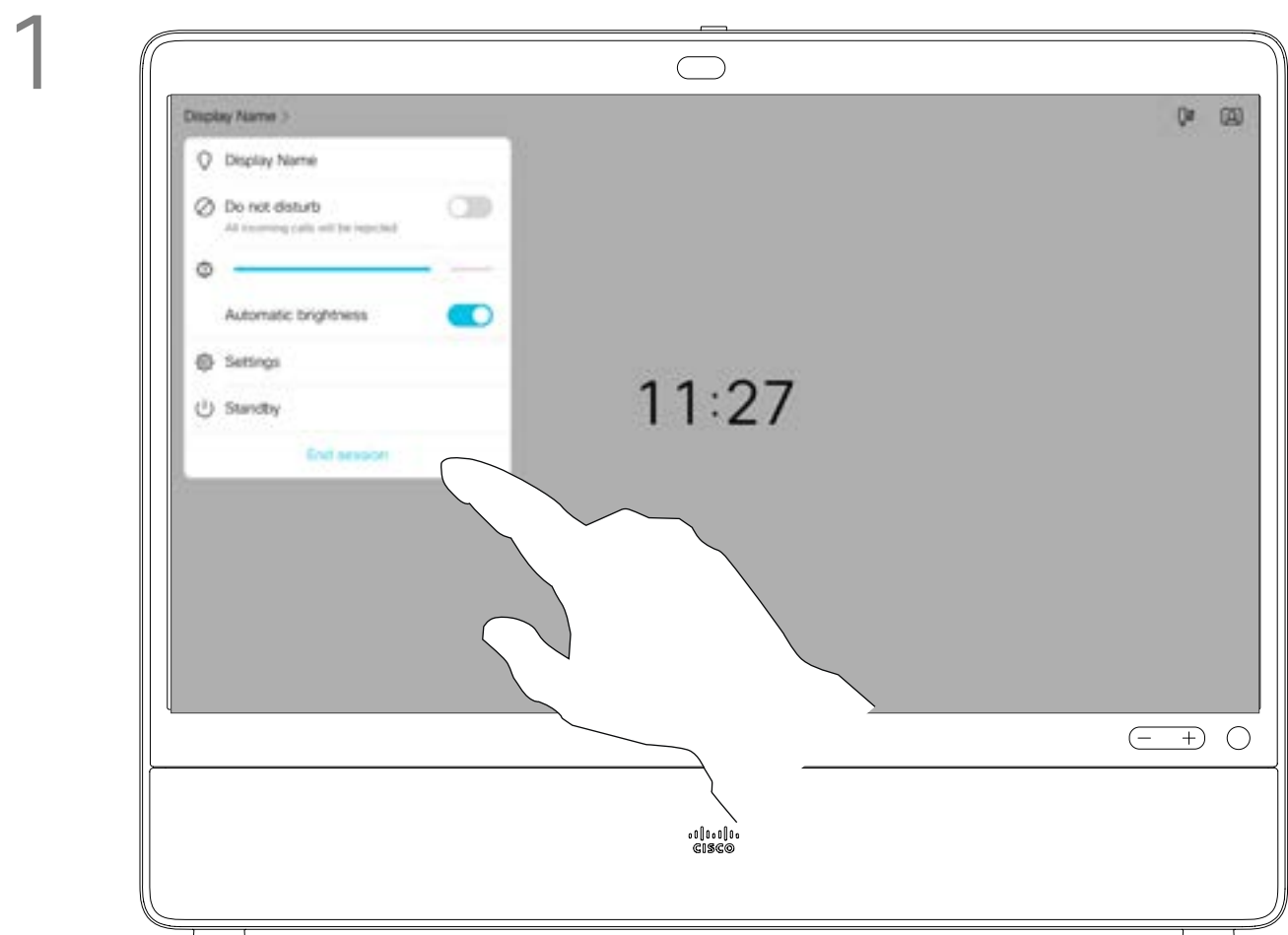
ホワイトボードの図面を保存するには、そのホワイトボードを電子メールとして送信します。これを行うには、ビデオサポートチームが、電子メールサーバを使用できるように Webex Board を設定している必要があります。

ホワイトボードは PDF 形式で共有されます。

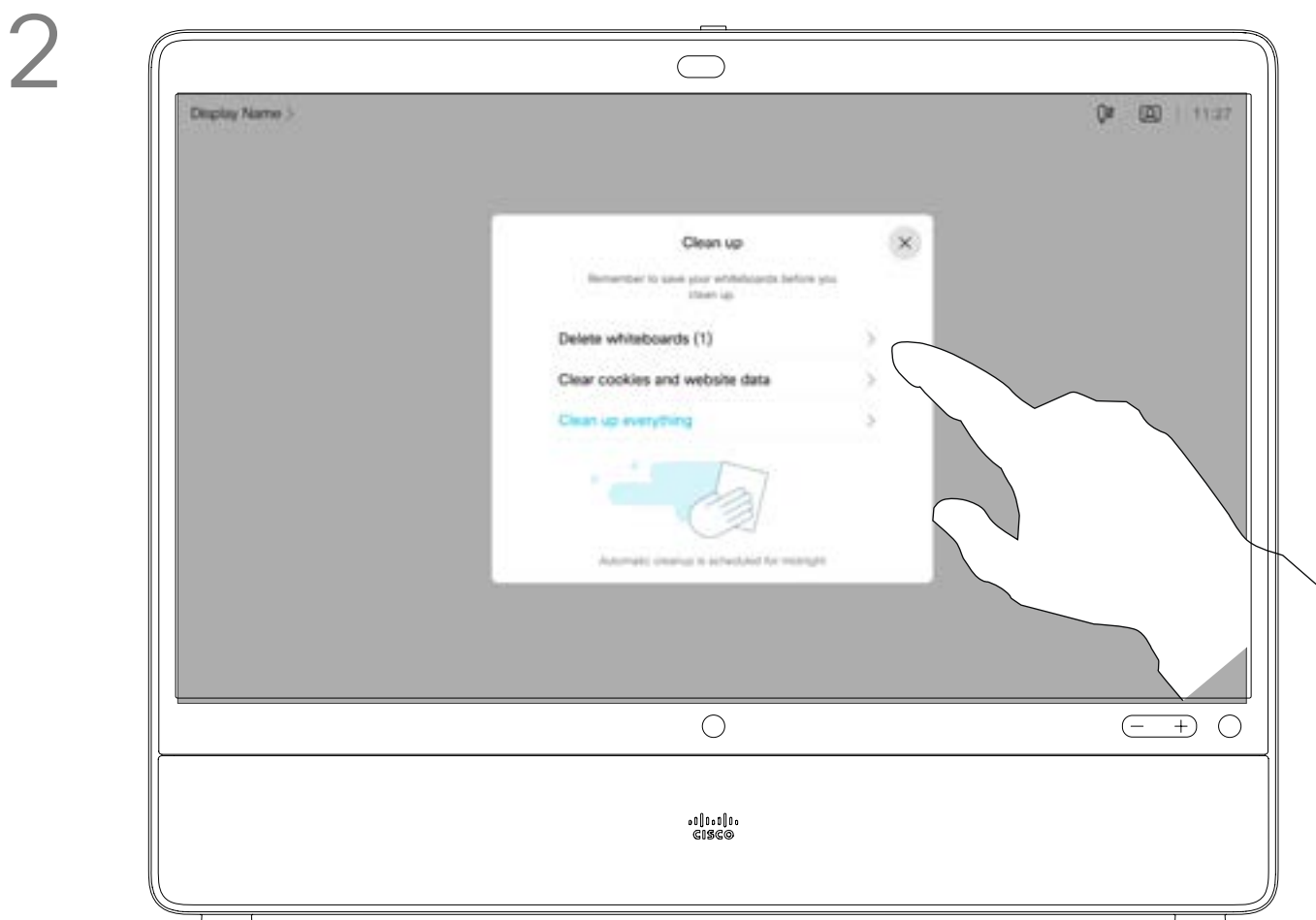
すべてのホワイトボードを削除するには、[ホーム]画面で[デバイス名]をタップし、セッションを終了をタップします。

セッションを終了してデスク Proをクリアする

セッションの概要



セッションを終了する準備ができたなら、左上隅にあるデバイスの名前をタップして、セッションの終了を選択します。



すべてのホワイトボード、すべての Web サイトデータ、またはその両方をクリアするかどうかを選択できます。Web サイトデータの削除は、システム管理者によって Web エンジンが有効化されている場合にのみ表示されることに注意してください。

セッション中は、ホワイトボード、注釈、および Web アクティビティがお使いのデバイスに保存されます。休憩を取ったり、アクティビティを切り替えることができます。その後、ファイルに戻り、作業を続行することができます。

次のユーザのためにすべてのホワイトボードとブラウジングデータをクリアして、デバイスからいつでもセッションを終了できます。

デフォルトでは、ホワイトボードと Web データは毎日午前 0 時に自動的に削除されます。自動クリーンアップが無効になっているか、または別の時間に発生するように設定されている場合は、システム管理者に問い合わせてください。

有線タッチのリダイレクト

Desk Pro 画面からラップトップを操作できます。これは、Windows 10 ラップトップを HDMI ケーブルと USB-C ケーブルを使用して Desk Pro に接続している場合に機能します。この機能は、ドラッグアンドドロップ、描画プログラム、およびマップを含むタスクに適しています。

通話のリダイレクト機能は、ローカルで共有している場合または通話中に共有している場合に使用できます。

この機能は、Windows 10 でテストおよび検証されています。基本機能は、別の OS でも動作する必要があります。

制限事項

- ・ タッチリダイレクトを使用しているとき、共有画面上でコメントを使用できません。
- ・ タッチリダイレクトを使用している場合、Desk Pro の音量コントロールは利用できません。ラップトップの音量コントロールを使用します。

ブラウザのドラッグアンドドロップを有効にする

ブラウザでドラッグアンドドロップするためにタッチリダイレクトを使用するには、ブラウザ上でこれを有効にする必要があります。

- ・ Chrome: `chrome://flags/#touch-events`に移動し、有効に設定します。
- ・ Firefox: 設定に移動して`Dom.w3c_touch_events.legacy_apis.enabled = true`を設定します。
- ・ Edge: フラグに移動します。タッチイベントを有効にする = 常にオンに設定します。

Windows 10 ラップトップでタッチリダイレクトを使用する

1. タスクバーの日付と時刻の横にあるアクションセンターを選択し、タブレットモードをオンにして、ラップトップをタブレットモードに切り替えます。
2. HDMI ケーブルと USB-C ケーブルを使用して、ラップトップを Desk Pro に接続します。Usb-C-USB-C ケーブルまたは USB-C-USB-A ケーブルを使用することができます。

メモ: USB-C-USB-A: より長いケーブルの長さに対応したケーブルがサポートされています。
3. ホーム画面で共有を選択し、タッチリダイレクトボタンをタップします。

タッチリダイレクトの使用中にデスク内の他のアクティビティに切り替える場合は、タッチリダイレクトボタンをタップし、画面をタップしてホーム画面へのアクセスを取得します。



ミーティングのスケジュール

ミーティングのスケジュール

ミーティングのスケジュールに参加する

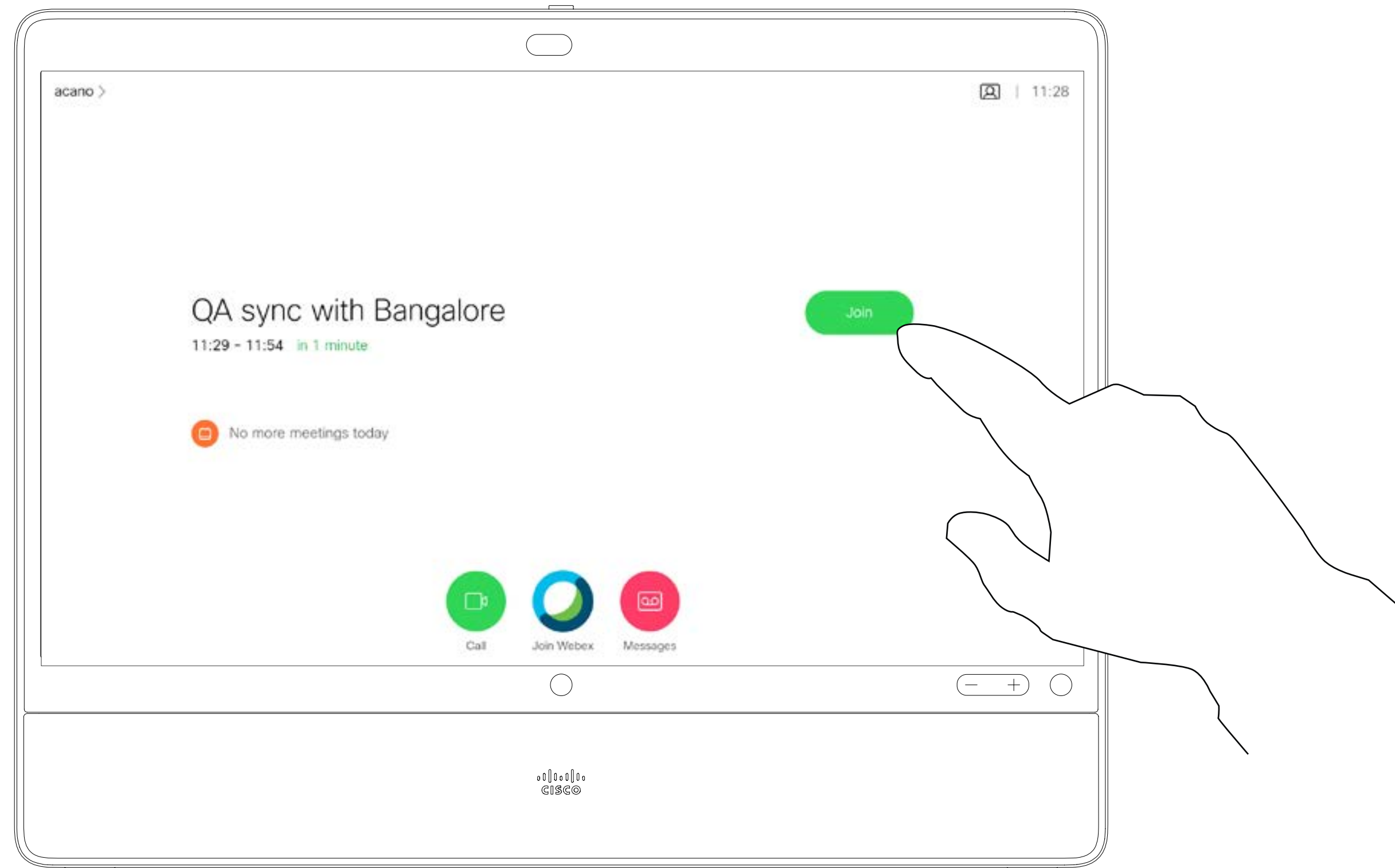
ミーティングへの参加

デバイスは、ビデオミーティングをスケジュールできる管理システムに接続されている場合があります。ミーティングスケジュールはどれも左の図のように表示されます。

ミーティングに参加するには **参加** をタップします。

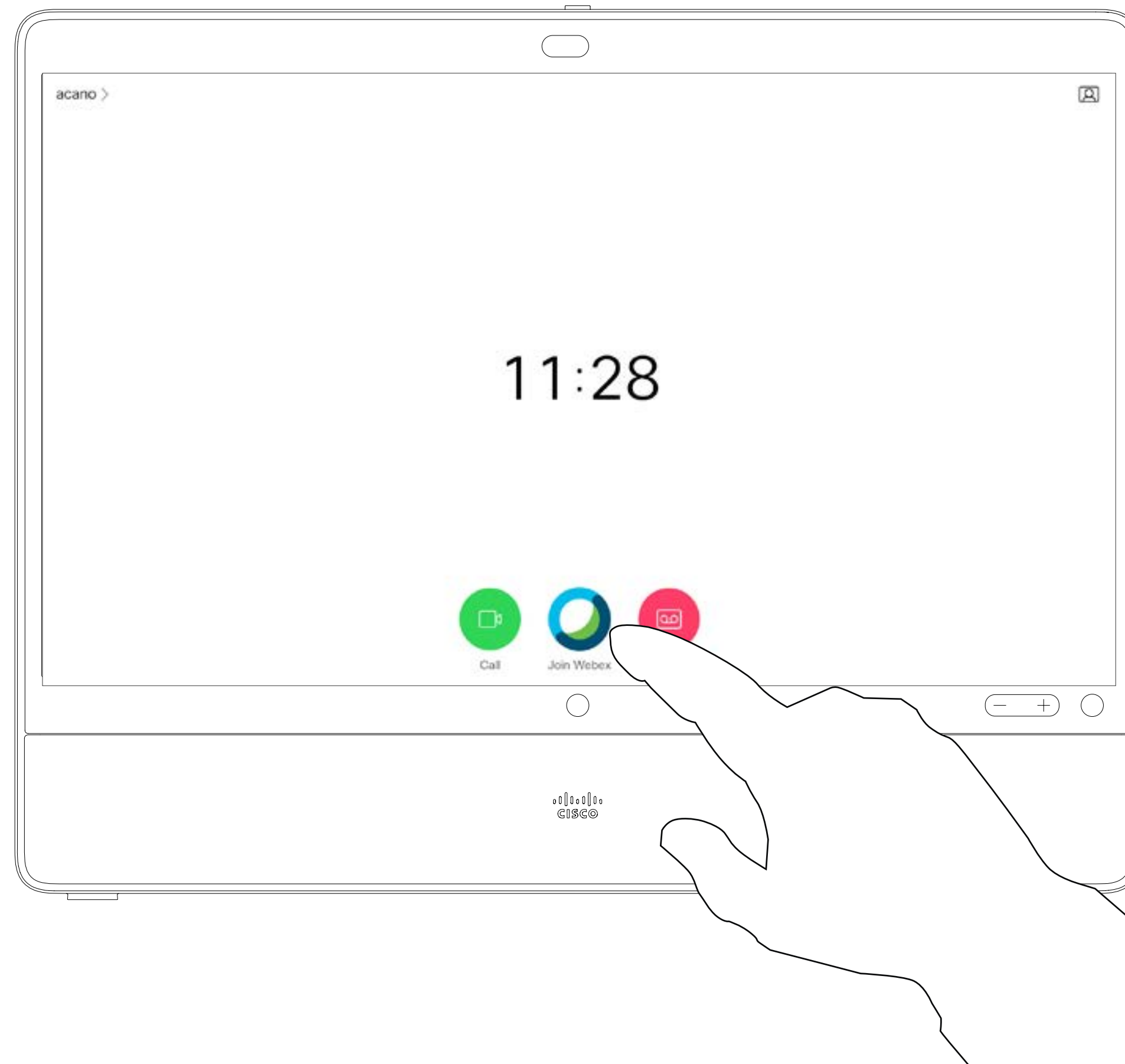
ミーティングがすでに始まっても参加できます。

[デバイス] 画面にスケジュールされたミーティングが表示されると、デバイスはスタンバイからウェイクアップします。



ミーティングのスケジュール

Webex ミーティングへの参加



タップで Webex に参加受信した招待にあるミーティング番号を入力するよう求められます。参加をタップしてミーティングに参加します。



コンタクト

コンタクト

お気に入り、発着信履歴、ディレクトリ

連絡先リストについて

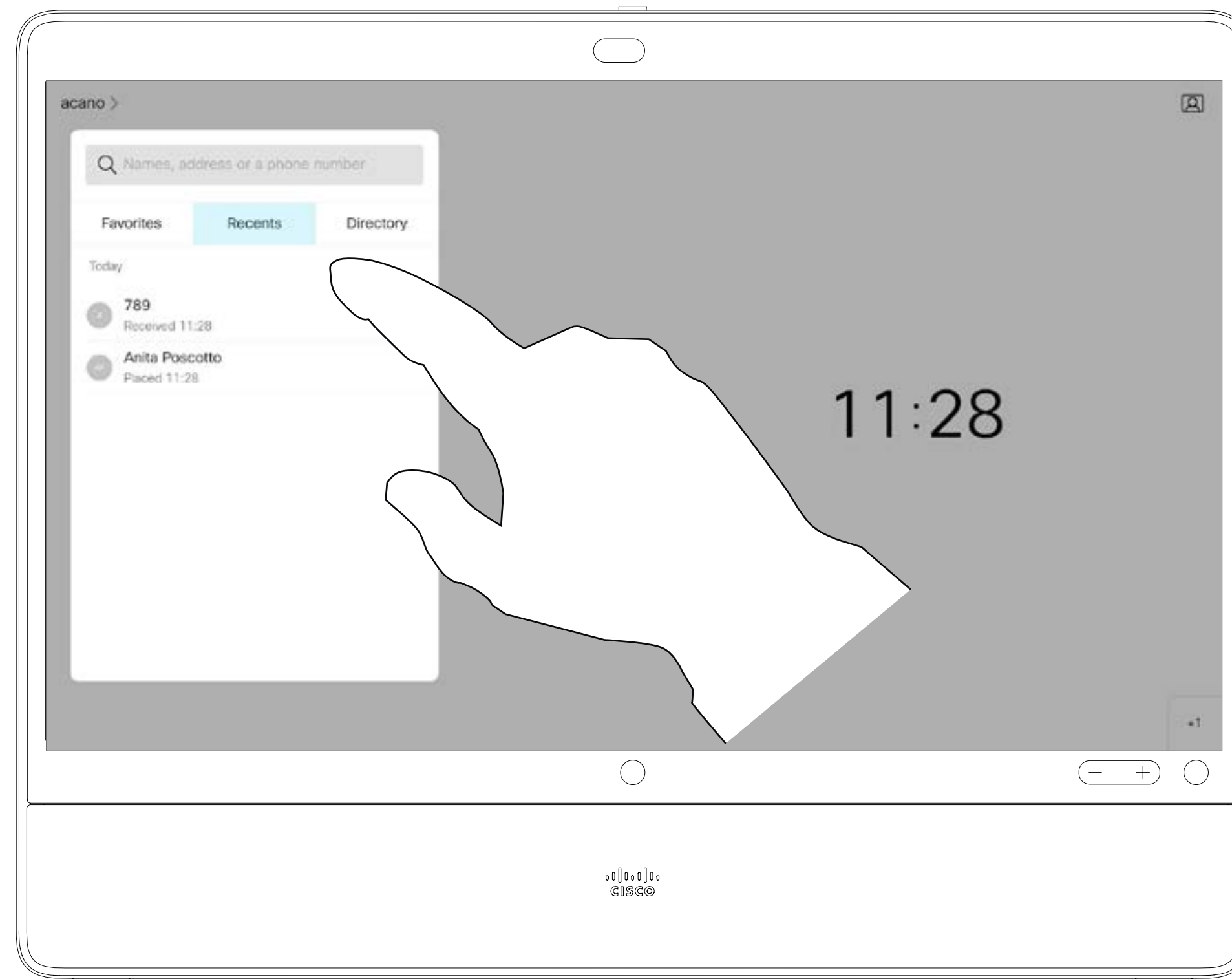
連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

お気に入り。これらの連絡先はユーザによって配置されています。これらのエントリは、頻繁にコールするか、または迅速にアクセスする必要がある場合に使用します。

ディレクトリは通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされた社内ディレクトリです。

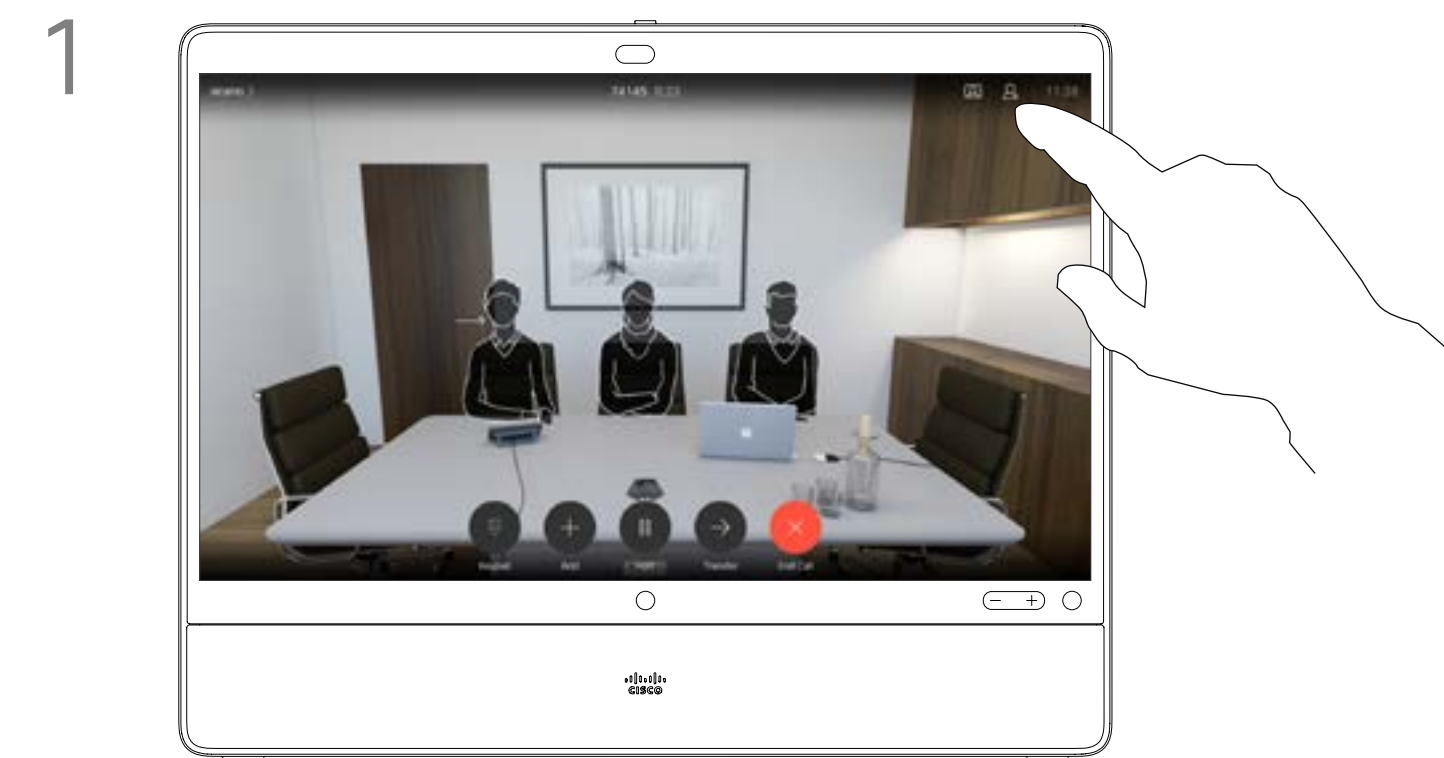
発着信履歴は、発信、受信、不在着信のリストです。

発着信履歴からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。



コンタクト 通話中に [お気に入り] に追加する

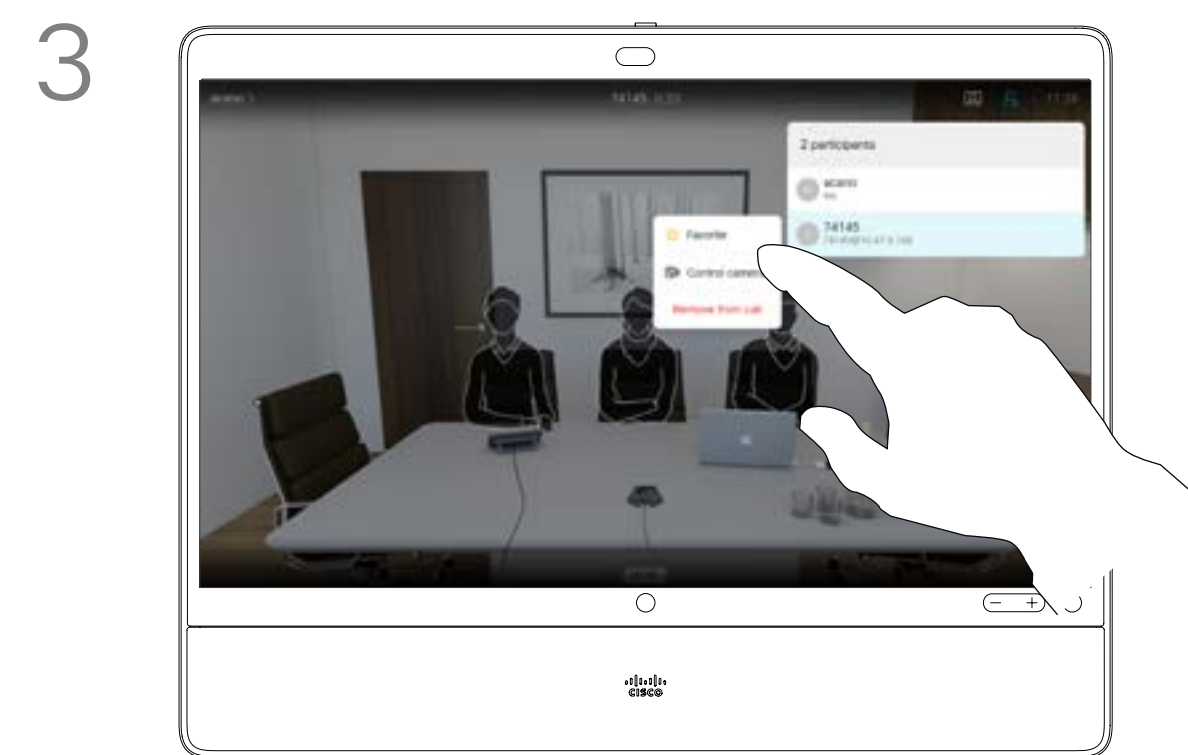
お気に入りについて



通話中に、図のように右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



[お気に入り] に追加する参加者をタップします。小さなメニューで、その参加者をドロップする(その参加を終了する)か、参加者をお気に入りのリストに追加することができます。



お気に入りをタップします。

お気に入りは、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[お気に入り(Favorites)] は、[発着信履歴(Recents)] または [ディレクトリ(Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。

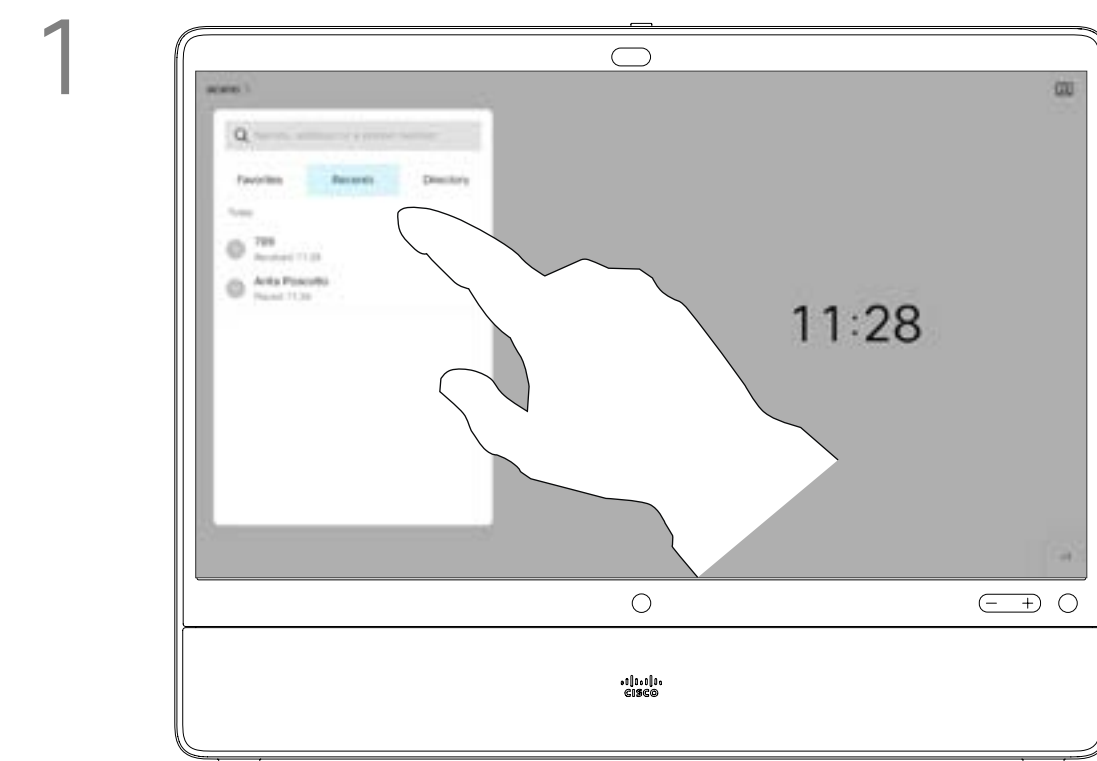
コンタクト 非通話時に [お気に入り] に追加する

この機能について

お気に入りは、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[お気に入り(Favorites)] は、[発着信履歴(Recents)] または [ディレクトリ(Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。

[お気に入り] リストに手動でエントリを追加するには、ページに「名前、番号、またはアドレスを入力します」の説明に従って、[検索またはダイヤル12](#)欄に名前またはアドレスを入力します。



図のように、非通話時に [発信 (Call)] (図示せず) をタップして、[連絡先(Contacts)] リストを呼び出します。[発着信履歴(Recents)] または [ディレクトリ(Directory)] をタップして、[お気に入り (Favorites)] に追加するエントリを検索します。



お気に入りリストに追加する参加者をタップします。緑色の [発信 (Call)] ボタンの下にある、その他(...) アイコンをタップします。



お気に入りとしてマーク をタップします。エントリが [お気に入り] に追加されます。メニュー以外の場所をタップして終了します。

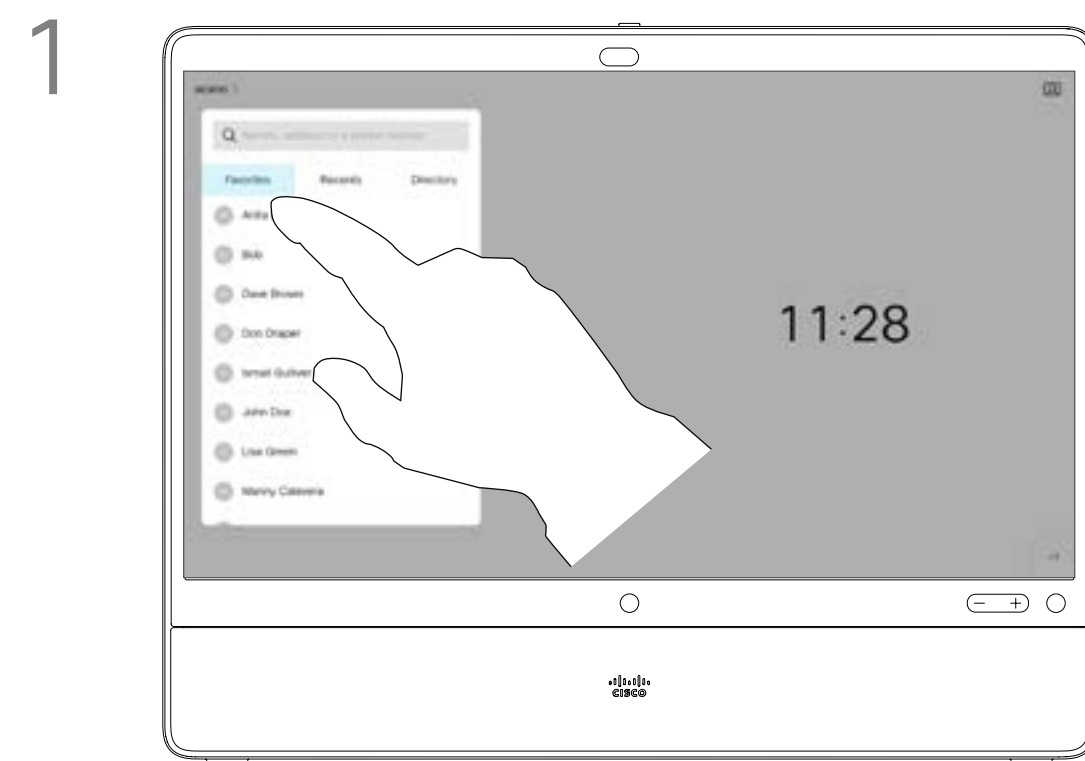


図のように、[お気に入り] が金色の星印で表示されます。お気に入りリストからエントリを削除するには、連絡先の中のお気に入りに移動して、この手順を繰り返します。

コンタクト 既存のお気に入りを編集する

この機能について

この機能を使用すると、お気に入りをいつでも更新することができます。



図のように、発信(図なし)をタップして、[連絡先]リストを呼び出します。お気に入りのリストにアクセスするには、お気に入り をタップします。



[お気に入り] をタップして編集します。ここで、その他をタップします。



お気に入りの編集をタップします。



お気に入りのエントリを編集して、保存をタップして変更を適用し、終了します。変更を適用しない場合は、キャンセルをタップします。



カメラ制御

カメラ制御

自画面のオン/オフを切り替えます

自画面とは

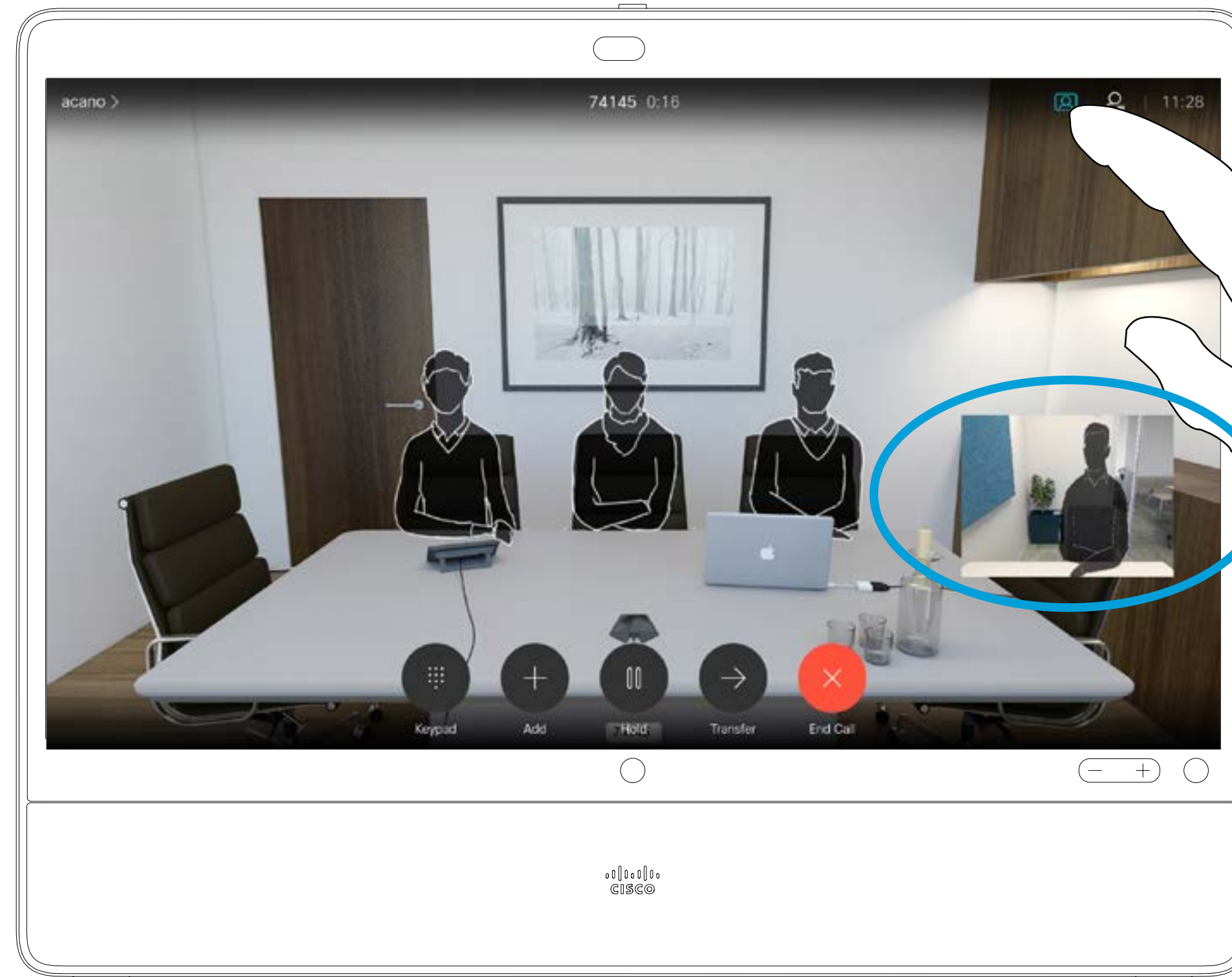
セルフビューには、デバイスから他の人に見えるものが表示されます。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

セルフビューは、PiP(ピクチャ イン ピクチャ)として表示されます。

スケジュール中に、セルフビューをアクティブにしたいときがあります。たとえば、画面に自分を表示し続ける場合です。

左に示すようにタップして自画面をアクティブ化または非アクティブ化します。

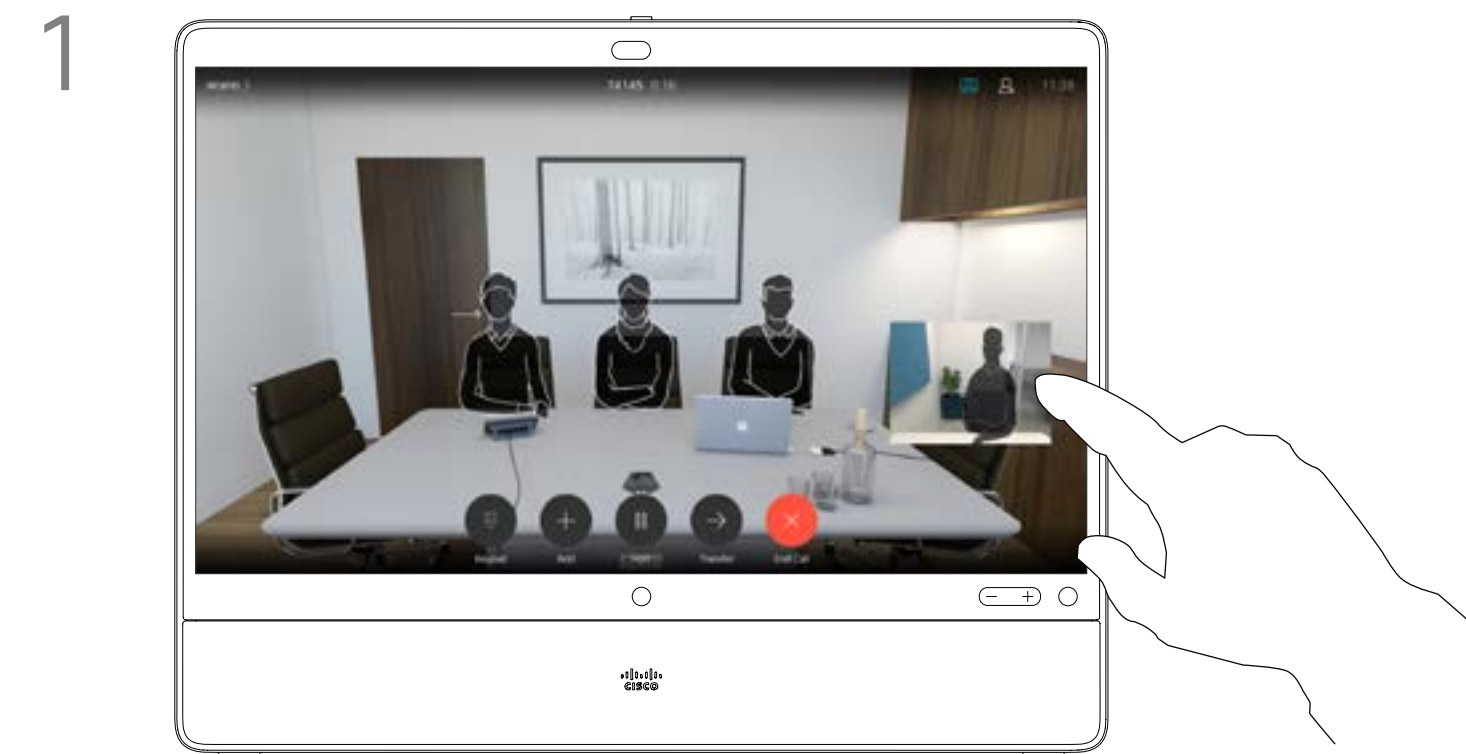
自画面の現在の位置により、画面上で画像の重要な部分が見えなくなる場合があります。このため、移動できます(詳細については、次のページを参照してください)。



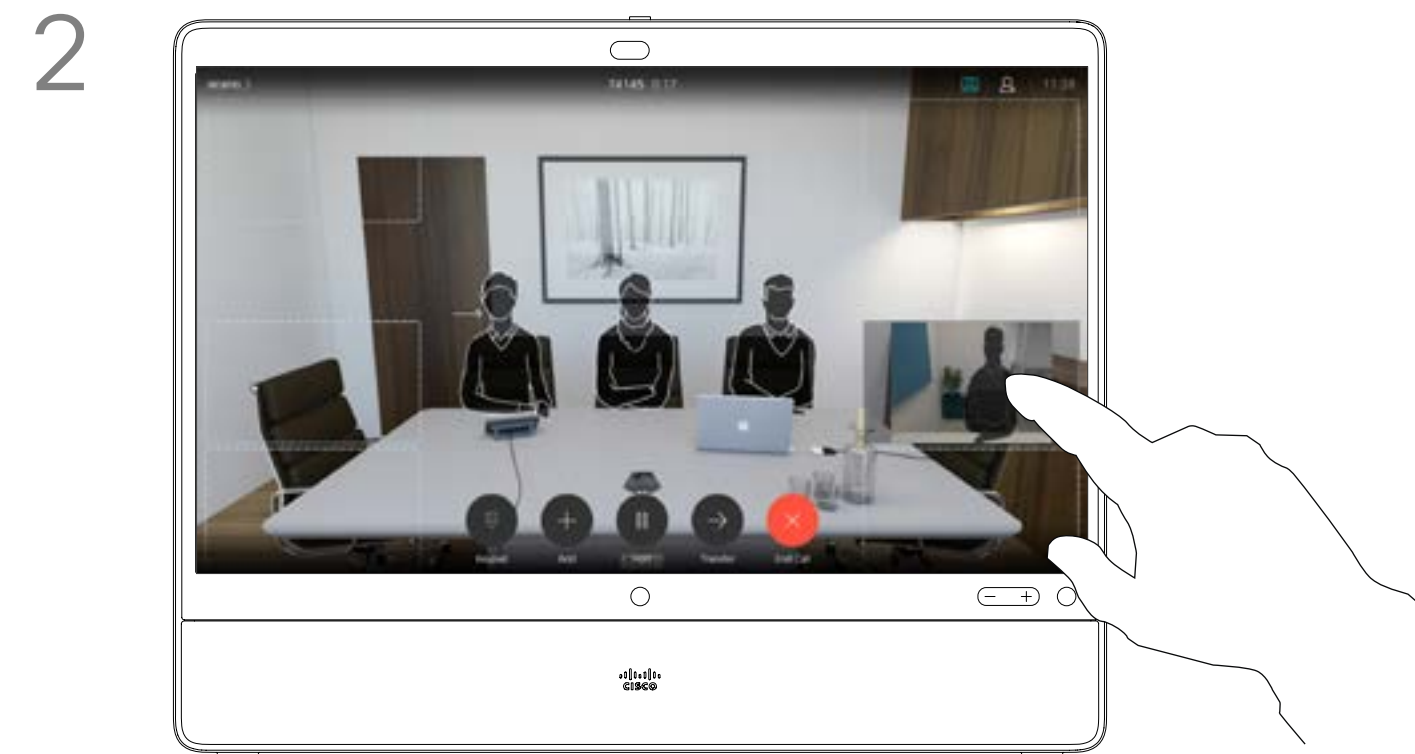
カメラ制御

セルフビュー PiP を移動する

セルフビューを移動する理由



セルフビュー画像をタップして長押しします。



セルフビュー画像を表示できる別の位置が示されます。画像をタップし続けます。



画像を新しい位置にドラッグします(ここでは左上隅に表示します)。



画面から指を離して、画像を公開します。セルフビューの画像が新しい位置に移動しました。

セルフビューには、デバイスから他の人に見えるものが表示されます。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

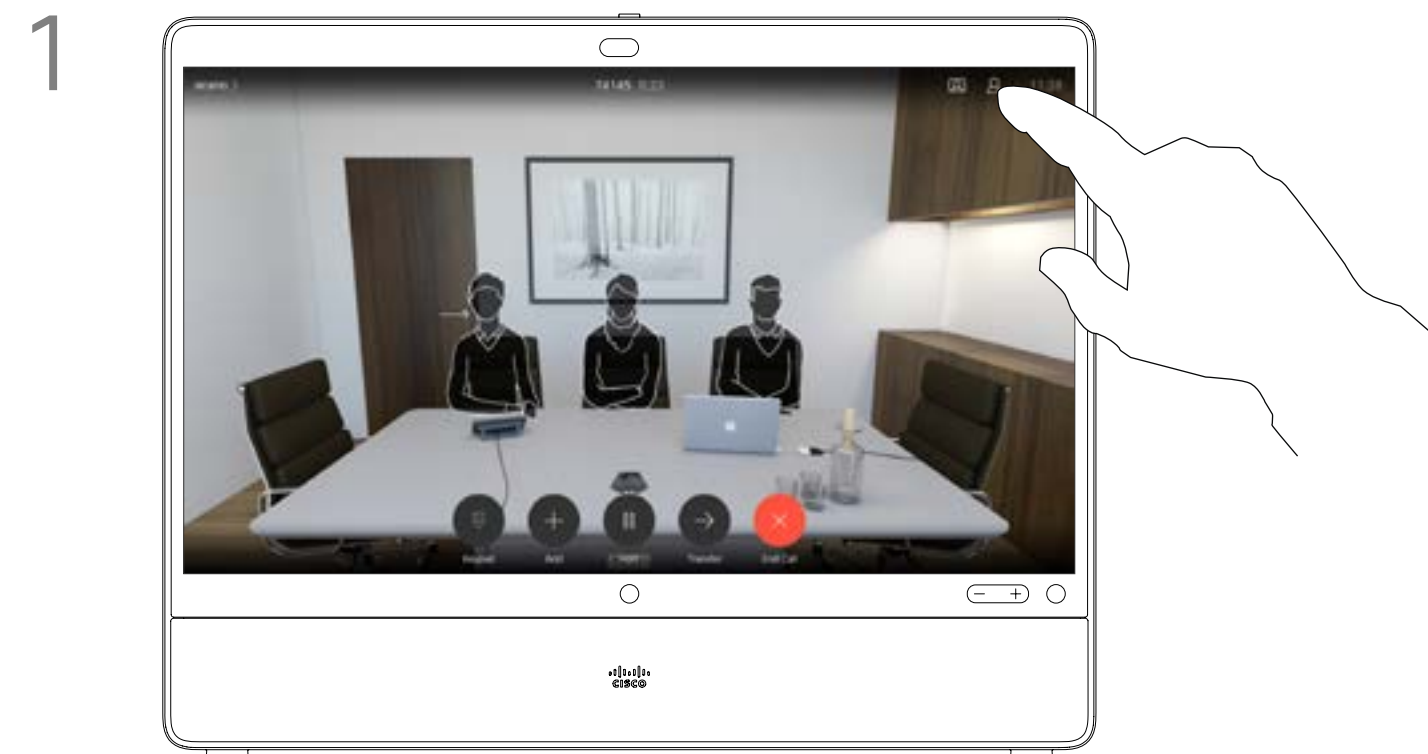
セルフビューは、PiP(ピクチャ イン ピクチャ)として表示されます。

スケジュール中に、セルフビューをアクティブにしたいときがあります。たとえば、画面に自分を表示し続ける場合です。

セルフビューの現在の位置により、画面上で画像の重要な部分が見えなくなる場合があります。これを行うには、セルフビューを移動します。

カメラ制御 遠端カメラ制御

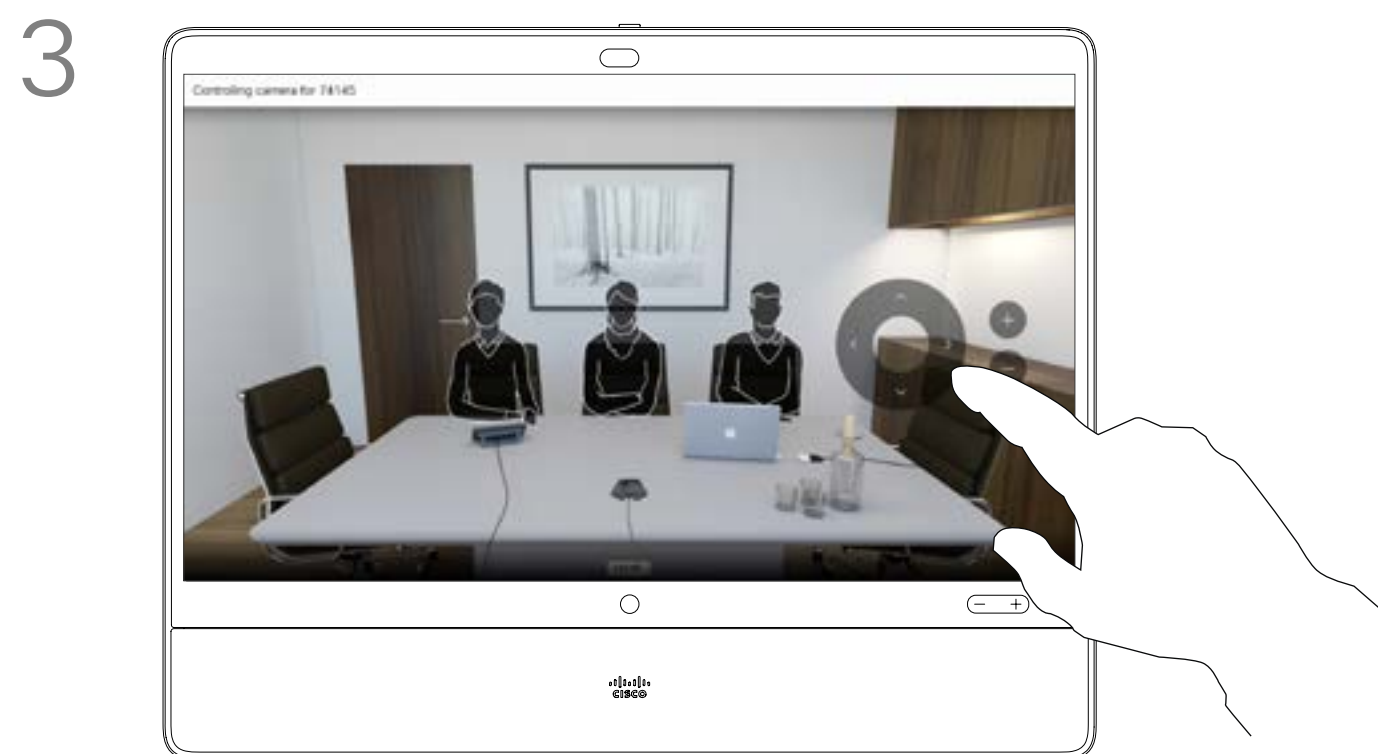
カメラ操作について



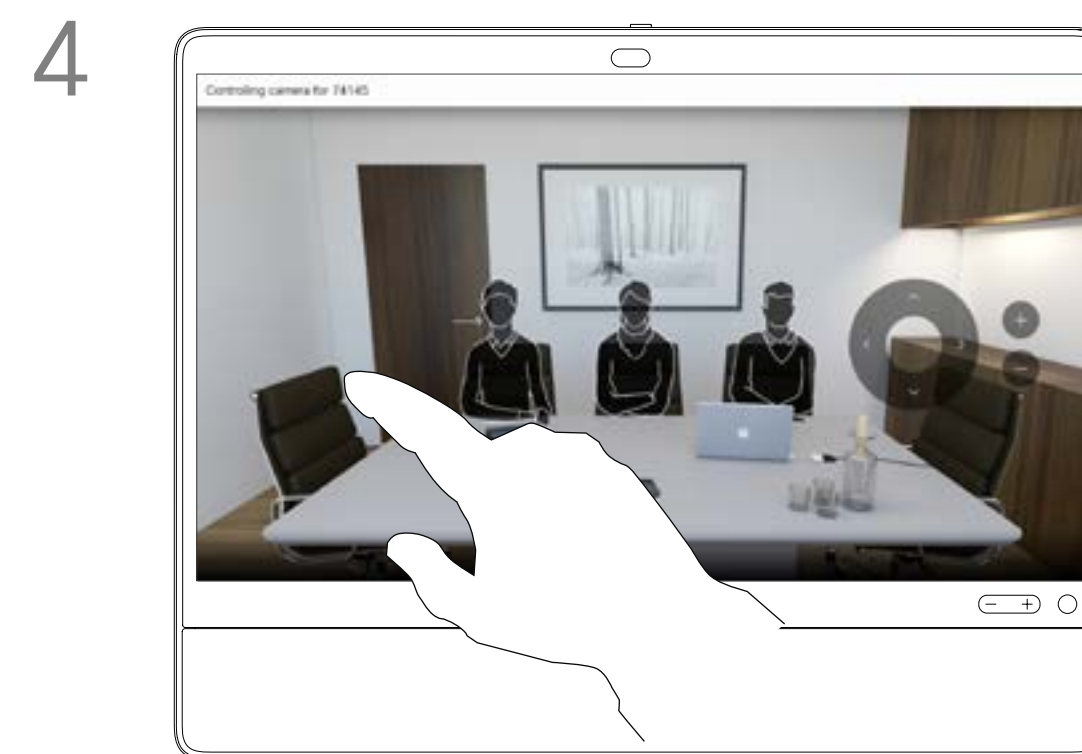
参加者アイコンをタップします。



カメラを制御する参加者をタップし、カメラをタップします。



必要に応じて、パン、チルト、ズーム制御を使用します。



完了したらコントロールの外部の場所をタップします。

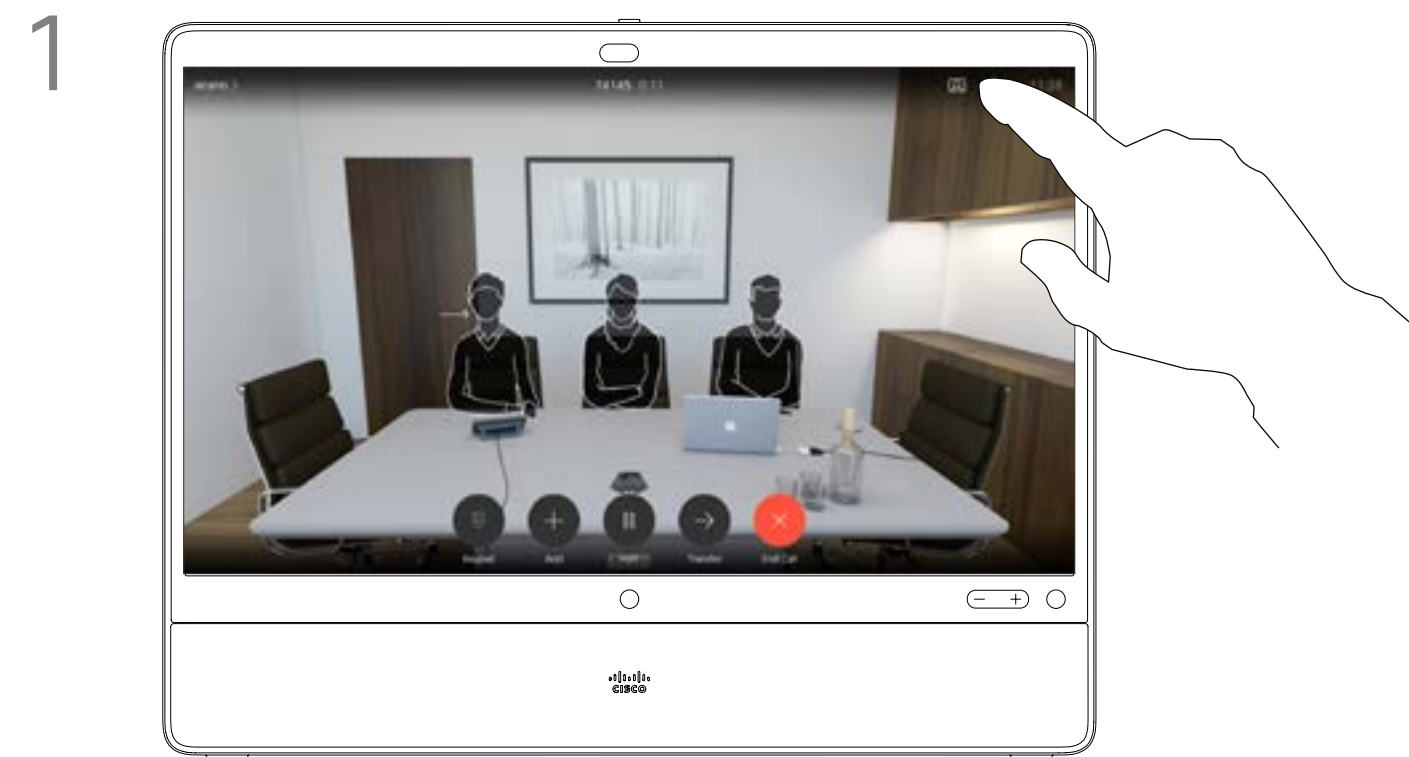
ビデオコール中に、他のデバイスのうちの1つ以上がリモートで制御可能なカメラを使用している場合があります。

その後、自分のデバイスからこれらのカメラを制御することができます。これは、Far-End Camera Control (FECC; 遠端カメラ制御FECC) と呼ばれます。

遠端システムによってカメラトラッキングがアクティブ化されている場合(この場合、カメラがプレゼンターを追跡し、表示します)、FECC のオプションは表示されません。

カメラ制御 ビデオ背景

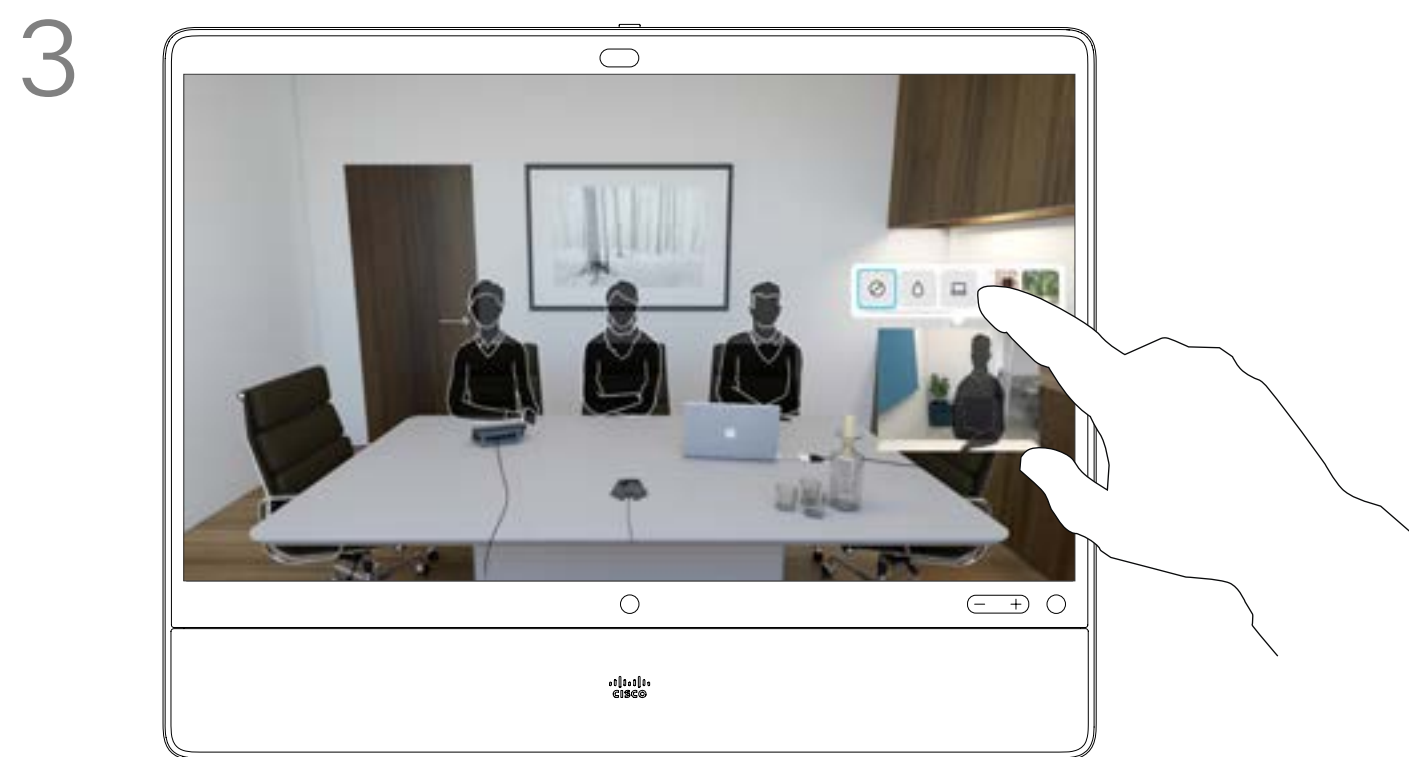
背景について



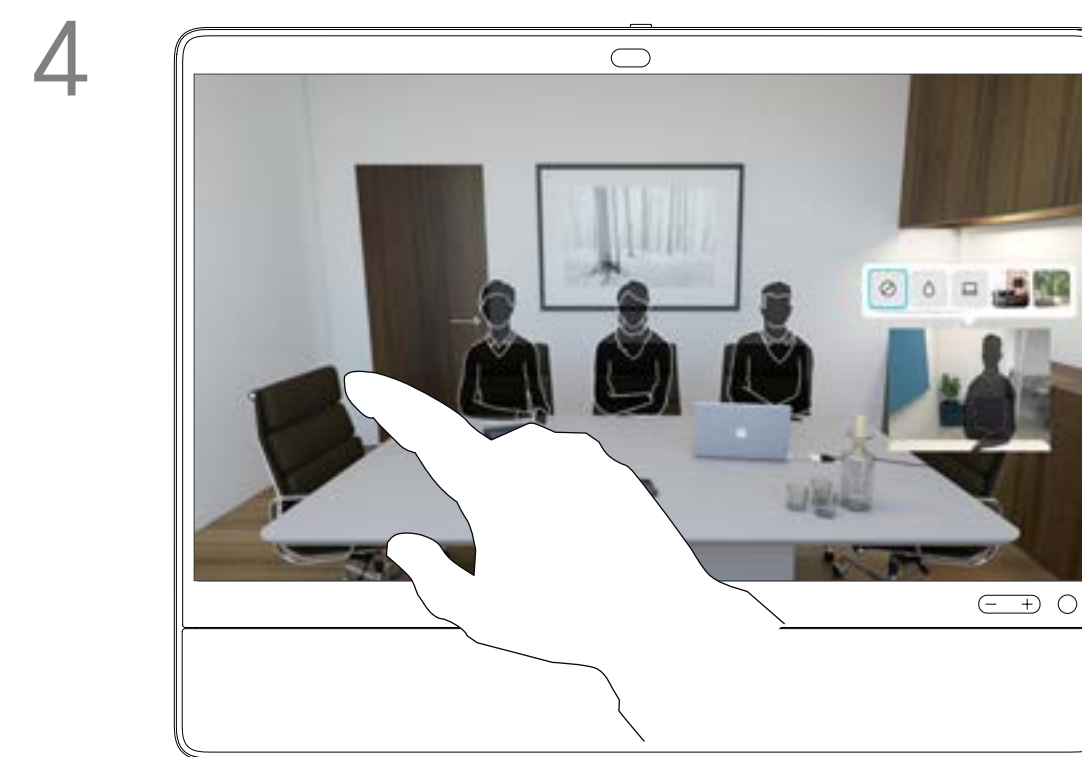
セルフビュー アイコンをタップします。



セルフ表示画像をタップして、背景オプションを開きます。



ぼかしまたは画像の背景を選択します。



完了したらコントロールの外部の場所をタップします。
セルフビューを閉じるには、セルフビューアイコンをもう一度
タップします。

ビデオの背景を使用すると、ビデオミーティングで他のユーザに表示される画像の背景を変更したり、ぼかすことができます。これにより、画像の焦点を絞ったり、オフィスにいる煩雑な背景を隠すことができます。

ビデオ背景を有効にするには、設定に移動し、ビデオ背景を選択してから背景をオンにします。

背景のオプション:

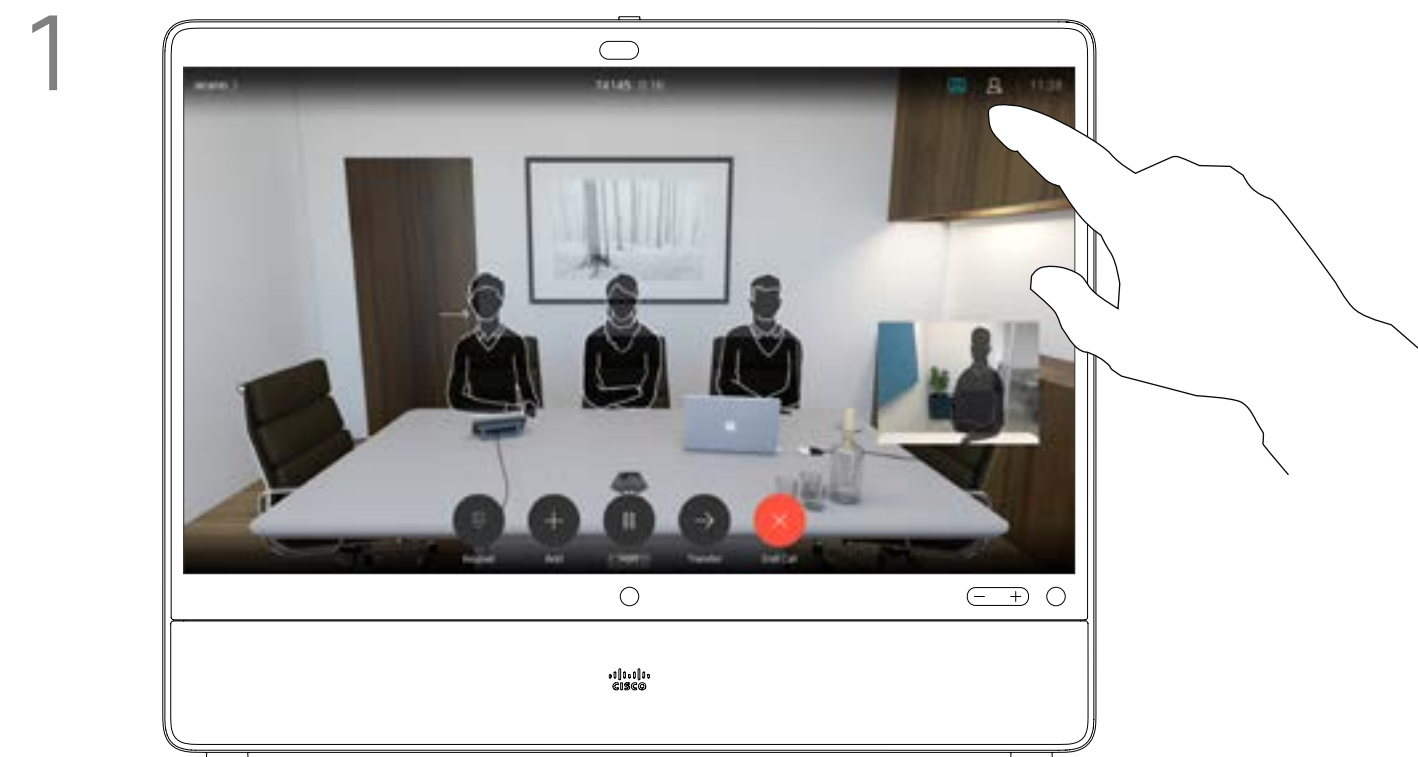
- ・ バックグラウンドのぼかし
- ・ 背景としてのコンピュータ画面共有 (Desk Pro に接続されている場合)
- ・ 3 つの標準背景画像
- ・ カスタム背景画像 (カスタム画像が管理者によってアップロードされている場合)

メモ: 背景のぼかしは完全には適用されない場合があります。また、ビデオ会議の他のユーザにも機密情報が表示される可能性があります。

カメラ制御 手動カメラ制御

手動カメラ制御について

デスク Pro が最適な概要を自動的にフレームにします。状況によっては、フレーミングを調整する必要がある場合があります。デジタルズームは 2 倍までです。



自画面 アイコンをタップします。



セルフビューの画像をタップしてカメラビューを調整し、カメラのオプションを開きます。



最適な概要を切り替えます。



カメラ制御を使って、パン、チルト、ズームの必要な調整を行います。

メニュー以外の場所をタップしてメニューを閉じます。自画面画像を閉じるには、自画面アイコンをもう一度タップします。



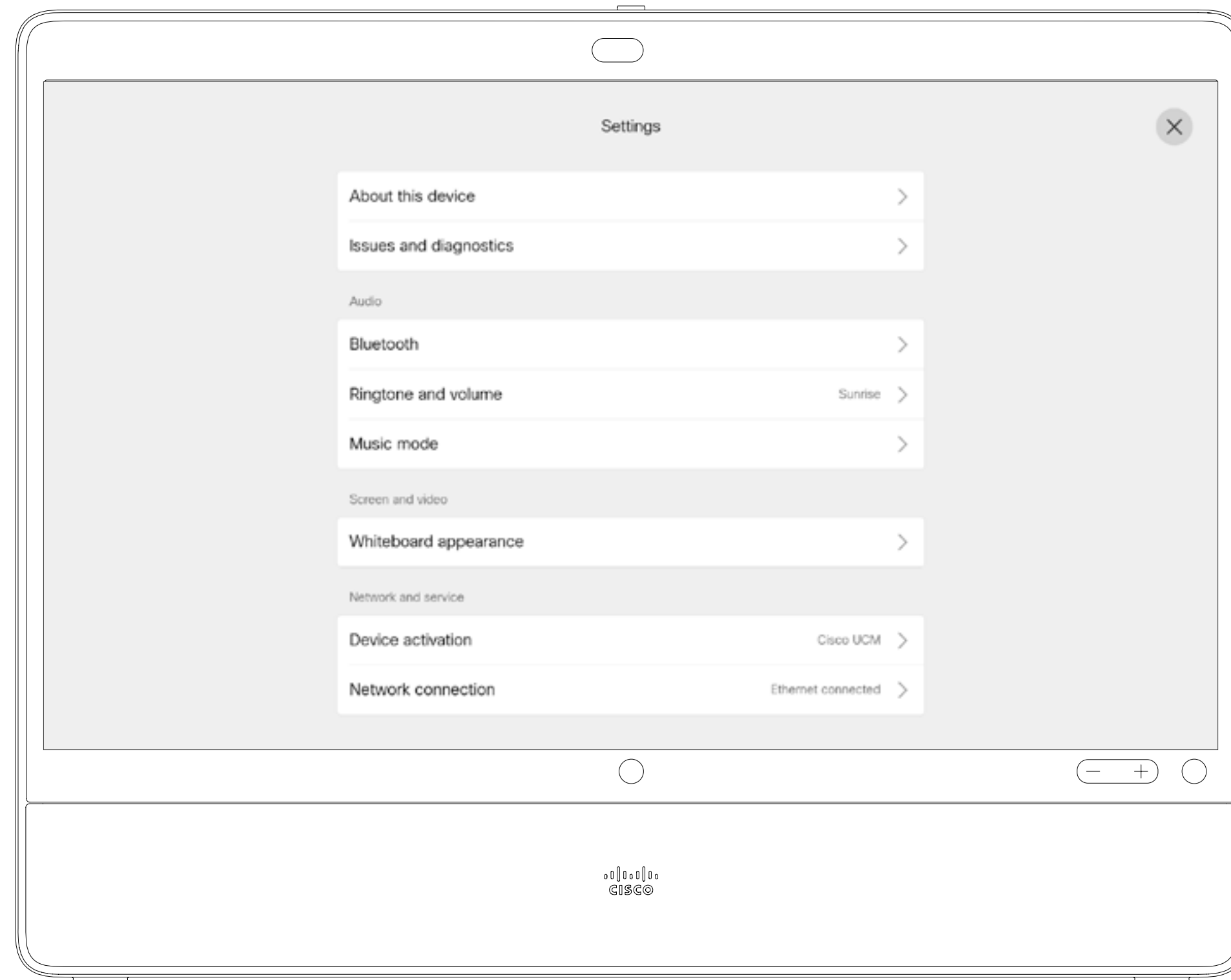
設定

設定

利用可能な設定

設定メニューから、デバイスの情報を確認したり、設定をいくつか変更することができます。使用可能な設定は、管理者によって制限されている場合があります。

- ・ ビデオアドレス情報、IP および MAC アドレス、SIP プロキシ、および現在のソフトウェアバージョンを提供します。
- ・ ビデオの背景をオンまたはオフにします。
- ・ Bluetooth を有効化および無効化します。
- ・ 呼出音を選択し、呼出音の音量を設定します。
- ・ コール サービスを選択します。
- ・ 有線またはワイヤレス (Wi-Fi) 接続から選択します。
- ・ デバイスを再起動します。
- ・ 工場出荷時リセットを実行して、工場出荷時のデフォルト設定に戻します。これを行うと、現在の登録が失われます。工場出荷時の初期設定へのリセット操作を元に戻すことはできません。



アクセス設定

ホーム画面の左上隅にあるデバイス名を選択して、設定に移動します。設定をタップします。



北中南米本部
Cisco Systems, Inc.
San Jose, CA

アジア太平洋本社
Cisco Systems(USA)Pte. Ltd. シンガ
ポール

ヨーロッパ本社
Cisco Systems International BV Amsterdam、
オランダ

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号はシスコの Web サイト(www.cisco.com/go/offices)をご覧ください。

Cisco および Cisco ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、www.cisco.com/jp/go/trademarks をご覧ください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)